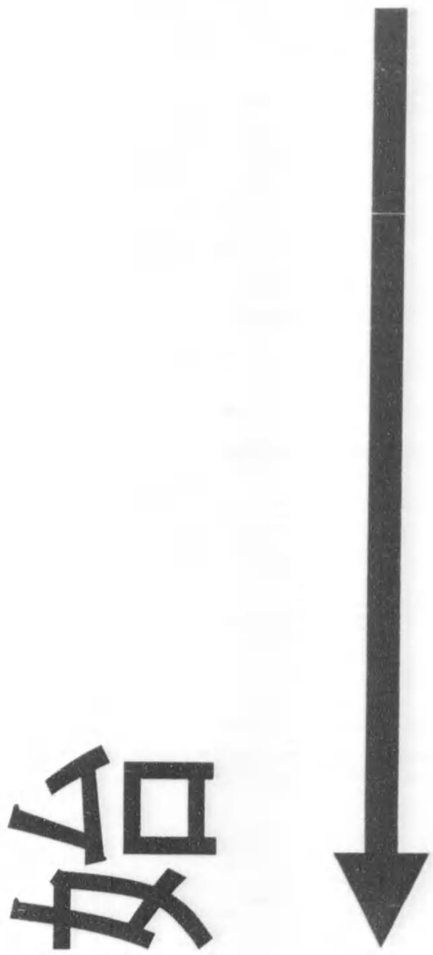

袋口

324
623

324-623

教行信證附錄

目次

第一　異本解說……一—四六
第二　校正標異……四七—二三二
第三　引文體例……二三三—二六八
第四　引文一覽……二六九—三三〇
第五　索引……三三一—三七四

教行信證校刻緣起

大正
9.1.21
內交

異本解説

凡例

一　教行信證の異本は、寫本刊本等、その數少からず。茲に解説を試みんとするは、編者が本典を校訂するに際して、親しく檢したるものにかゝる。

一　異本の排列は、年代の順序に依る。

一　文中年號の下、括弧内に記せる數字は、西暦紀元を示し、人名の下の數字は、其生死の年を西暦紀元にて記せるなり。又書名の下の數字は、頁數を示すものと知るべし。

目次

一　報恩寺本……三頁
二　本願寺本……七
三　存覺上人筆寫本……一一

四　存覺上人延書本……一四
五　六要鈔所釋本……二〇
六　存蓮兩上人筆寫本……二一
七　寛永刻本（大谷派本山藏版）……二四
八　正保刻本……二六
九　明暦刻本（本願寺派本山藏版）……二九
一〇　寛文刻本……三〇
一一　寂如上人校訂本……三二
一二　智運校訂本……三四
一三　六要鈔會本……三七
一四　悟澄校刻本……三八
一五　佛光寺派本山藏版本……四一
一六　縮刷藏經所輯本……四三
一七　高田派本山藏版本……四四

一　報恩寺本

東京淺草報恩寺に、御草本と稱して、本典の古寫本一部を藏す。或は稱して阪東本といふ。寺傳に依るに、宗祖聖人貞永元年(一二三二)夏の頃、關東より上洛の時、箱根山にて弟子性信坊と別るゝに際し、自筆の本典一部を、その他の所持品と共に、記念のために付囑したまふ、報恩寺所傳のものは卽ちその本なりといふ。越前丹生郡糸生淨勝寺の丹山順藝(一七六〇―一八三七)之を臨寫し、現に同寺の丹山文庫に藏せらる。眞宗大谷大學には、この丹山本を影寫せるもの一本を藏し、佛教大學また大谷大學本を影寫して一本を藏す。大谷大學の山田文昭氏は、親しく報恩寺本を檢し、丹山本は殆んど原本の眞を傳へ、一見完全なる影寫と思はるゝ程に患實に臨寫せるものなることを確め得たりといふ。

六　冊

原本は方册本、六册より成る、大さ美濃半紙本に似たり。行數は八行を通常とし、六行七行若くは九行の處もあり、往々斷片の用紙ありて、僅かに二三行を存することあり。而して一行の字數は、十四字より十八字に至り、必ずしも一定せず。今各册を檢するに、

第一册　敎行二卷　總序及敎卷は墨附殘闕五紙。行卷は六十六紙。最初の表紙缺損せるゆへ、外題の有無知り難し。左の奥書あり、本文と別筆なり。

露光量違いの為重複撮影

弘安陸（癸）未二月二日釋明性讓預之

第二冊　信巻　墨附八十八紙。刊本の本巻より末巻に移る所は、行を改むるのみにして本末を分つの形跡を見ず。左の外題表紙の左邊にあり、本文と別筆なり。奥書なし。

顯淨土眞實信文類三

尙表紙見返しには、信巻末（三八）所引の涅槃經の文、「復有一臣名悉知義」の八字と、「昔者有王」より「無一王生愁惱者」に至る一百六字を書す。本文と同筆なり。

第三冊　證巻　墨附二十七紙。外題表紙の中央に在りて、左邊に名字を書すること左の如し。本文と同筆なり。奥書なし。

顯淨土眞實證文類四

釋　蓮位

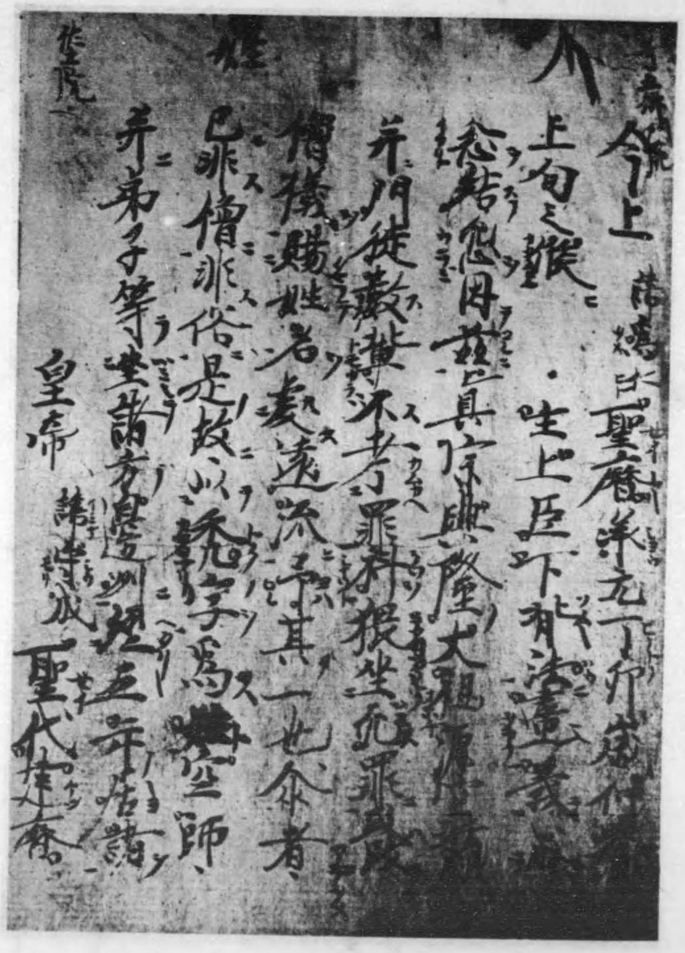
第四冊　眞佛土巻　墨附三十七紙。左の外題及名字あり、本文と同筆なり。奥書なし。

顯淨土眞佛土文類五

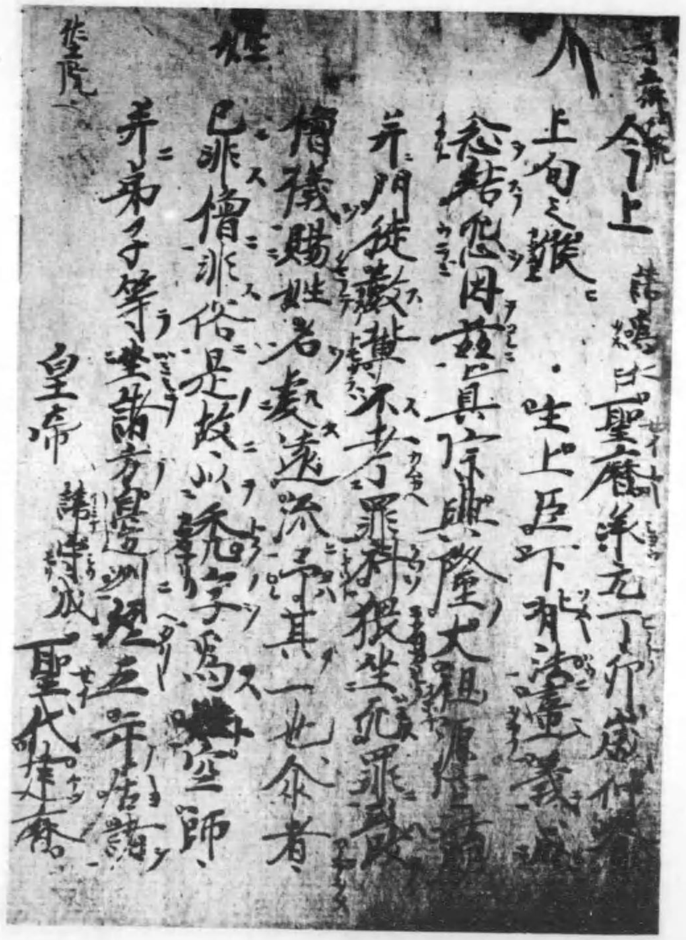
釋　蓮位

第五冊　化身土巻本　墨附五十四紙。左の外題本文と別筆にして、第二冊の外題と同筆なり。但し内題には本の字なし。奥書なし。

顯淨土方便化身土文類六本



露光量違いの為重複撮影



弘安陸未(癸)二月二日釋明性讓預之

第二冊　信卷　墨附八十八紙。刊本の本卷より末卷に移る所は、行を改むるのみにして本末を分つの形跡を見す。左の外題表紙の左邊にあり、本文と別筆なり。奥書なし。

顯淨土眞實信文類三

尙表紙見返には、信卷末(三八)所引の涅槃經の文、「復有一臣名悉知義」の八字と、「書者有王」より「無一王生悉惱者」に至る一百六字を書す。本文と同筆なり。

第三冊　證卷　墨附二十七紙。外題表紙の中央に在りて、左邊に名字を書すること左の如し。本文と同筆なり。奥書なし。

顯淨土眞實證文類四

釋　蓮位

第四冊　眞佛土卷　墨附三十七紙。左の外題及名字あり、本文と同筆なり。奥書なし。

顯淨土眞佛土文類五

釋　蓮位

第五冊　化身土卷本　墨附五十四紙。左の外題本文と別筆にして、第二冊の外題と同筆なり。但し内題には本の字なし。奥書なし。

顯淨土方便化身土文類六本

第六册　化身土卷末　墨附五十紙。外題なし。本文は初紙左面より始まる。内題には末の字なし。左の奥書あり。

弘安陸末　关二月二日釋明性讓預之

沙門性信(花押)

共に本文と別筆にして、前の行は第一册の奥書と同筆、後の行は更に別筆なり。

之に依つて見れば、外題と奥書とには、本文と別筆なるもの三種あり。而して本文は首尾同一筆にして、一説に其筆蹟他の宗祖聖人眞筆の文書に比するに、殆んど異なる所なければ、恐くは寺傳の如く聖人の眞蹟なるべしといふ。その草本と呼ばるゝ所以は、行數字數の一定せず、所々空白を存し、又間々文字を塗抹して書き改め、行間及上下の欄外に諸種の符號樣のものを記せる等、凡て體裁の整はざるものあるに依るなり。㊀　今大谷大學の佐々木月樵氏の好意によりて、化土卷末(七八)後序の一部を玻璃版となして挿入し、以て此本の面影を偲ばしむ。

此本には間々缺劃の文字を使用せるを見る。即ち賣、勢、敬、故、藤の如き、即ち是なり。一説に、缺劃の文字は宋版藏經特有の文字にして、宗祖がこの缺劃の文字を使用したまへるより察するに、聖人所覽の藏經は恐らく宋版なりしなるべしといふ。この推測を裏書するに足るは、化土卷末(七)所引の大集經の文、「爲於衆生演説法已、時諸天龍」の十二字を、報恩寺

本を初めとし、凡ての古寫本及び中古の刊本には、凡て「爲於諸天龍」の五字に作りて、衆生演說法已時の七字なきこと、全く宋版の藏經に一致すること是なり。宋藏の文、恐くは誤脫ありて意通し難きが故に、近代の刊本及び校訂本は、多く明藏によりて衆生等の七字を補へり。本典に引用せる諸經は、悉く宋藏に依れりとは容易に斷ずべからざるも、少くも宗祖所覽の大集經の宋藏なりしことは、右の文によりて之を知ることを得べし。

又此本に使用せる假名には、キを丶、ケを々、セを世、ツを宀、ユを土に作るを例とし、又間々ホを早に作れるなり。ヘ、フ、メ、玉、心等の送假名を使用せることは、殆んど之なし。又返點は「一二」「レ」「上」「下」「甲」「乙」「丙」「丁」「天」「地」「人」「五」「六」等を用ふるを普通とし、後世「レ」を使用せる處にも、常に「一二」を用ふるを例とす。又文字の一隅に四聲點の如き小圈を附せる箇所少からず。二圈横に並ぶ時には、「二」の符號を用ゆるに似たり。

次に此本の體裁の特色を擧ぐれば、

(一) 信卷本末を分たざること。

(二) 各卷の標題が表紙の左面にあること。(敎卷は表紙缺損せるが故に不明、信卷にては別序の後に在り。)

(三) 撰號が有無一定せず、其存する時は題號の直下にあること。(總序及敎卷には、撰號なし。)

(四) 字註を冠頭に記せること。

(五) 信卷末涅槃經の引文、及び化土卷末大集經の引文中に存する偈頌を、大概偈頌の體に書せること。

の五を數ふべし。此五點は古寫本成立の前後を定むる標準となすに足るものなりとす。

㊀ 無盡燈第二百十七號(大正三年四月發行)所載、山田文昭氏の「敎行信證の御草本に就て」、參照。

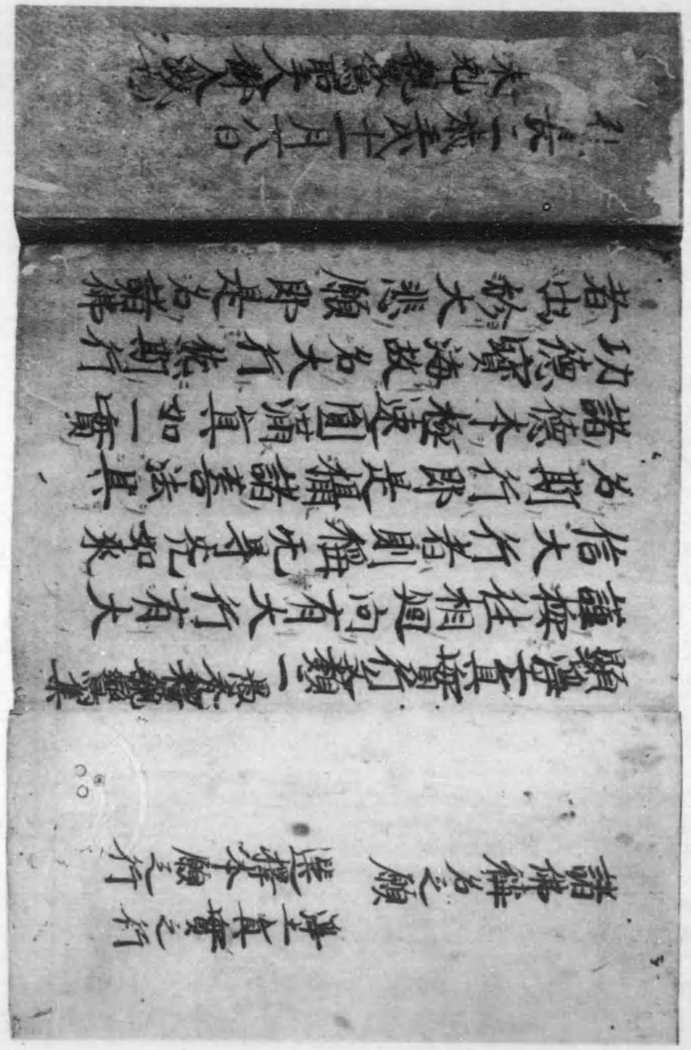
二　本願寺本

此本は我が本願寺派本山に藏する所にして、古來御眞本と稱し、宗祖聖人の親ら草稿より淸書したまへるものなりと傳へらる。傳へ云ふ、此本は蓮如上人の携帶したまへる所にして、吉崎御坊炎上の時其中の一卷が將に燒失せんとせしを、本向坊了願火中に投じ、焚死して之を救ひたりとぞ。依て俗に腹籠りの御聖敎と稱す。中古各葉裏打をなして表裝を施せるが故に、容積頗る大なり。近頃佛敎大學に於て之を影寫し、一本を藏す。

原本は方册本六册より成り、大さ半紙本の約二倍に相當す。行數は凡て七行にして、字數は十字より十四字に至りて一定せず。之を報恩寺本に比するに、字體、假名、返點、四聲點

六　册

露光量違いの為重複撮影



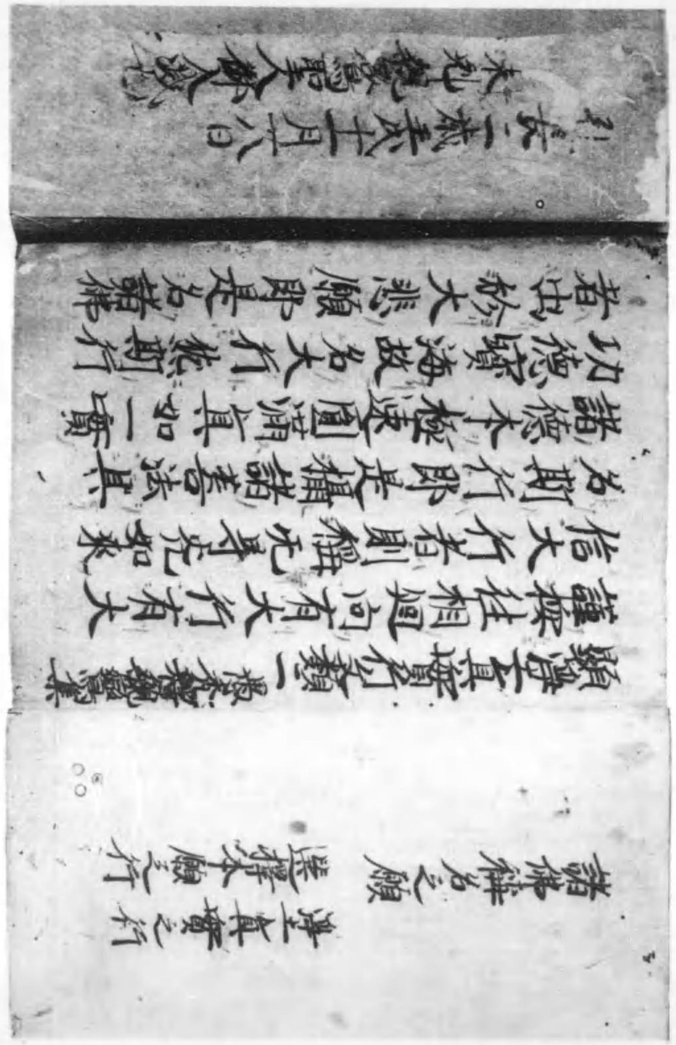
等、彼と大差なく、缺劃の文字を有することも亦彼と同じきも、音訓を示す假名及左訓の稍多きは、彼と異なる所なり。又彼に在りては、音訓、返點等、本文と同じく墨書し、間々朱書する所あるも、此に在りては、本文の文字以外、音訓、返點、四聲點等、凡て朱書し、冠註の文字も、彼は墨書し、此は朱書せるの相違あり。試に各册を檢するに、

第一册　教卷　墨附十紙。
第二册　行卷　墨附九十紙。
第三册　信卷　墨附百二十四紙。
第四册　證卷　墨附三十八紙。
第五册　眞佛土卷　墨附五十紙。
第六册　化身土卷　墨附百三十四紙、最初の表紙缺遺す。此卷報恩寺本は本末に分つと雖も、此本は然らず。最終一葉に「顯淨土方便化身土文類六」の別題を安じ、次に左の奥書あり。

和光同塵結緣之始　八相成道以論其終（シユウ　ツイニ　オワリ）
弘長二歳壬戌十一月廿八日
末覩親鸞聖人御入滅也

初の一行は朱書にて紙の右面に在り、後の二行は墨書にて左面に在り。共に本文と同筆

露光量違いの為重複撮影



等、彼と大差なく、鈌劃の文字を有することも亦彼と同じきも、音訓を示す假名及左訓の稍多きは、彼と異なる所なり。又彼に在りては、音訓、返點等、本文と同じく墨書し、間々朱書する所あるも、此に在りては、本文の文字以外、音訓、返點、四聲點等、凡て朱書し、冠註の文字も、彼は墨書し、此は朱書せるの相違あり。試に各册を檢するに、

第一册　教卷　墨附十紙。
第二册　行卷　墨附九十紙。
第三册　信卷　墨附百二十四紙。
第四册　證卷　墨附三十八紙。
第五册　眞佛土卷　墨附五十紙。
第六册　化身土卷　墨附百三十四紙、最初の表紙缺遺す。此卷報恩寺本は本末に分つと雖も、此本は然らず。最終一葉に「顯淨土方便化身土文類六」の別題を安じ、次に左の奥書あり。

和光同塵結緣之始　八相成道以論其終（シユウ）（ツイニ）（オワリ）
弘長二歳壬戌十一月廿八日
未刻親鸞聖人御入滅也

初の一行は朱書にて紙の右面に在り、後の二行は墨書にて左面に在り。共に本文と同筆

なり。此奥書の次に尙數行の文字ありたるを、裏打表裝の際、之を切取りたる形跡あり。

大谷大學に、加賀弘願寺所藏の古寫本を校合せる一本あり。校合本の奥書に曰く、

教行信證一部ハ加賀國弘願寺五代目住職蓮慶以來該寺ニ傳持シテ蓮如上人御所傳ト稱ス一部ノ顚末ヲ閲スルニ調卷ノ不同ヲ始メ標擧願文ノ位置御引文ノ體裁傍註ノ有無等現流ノ四本ト異ルモノ一二ニ非ス義解上便ヲ得ルモノ尠カラス故ニ調査ノ上其異ルトコロハ之ヲ現本ニ加書シ以テ一本ヲナス

維時明治十二年七月十日成功畢ル

この本を檢するに、一部の顚末全く本願寺本と同一にして毫も異なる所なし。而して化土卷の奥書は、此本に於ては、最終一葉の右面に

和光同塵結緣之始　八相成道以論其終（シュウ　ツイテ　オワリ）

と記し、左面に

弘長二歳壬戌十一月廿八日

未尅親鸞聖人御入滅也

御歳九十歳同二十九日戌時

東山御葬送同三十日御舍利藏

佛滅後至二千百三十五歳入末法後七百三十五歳當文永十二歳乙亥也（ナリ）

依賢劫經仁王經涅槃經等說言

と記せり。㊀ 之に依て見れば、本願寺本に於て切取られたる部分には、尙奥書四行を存したりしことを知るべし。此本は文永十二年に書寫を了したるものなれば、正しく宗祖聖人の滅後十三年に當れり。弘願寺本は不幸にも今より三十年前に燒失せりとのことなれば、僅かに校合本に依りて知るの外なきも、之と同本なりと信ずべき本願寺本は、幸にも今日まで安全に保存せられたれば、本願寺本は今日知られたる古寫本の中、最も宗祖の年代に近きものにして、頗る珍重すべきものなりとす。唯この本が果して文永寫本その物なるか、又は文永寫本を轉寫せるものなるかは、古文書學の研究を待つて後決すべきなり。弘願寺本が本願寺本と同じく蓮如上人の所傳なりと稱せらるゝより察するに、當時本願寺所傳の秘本が間々特別の恩許を以て書寫せしめらるゝの例ありしならんか。

本願寺本を報恩寺本に比するに、

(一) 化土卷本末を分たざるは彼と異なるも、信卷本末を分たざることは全く彼と同じく、

(二) 標擧の所在、

(三) 撰號の有無(共に總序に撰號を安ぜず)及び其位置、

(四) 字註の冠頭に存すること、

(五) 涅槃經及び大集經の引文中、偈頌を大概偈頌の體に書せること、

等も亦彼と同じきが故に、その形の原始的なることは疑ふべくもあらず。之に加ふるに、本願寺本にはまた次の特色あり。

(六) 總序の題前、表紙の裏に、

大阿彌陀經　友(支)謙三藏譯

平等覺經　帛延三藏譯

の二行十九字を存すること。

(七) 敎卷の前に、標擧及び標列を書せる一葉を存し、同樣の一葉がまた別に敎卷の終に存すること。

この二點が報恩寺本に於ても存せしや否やは、同本の敎卷缺損甚だしき爲め、之を知ることを得ず。

㊀ 無盡燈第二百十七號(大正三年四月發行)所載、山田文昭氏の「敎行信證の御草本に就て」、參照。

三　存覺上人筆寫本　缺本五冊

京都常樂臺に藏する所にして、存覺上人の筆寫に係る。證卷と化身土卷本末を缺き、五

冊を存す。用紙鳥の子、列朝綴。行數凡て六行。一行の字數、數卷に在りては十七字、行卷初紙左以下、一行の字數必ずしも一定せず、多きは二十字に及ぶことあり。字體、行草混用す。各卷の奥書、左の如し。

第一冊　數卷　墨附七紙、奥書一紙。

元亨四年甲子三月廿七日奉
書寫之今日者眞宗高祖導和尙
遷化之期也依有往生之懇志殊凝
渴仰之精誠而已　權律師光玄

第二冊　行卷　墨附六十二紙、奥書一紙。

元亨四歲甲子四月十五日書寫之
畢　權律師光玄

第三冊　信卷本　墨附三十八紙、奥書一紙。

元亨四載甲子五月十八日以念誦之
隙(際)終書寫之功者也　權律師光玄

第四冊　信卷末　墨附四十八紙、奥書一紙。

元亨四年甲子七月孟蘭之期

顯淨土真實教文類一　愚秃釋親鸞聖人集

謹按淨土真宗有二種回向一者往相二者還相就往相回向有真實教行信証文類六

真實教者則大无量壽經是也斯經大意者弘願海欲發菩提心者必須聞知如來出世之本願也

之實釋迦如來興於世光闡道教欲拯群萌惠

元亨癸酉　十二月廿八日書寫了

上二日若作者大人之恵是也　六十三歳

眞摩必夢百千万億之恵慕僧濃已

權律師光玄

第二冊　行卷　墨附六十二紙、奥書一紙。

元亨四歳甲子四月十五日書寫之

權律師光玄

第三冊　信卷本　墨附三十八紙、奥書一紙。

元亨四載甲子五月十八日以念誦之

隙(際)終書寫之功者也　權律師光玄

第四冊　信卷末　墨附四十八紙、奥書一紙。

元亨四年甲子七月盂蘭之期

書寫之記　　權律師光玄

第五册　眞佛土卷　墨附三十三紙、奥書一紙。

元亨四載甲子十一月廿八日書寫之

今日者作者上人之遠忌也六十三廻之

運轉如夢百千万端之戀慕催涙而已。

權律師光玄

元亨四年は存覺上人三十五歳の時なり。此年十二月九日改元して正中といふ。然れば上人が化土卷の書寫を了せられたるは、翌正中二年の春なるべく、發端より約一年を費せる譯なり。

此本は、(一)信卷本末を分つより察すれば、化土卷も定めて本末を分てるなるべく、一部八卷をなすことに於て、報恩寺本及び本願寺本の調卷と異なるも、(二)標擧の所在、(三)撰號の有無(總序と行卷に撰號なし)及び其位置に於て、報恩寺本及び本願寺本に略々一致し、(四)冠頭字註の全く存せざるとに於ては、此等兩本と同じからず、これ却てこの本の一特色をなすを見る。蓋し冠註の存せざることは、必ずしも筆者の意樂によりて略されたるに非ざるべし。筆者は、所々原本のまゝに書寫して、傍に校異又は私按を記入せるより見れば、此本は原本の忠實なる轉寫なるべく、從つて冠註の如きも、已に原本に於て之なかりし

ものと見るを至當とす。(五)涅槃經及び大集經の引文中にある偈頌か、偈頌の體に書かれたることは、前二本に一致す。此本が可なり多くの誤脫あるより察するに、恐くは其原本は宗祖の眞筆本より展轉傳寫したるものなりしならんか。但、此本の訓點讀法が、處々報恩寺本及本願寺本よりも勝れるを見るは、定めて筆者の改訂に成るものなるべし。

此本にては、古字の假名を見ること漸く少く、返點は「一 二 三 ㆍㆍ」を用ひ、「レ」は多くの場合、字間の中央に在り。「一 二」の二點を用ゆる時は「二」を略するを常とす。概して音訓の振假名、返假名、共に少し。此本は略字を用ゆること多く、その著しきものを掲ぐれば、左の如し。

廿廿(菩薩)　廿廿(菩提)　百百(醍醐)　冗冗(煩惱)　耳耳(聲聞)　女女(婆婆)　火火、冊冊(涅槃)

又同じ字が重なる時は「〻〻」を用ふ。今茲に常樂臺主今小路覺尊氏の好意により、教卷(二八)の一所と、眞佛土卷の奥書を挿入するを得たり。

四　存覺上人延書本

十七冊

佛教大學に、文化元年(一八〇四)の筆寫にかゝる延書本一部あり。教卷一、行卷三、信卷四、證卷二、眞佛土卷二、化土卷五、凡て十七帖より成る。化土卷の奥書に曰く、

延文五歳庚子正月廿二日書終之訖

書寫中無障礙終其功奉渡
之條冥慮之所致歟本望無極
者也耳　釋子

この延文寫本は我が本山の室内部に藏し、鳥の子、列朝綴、十七帖、表紙藍色にして「釋成信」の名字あり。而して奥書の名は、文化の寫本に之を書せざるは、原本の字體判明せざるが爲にして、原本に就きて見るに、恐くば俊玄の二字ならんといふ。㊀一卷本眞宗教典志に、「延書十九卷、卷尾曰、延文五歳庚子正月二十二日書之、釋子俊玄云云」と記するもの、此本を指す歟。俊玄は善如上人の諱にして、延文五歳(一三六〇)は、上人二十八歳、存覺上人七十一歳、正に六要鈔撰述の年なり。

この延文本と調卷及び内容全く相同じき一本、また佛教大學に存し、筆寫の年代詳かならずと雖も、その原本は天文二十二年(一五五三)の筆寫にかゝるものなり。化土卷の奥書に、

此書存覺聖人ノ御筆ヲ以テ寫申候但四卷目二卷同五卷メ二卷
合テ四卷ハ乘專ノ筆也此内四卷メノ本ロヨリ十丁メノ一面迄ハ存覺
聖人ノ御筆也
天文廿二年癸丑七月十二日相調候畢

又眞佛土卷の終に、

本云寛元五年二月五日以善信聖人御眞筆秘本加書
寫校合訖文義字訓等
重委註畢
隱倫尊蓮六十六歳
今年聖人七十五歳也
本云康永二歳癸未五月十七日以漢字之眞
本延寫于和字授與之　願主　乗智

とあり。此二所の奥書によりて察するに、此延書本は、康永二年（一三四三）存覺上人五十四歳の時、乗智の所望によつて延書せられたるものなるべく、其後十七年、延文五年に善如上人の之を書寫せられたるもの卽ち延文本にして、而して更に百九十三年を經て天文二十二年に何人かの書寫せるもの、卽ち天文本なりとなすべし。本典の延書は、恐くは存覺上人の手に成れるものを嚆矢とすべく、古來世に流布せるものは、皆その傳寫本に外ならざるべし。萬延二年（一八六一）大谷派本山に於て印行し、又明治十四年坊間に出でたる延書本は、共に存覺上人延書本の傳寫本に據りたるものなり。

佛教大學所藏の二種の延書本を檢するに、その調卷及び紙數左の如し。

第一册　教卷　十五紙。
第二册　行卷之一　五十九紙。　初より四〇頁「依易行道矣」に至る。
第三册　行卷之二　六十紙。　四〇頁「光明寺和尙云」より、八三頁「又云專心專念」に至る。
第四册　行卷之三　四十六紙。　八三頁「智昇師集諸經禮懺儀下卷云」より、終に至る。
第五册　信卷之一　四十六紙。　本卷初より、三一頁「發起我等無上信心」に至る。
第六册　信卷之二　五十八紙。　本卷三一頁「貞元新定釋教目錄卷第十一云」より、終に至る。
第七册　信卷之三　延文本七十一紙、天文本六十紙。　末卷初より、四七頁六臣六師列名の終に至る。
第八册　信卷之四　延文本七十一紙、天文本六十九紙。　末卷四七頁「又言善男子」より、終に至る。
第九册　證卷之一　延文本三十七紙、天文本三十三紙。　初より、二三頁「無有一世界一佛會不至也」に至る。
第十册　證卷之二　延文本四十三紙、天文本三十三紙。　二三頁「靡公言」より、終に至る。
第十一册　眞佛土卷之一　延文本六十一紙、天文本四十八紙。　初より三九頁「是名聞見」に至る。
第十二册　眞佛土卷之二　延文本四十三紙、天文本三十五紙。　三九頁「淨土論曰」より、終に至る。

露光量違いの為重複撮影

第十三冊　化土巻之一　延文本四十六紙、天文本三十六紙。本巻初より、二〇頁「故名用功至重獲報爲也」に至る。

第十四冊　化土巻之二　延文本四十四紙、天文本四十一紙。本巻三一頁「然今據大本」より、六二頁「故名善知識」に至る。

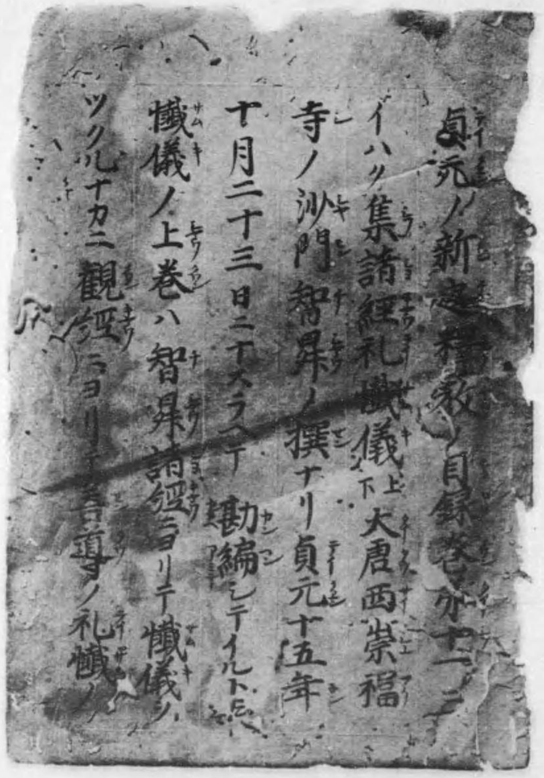
第十五冊　化土巻之三　延文本四十六紙、天文本三十九紙。本巻六二頁「華嚴經言」より、終に至る。

第十六冊　化土巻之四　延文本六十六紙、天文本五十八紙。末巻初より、四六頁「決定深信罪福因緣」に至る。

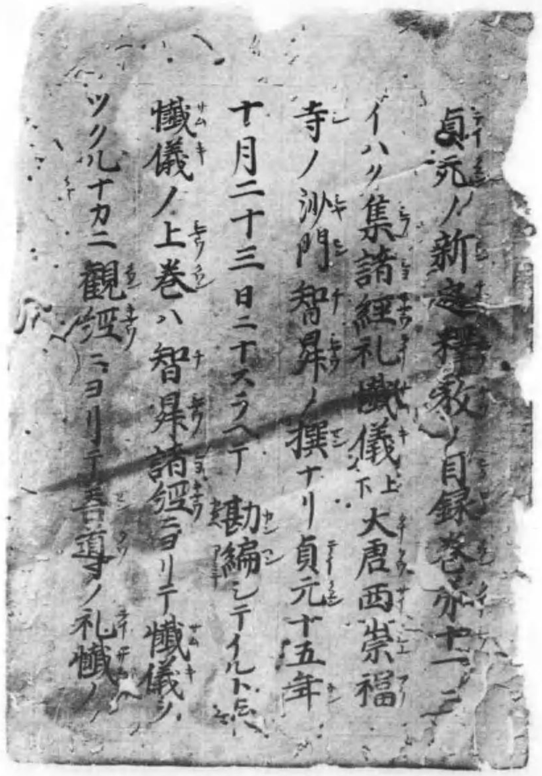
第十七冊　化土巻之五　延文本六十四紙、天文本四十八紙。末巻四六頁「首楞嚴經言」より、終に至る。

二本共に半葉五行にして、一行の文字、第六冊までは全く相同じきを以て二本の紙數同一なるも、第七冊以下は、天文本一行の文字、延文本より多きが故に、紙數の相違を致せり。而して延文本は總振假名附にして左訓少く、天文本第八冊信巻の終までは、振假名少くして左訓多く、第九冊以下は、振假名左訓共に稀なり。延書の刊本は刊行の際多少の改訂を加へあるを以て姑く措き、今二種の寫本に就きて延書本の特色を擧げんに、

（一）信巻及化土巻を本末に分たざること、本願寺本の如し。



露光量違いの為重複撮影



第十三冊　化土卷之一　延文本四十六紙、天文本三十六紙。本卷初より、二〇頁「故名用功至重獲報爲也」に至る。

第十四冊　化土卷之二　延文本四十四紙、天文本四十一紙。本卷三一頁「然今據大本」より、六二頁「故名善知識」に至る。

第十五冊　化土卷之三　延文本四十六紙、天文本三十九紙。本卷六二頁「華嚴經言」より、終に至る。

第十六冊　化土卷之四　延文本六十六紙、天文本五十八紙。末卷初より、四六頁「決定深信罪福因緣」に至る。

第十七冊　化土卷之五　延文本六十四紙、天文本四十八紙。末卷四六頁「首楞嚴經言」より、終に至る。

二本共に半葉五行にして、一行の文字、第六冊までは全く相同じきを以て二本の紙數同一なるも、第七冊以下は、天文本一行の文字、延文本より多きが故に、紙數の相違を致せり。而して延文本は總振假名附にして左訓少く、天文本第八冊信卷の終までは、振假名少くして左訓多く、第九冊以下は、振假名左訓共に稀なり。延書の刊本は刊行の際多少の改訂を加へあるを以て姑く措き、今二種の寫本に就きて延書本の特色を擧げんに、

（一）信卷及化土卷を本末に分たざること、本願寺本の如し。

(二) 撰號は總序及信卷別序になし。

(三) 標擧の所在不定にして、教卷は題前に標列の初に標擧を掲げ、行卷と眞佛土卷は題後文前に、信卷は別序の餘白に、而して證卷と化土卷とは表紙の裏に在り。(延文本證卷に標擧なきは、定んで文前の一紙缺逸せるが爲なるべし。)

(四) 本願寺本教卷表紙裏に見る所の「大阿彌陀經」等の文字なきこと、常樂臺本の如し。

(五) 字註の本文中にも冠頭にもなきこと、また常樂臺本の如し。

之に依て觀れば、延書本はその體裁に於て著しく古本の面影を存することを知るべし。

茲に挿入せるは、佛教大學の尭氏祐祥氏所藏の零本延書本にして、信卷之二の初なり。表紙の一端に「眞實信文類三本下　教口」とあり。名字の下の花押より察するに、恐くは東本願寺の教如上人に屬せるものならんといふ。

㊀六條學報第百四十六號(大正二年十二月發行)所載、鷲尾教導氏の「教行信證文類及同延書本古寫本傳考」、參照。

㊁六條學報第百〇三號(明治四十三年五月發行)所載、尭氏祐祥氏の「教行信證延書に就て」、參照。

五　六要鈔所釋本　八冊

六要鈔は、その奥書によれば、延文五年、存覺上人七十一歳の時に完成せるものなり。其所釋の原本は、常樂臺所藏の上人筆寫本とも同じからず、又上人延書の原本とも異にして、その體裁より察すれば、大に原始的の形を失ふまでに修補せられたるものと考へらる。即ち、(一)調卷か一部八卷なること、(二)各卷の標擧か一樣に題後文前に安ぜられ、(三)撰號は各卷はもとより、總序の前にも之を安じて、信卷別序と協調を保てるが如きは、その體裁を整ふることに意を用ひたるを證すべし。又報恩寺本及び本願寺本に存する冠註の中、字註に屬するもの十五ありて、此等は皆常樂臺本及び延書本に存ぜざるに、六要鈔所釋本には之を存したるものゝ如く、現に行卷に於て三所(二六、二七、五〇)、信卷本に於て一所(一〇)の字註は、六要鈔に於て之を釋せるを見る。但、此等の字註か冠頭に存せしか、はた本文中の挾註となれるかは、之を知るに由なし。之を要するに存覺上人の時には數種の寫本存せしが、後年上人所得の善本が、六要鈔所釋の原本となりしなるべし。

此本の行數字數は如何といふに、六要鈔の釋によりて推測する時は、半葉十二行、一行十七字詰なりしか如し。即ち化土卷本(三一)の「然今據大本」以下の文を釋するに當りて、然今以下、至之願也、四丁半餘、百十二行、私御釋也。

といひ、其中また、

自初至是也、二十、一行餘、粗亘三經述自解義。

といへり。この二十一行餘といふもの、予か校訂本に於て見るに、亦正しく二十一行餘となれるか故に、一行の字數は之と同しく十七字なりしこと明かなり。而して百十二行が四丁半餘の中に收まれるより見れは、半葉十二行と計算して、正に四丁半と四行を餘すこと、なる。㊀此本は頗る體裁の整へるものなれば、化土卷末の一部によりて全部を推定し、半葉十二行、一行十七字詰となすに於て、決して過なかるへしと信す。

㊀顯淨土教行證文類徵決(興隆)卷一(眞宗全書本二二頁)參照。

六　存蓮兩上人筆寫本　八冊

此本は存如上人と蓮如上人が分擔して書寫せられたるものにして、我か本山に藏する所なり。用紙鳥の子、列朝綴、六行十七字詰なり。各冊表紙右下に「釋性乘」の名字あり。第一、第二、第六、第八の四冊に奥書あり。

第一冊　教卷

寶德三年辛未八月十六日

釋　存如（花押）

第二冊　行卷

寶德二年八月一日奉書寫畢

右筆　蓮如（花押）

第六冊　眞佛土卷

寶德二年八月十一日奉書寫了

右筆　蓮如（花押）

第八冊　化土卷末

右此鈔者親鸞上人之御作也而

加州木越光德寺住持性乘

依所望無難去所令許與之也

於國中縱雖有所望之仁不蒙

本寺之許者楚忽不令書寫者也

寶德三年辛未八月十六日

大谷本願寺住持釋存如（花押）

此本の六要鈔所釋本と一致する所は、（一）調卷の八冊なること、（二）各卷の標擧が題後

寶德三年辛未八月十六日

大谷本願寺住持釋存如（花押）

此本の六要鈔所釋本と一致する所は、（一）調巻の八册なること、（二）各巻の標題が題後

顯淨土眞實教行證文類序

大阿弥陀經　友謙三藏譯

平等覺經　帛延三藏譯

竊以難思弘誓廣大難度海大船无等光明破

无明闇惠日然則淨邦緣熟調達闍世興逆

害淨業機彰釋迦善根選安養斯乃權化仁

寶德三年辛未八月十六日

大谷本願寺住持釋存如

顯淨土眞佛土文類五

愚禿釋親鸞　集

光明無量之願　壽命無量之願

謹按眞佛土者佛者則是不可思議光如來

土者亦是无量光明土也然則酬報大悲誓

寶德三年辛未八月十六日

大谷本願寺

顯淨土眞佛土文類五

愚禿釋親鸞 集

光明無量之願　壽命無量之願

謹按眞佛土者佛者則是不可思議光如來土者亦是无量光明土也然則諸佛大悲誓願故曰眞報佛土既而有願即光明壽命之

寶德二年八月十一日書畢

在判

文前に安ぜられたるも、(但、教卷の標擧は前紙標列の前に存すること、本願寺本の如くなるを異とす)にして、又本願寺本に一致する所は、(三)撰號の位置は題後の一行に安ずるも、(但教卷にありては題の直下にあり)、その有無一定せざると(總序に撰號を安ぜず)、(四)教卷の終に標擧及標列の一紙を添ふること、是なり。而して此本に於て初めて見る所は、(五)本願寺本の教卷表紙裏にある「大阿彌陀經」等の二行十九字が、總序の題後文前に移されたること、(六)冠註が凡て本文の挾註となれること、(七)化土卷本の終、題號の後に撰號あること、(八)化土卷末の終、題後に、

今此教行證者祖師親鸞法師選述也立
章於六篇調卷於六軸皆引經論眞文各
備往生淵色誠是眞宗紹隆之鴻基實教
流布之淵源末世相應之目足卽往安樂
之指南也

の跋あること、是なり。後世の寛永・正保・明暦・寛文の四種の刊本に共通なる型が、この本に於て已に成立せることは、大に注意すべし。

七　寛永刻本　八冊（或四冊）

寛永十三年（一六三六）孟春、中野市右衛門の刊行する所、美濃半紙版にて、九行十七字詰なり。是れ實に本典上木の嚆矢にして、良如宗主の學林創設に先だつこと正に二年なり。此本刊行の後百四十年、安永五年（一七七六）に大谷派本山の藏版となる。當時已に板木燒失して年久しく、板元また展轉して、丁字屋九郎右衛門と錢屋庄兵衛の共同にて、その燒株を所有せるを、大谷派本山に於て買上げたるなり。降つて天保十一年（一八四〇）之を覆刻し、幾多の訂正を加へたるもの、之を現行の寛永本とす。訓點讀法の訂正頗る多しと雖も、暫らく誤字を訂正せる箇所を擧ぐれば、左の如し。

教卷	二	行	卷	三八	信卷本　一四
信卷末	一九			六	眞佛土卷　三
化土卷本	二四		化土卷末	三五	合計　一四一

斯くして天保再刻本は大に改善せられたりと雖も、尙多くの誤字と脫字を有する儘、世に行はれたり。

此本は存蓮爾筆本の型に同じと雖も、其異なる所は、（一）總序題後文前の文字が、

大阿彌陀經　吳月支國居士支謙譯

也、亦復有横出、即三輩九品定散之教他土化
懈慢迂迴之善也、大願清淨報土、不云品位
階次、一念須臾頃速疾超證无上正眞道故
曰横超也、大本言超發无上殊勝之願、又言
我建超世願、必至无上道、名聲超十方究竟、
靡所聞誓、不成正覺、又言必得超絶去往生、
安養國横截五悪趣、悪趣自然閉昇道无窮
極易往而无人、其國不逆違、自然之所牽、
大阿彌陀經言（支謙三藏譯也）可得超絶去往生阿

斯くして天保再刻本は大に改善せられたりと雖も、尙多くの誤字と脫字を有する儘、世に行はれたり。

此本は存蓮兩筆本の型に同じと雖も、其異なる所は、（一）總序題後文前の文字が、

也、亦復有横出、即三輩九品定散之教化土、
懈慢迂迴之善也、大願清淨報土、不云品位
階次、一念須臾頃速疾超證无上正眞道故
曰横超也、大本言超發无上殊勝之願、又言
我建超世願、必至无上道、名聲超十方究竟、
靡所聞誓、不成正覺、又言必得超絶去往生、
安養國横截五悪趣、悪趣自然閉昇道无窮
極易往而无人、其國不逆違、自然之所牽、
大阿彌陀經言（支謙三藏譯也）可得超絶去往生阿

平等覺經　後漢月支國三藏支婁迦讖譯

の二行三十字なること、(二)敎卷の終に標擧及標列の一紙を添へざること、(三)信卷本の終に左の奥書あること、是なり。

本云寛元五年二月五日以善信聖人御眞筆
秘本加書寫校合訖　隱倫尊蓮六十六歳
又云元弘三歳癸酉從初春上旬之候厚孟夏下
旬之天終書寫微功畢於寫本者以聖人
眞秘本加寫合云云於當本者以松影助阿
之證本重令校合而已　釋乘專三十九歳
曆應四歳辛巳十二月廿八日遂筆覩之漸
寫畢殊迎本願寺聖人之御絲日慮外終
右毫之功聖人定垂納受小賢宜協知見
者歟可喜可尊凡於此書者念佛成佛之
咽喉諸門超勝之眞路悲喜交流感涙難
抑而已

又文字訓點等も、兩筆本と一致せざるもの多し。

今茲に挿入せる玻璃版は、右は初刻の本にして左は天保再刻の本なり。初行の「他」が「化」に、第三行の「頗」が「頃」に改められ、第八行の「國」の字の假名が削られたると、覆刻本の文字が概して肉細になれるとに注意すべし。

八　正保刻本

寛永本は、その天保再刻本の訂正によりて知らるゝ如く、多くの誤字を有するのみならず、文字の脱落せる箇所も亦頗る多く、本典最初の刻本たる名譽を荷ふと雖も、拜讀の爲にも、はた研鑽の爲にも不便尠からざれば、その板木の上に誤字及び脱字の訂正をなし、正保三年(一六四六)を以て大に改善せられたる本を刊行せり。之を正保本となす。寛永本刊行の後、正に十年なり。故に寛永本と正保本とは、訂正されたると否とによりて姑く之を別つと雖も、實は同一の板木より成れる同本たるに外ならず。正保本の終に「正保丙戌仲春吉旦中野氏是誰重刊行」といへる重刊の二字は、即ち新に板木を刻せるに非ざることを示すものなり。この板木は、中頃大阪の書林野村長兵衛なるものゝ手に入りて後、大阪にて焼失し、唯焼株のみ野村の所持せるを、明和二三年の頃(一七六五)京都書林錢屋庄兵衛之を買取り、後丁子屋九郎右衛門と共有するに至れるなり。大谷派本山が安永八年にその焼株を

八　冊（或四冊）

當得故是故說言一切衆生悉有佛性大喜大
捨者即是佛性佛性者名大信心何以故以
信心故以菩薩摩訶薩則能具足檀波羅蜜
乃至般若波羅蜜一切衆生畢定當得大信
心故是故說言一切衆生悉有佛性大信心
者即是佛性佛性者即是如来佛性者名一
子地何以故以一子地曰緣故菩薩則於一
切衆生得平等心一切衆生畢定當得一子
地故是故說言一切衆生悉有佛性一子地

當得故是故說言一切衆生悉有佛性大喜大捨者即
是佛性佛性者即是如來佛性者名大信心何以故以
信心故以菩薩摩訶薩則能具足檀波羅蜜
乃至般若波羅蜜一切衆生畢定當得大信
心故是故說言一切衆生悉有佛性大信心
者即是佛性佛性者即是如来佛性者名一
子地何以故以一子地曰緣故菩薩則於一
切衆生得平等心一切衆生畢定當得一子
地故是故說言一切衆生悉有佛性一子地

も、はた研鑽の爲にも不便勘からざれば、その板木の上に誤字及び脱字の訂正なし。正保三年（一六四六）を以て大に改善せられたる本を刊行せり。之を正保本となす。寛永本刊行の後、正に十年なり。故に寛永本と正保本とは、訂正されたると否とによりて姑く之を別つと雖も、實は同一の板木より成れる同本たるに外ならず。正保本の終に「正保丙戌仲春吉日中野氏是誰重刊行」といへる重刊の二字は、卽ち新に板木を刻せるに非ざることを示すものなり。この板木は、中頃大阪の書林野村長兵衛なるものゝ手に入りて後、大阪にて燒失し、唯燒株のみ野村の所持せるを、明和二三年の頃（一七六五）京都書林錢屋庄兵衛之を買取り、後丁子屋九郎右衛門と共有するに至れるなり。大谷派本山が安永八年にその燒株を

買上げ作ら、天保年間に再板を起すに當りて、不完全なる寛永本を撰び、而も手數の少なき覆刻をなすに止まり、折角先人の勞苦に依りて改善せられたる正保本を取らざりしは、如何なる事情の存せしかを詳にせずと雖も、頗ぶる遺憾とすべきなり。

寛永本の天保再刻本が、誤字を訂正せる數は前に之を擧げたり。而して脫字を補へるもの、確かに證卷(三)に於て一箇所一字あるのみなるが、正保本が寛永本の脫落を補へるもの、實に左の如き多數に及ぶを見る。

化土卷本	一(字數一)		化土卷末	七(字數八)			
證卷本	一八(字數一〇〇)		眞佛土卷	一一(字數五三)			
信卷本	一六(字數二九)		信卷末	一〇(字數一〇)			
教卷	二(字數三)		行卷	一一(字數一三)			

合計七六(字數二一七)

其他誤字を訂正せるもの、一部を通じて九十箇所、剩字を削れるもの七箇所、二十三字、其他の訂正四箇所ありて、寛永本が如何なる程度まで改善せられたるかを推知すべし。但寛永本の改むべからざるを改め、又は誤字に代ゆるに誤字を以てせる箇所もなきに非ず、その數凡て二十四あり。若し夫れ正保本が讀法を明かにし、訓點を改め、左訓を加へたる箇所に至つては、殆んど枚擧に遑あらず。正保本が此の如き大なる改訂を寛永本の上に

加ふるに就きては、必ず據る所の原本を有せしや明かなり。而してその原本は存蓮兩筆本の型にて、寛永本の原本に比して遙かに優れるものなりしことを推知すべし。彼の寛永本は、上木の際に愼重なる注意を缺きて、多少の形誤脫落を生ぜしならんも、元來その原本が頗る不完全なるものなりしことは、疑を容れず。

板木の上に訂正を加ふる方法は、訂正すべき場所を切取りて塡木をなし、その上に文字を彫るなり。正保本が脫字を補へる所は、一行若くは數行の字數增加し、時には半葉若くは一葉を全部改刻せる所もあり、剩字を削れる處には、間々空字を存せるもありて、毫も體裁の見苦しきを顯みるに暇なかりしは、蓋し止を得ざる所なりとす。

此本は寛永本と同本なるを以て、其特色また彼と異なることなし。但、總序題後文前の二行三十字が、正保本に在りては、存蓮兩筆本の二行十九字に復歸せるの異あるのみ。

此處に掉入せる玻璃版は、右は寛永本にして左は正保本なり。初行に於て「說」の一字を、次行に於て「佛性者卽是如來」の七字を補はんが爲に、初の二行を改刻せるを見る。又第四行の「畢」の左に音を加へ、第四行と第八行の「當」の左に送假名を附し、第五行の「言」の送假名を改めたり。而して二本が同一の板木たることは、左側の框の罫線が二箇所、共に缺け居るによりても、知ることを得べし。

九　明暦刻本

明暦三年(一六五七)正保本の刊行に後るゝこと十一年にして出づ。美濃半紙版、八行十七字詰なり。板元は丁子屋九郎右衞門なり。此本刊行の後百十九年、安永五年(一七七六)に、當時共同所有者たりし丁子屋九郎右衞門と錢屋庄兵衞より、我が本山に買上げて、藏版となす。之より先き右の兩人は、その共有にかゝる本典、六要鈔、同會本の板を賣拂ふの意あり、我が本山之を買上げんとするや、大谷派本山また之を得んとし、事態頗る紛糾せるも、雙方互讓の結果、大谷派本山は寛永本燒板の株と、六要鈔會本とを買上げ、我が本山は明暦本と六要鈔とを買上ぐることゝなれり。此板木、本典は七十一枚、紙數二百七十九枚、六要鈔は七十二枚、紙數二百八十四枚、價格合計銀拾八貫三百八十匁にして、大阪十二講の寄附する所となる。此時書林兩名の所有せる本典寛文板は、東西本山の抱板とするの約成り、兩本山は各銀八百六十匁を書林に交附して、夫々四分之一の權利を得、爾今寛文板は兩本山の許可なくして賣拂はざるは元より、再板の場合にも漫りに改訂せざることを誓約せしめたり。

此明暦本は、後五十一年を經て、文政十年(一八二七)に改刻せられたるが、㊀此際數箇所文字の訂正をなせるものゝ如し。而して天保九年(一八三八)には、之を縮刻して小本となし、寛永・正保・寛文の三本と此本との異を校して冠頭に揭げ、又別に追加校異を綱して、右の校異に漏れ

八　冊(或四冊)

たるもの、並に古本、文明本、六要鈔及び所引の原本との異を、一册に蒐めたり。玄雄勘學その業に從事せりといふ。

此本は存蓮兩筆本の特色を悉く具有し、且つ文字訓點等、殆んど兩筆本に異ならざるより察するに、原本は兩筆本の忠實なる傳寫本たりしなるべし。此本が古來書林の間に本願寺點と呼ばれしことは、偶々本願寺所傳の本に基きて開板せることを證するに非ざるか。天保改刻の小本には、敎卷終りの標擧及び標列の一紙を除けり。

小本追加校異中に參照せる文明本に就きては、下の智遇校合本の下に記する所あるべし。又同じく校異の中に古本と稱するは、その傳來全く知る能はざるも、校異によりて察するに、文字訓點共に、比較的正しきものなるが如し。

㊀ 眞宗全書所收、本典六要板木賀上始末記、參照。

㊁ 佛敎大字彙六九九頁「敎行信證」の項の下、參照。

一〇 寛文刻本　八冊（或四冊）

明暦本に後るゝ十六年、寛文十三年（一六七三）（或は云ふ、寛文九年）河村利兵衛の開板する所、美濃半紙版、九行十七字詰なり。後福森兵右衛門なる者の手に入りし爲め、福森版の稱あり。後展轉して丁子屋九郎右衛門と錢屋庄兵衛の相合板となる。此板が東西兩本山の抱板となり、書林は摺本を賣るのみにて、板木は兩本山の同意なくしては賣渡又は改刻を許されざるに至れること、明暦本の下に記せるが如し。世に流布せる本典に、此本最も多きは、安永以來唯一の坊刻本なりしが爲なるべし。

此本は後に出でたるだけに、多くの改訂を施こされ、前の三本よりは比較的善良なるものなり。殊に化土卷末に於て、改良の跡の顯著なるを見る。是れその原本が前の三本の原本より善良なるに依るべしと雖も、また開板の際注意深き校訂を加へたるにも依るべし。此本は、(一)標擧が各卷皆題後文前に存することゝ、(二)撰號が總序にも存して信卷別序と協調を保てることに於て、六要鈔所釋本と全く一致せるを見る。蓋し六要鈔に基きて體裁を整へたるものなるべきか。但、信卷本に撰號を安ぜざるは、奇とすべし。

上來四種の刊本が、前後三十七年の間に、相踵きて世に出でたることは、偶々此時代が宗學興起の初運に當りて、本典の需要が頗る盛なりしを示すものなり。而して四種の刊本は、夫々異なれる寫本に原づきて刊行せるものなれば、多少の相違あるを免かれざるも、大體に於て存蓮兩筆本の型を出でざれば、此等の原本は、恐くは兩筆本の展轉傳寫せられて數種の異本となれるものなるべし。然るに古來書林の間に寛永・正保二本を高田點と稱し、明暦本を本願寺點と稱し、寛文本を佛光寺點と稱し、諸本を三本山に配當するは、何の據

る所あるやを知らず。尤も明暦本は存蓮兩筆本に最も近きを以て、之を本願寺點と稱するは理由なきに非ずと雖も、他の二者に至つては輙く之を信ずべからず。天保年間に開板せる佛光寺藏版の本典は、坊刻の寛文本を、同寺秘藏の古本と經論の原文とによりて校正したるものなるが、これは古來の寛文本が佛光寺點と呼ばれて同寺所傳の古本と關係あるが爲と考ふるよりも、當時他の刊本は兩本願寺の藏版に歸して、坊間に存するものは一の寛文本のみなりしが爲と考ふるを穩當なりとす。又近年の刊行になる高田派本山藏版本を檢するに、寛永・正保二本と何等似通ふたる點を見出すこと能はざれば、この二本を高田點と稱することは、甚だ疑はしきことなりとす。㊀

㊀六條學報第百八十五號（大正六年三月發行）所載、妻木直良氏の「本典の製作年代を論じて古版四種の底本に及ぶ」參照。

一一　寂如上人校訂本　八冊

貞享三年（一六八六）寂如上人が親しく殿中に於て講じ、文字訓點を訂正せられたるものなり。本願寺通紀卷三、寂如宗主傳、貞享三年の條下に曰く、「五月朔日、宗主於二祖殿北餘間一、親講二祖書一、聽徒唯限二連枝院内餘堂衆五等一、七月八日解座」と。本典徴決卷一、異本を辯ずる下に貞享校

本として之を擧げ、この講會には、能化知空輔翼し、願成寺願空、雲晴寺德應、考藏し、三階及び堂衆預り聞くといへり。此本轉寫して間々世間に存し、現に廣島眞宗學寮に一本を藏す。雲幢の後裔が近年學寮に寄附せるものなりといふ。

今眞宗學寮所藏本を見るに、當時講本に用ひられたるは寛永本にして、第二第四の兩册を除きて、各册卷頭に講會の始終を記す。即ち左の如し。

第一册　教卷

貞享三龍集丙寅歲五月朔寂如様御講釋發端

第三册　信卷本

五月十二日發端同十五日終

第五册　證卷

丙寅五月廿九日初六月三日終

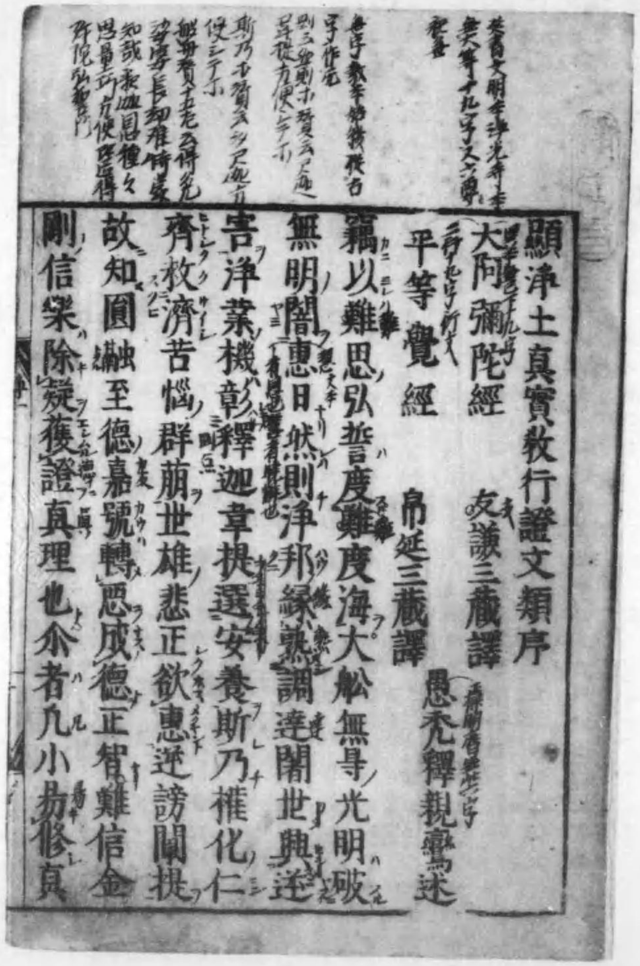
第六册　眞佛土卷

六月二日御講初同十二日畢

第七册　化土卷本

六月十四日御講初同廿五日畢

第八册　化土卷末



六月廿六日初同七月八日終

同じく卷尾に

貞享第三丙寅歳五月朔日始七月八日御講譚終

凡經三十四會也

寂如宗主講書の方針は、義門を研究するとは簡略に從ひ、誤脫訓點を訂正すること、讀誦の故實を授くること、例へは撰號や挾註は下音に讀むこと、字音又は迄假名の清濁を辨ずること等に、特に力を致すにありしが如し。然るに其改訂が、偏に所引の經論の文相に順じて、深く宗祖引用の別意を究めざりしとは、後世學者の遺憾とする所なり。

一三　智暹校訂本　四冊

播州魚崎眞淨寺智暹（一六九〇―一七六八）が、諸本を校合して改訂を加へたるものなり。其年時を詳にする能はざるも、法如宗主の命を奉じてその業に從ひ、之が上梓の費をも募りて本山に獻じたりと傳ふるより察するに、寶曆五年（一七五五）彼の競爭者たる義教が能化職に就きしため、志を得ずして鄉里に歸りたる以前の事業なりしならんか。此校訂本は、不幸にして本尊義事件の爲に妨げられて、終に上梓を見るに至らず、爾來その寺に秘藏せられて今日に及

べり。幸に備中笠岡淨心寺に、この本を轉寫せるもの存し、寺主津田明導氏の好意により
て、借得轉寫することを得たり。其奥書に曰く、

皆安永三甲午天仲秋頃借得東播遊心和尙校本於光蓮靈昌轉寫之寫之其後
十一月頃又借得福泉圓識入建仁兩足之寶庫校涅槃大集等文本再校之安永
四乙未正月十九日畢功吉備中州法性山淨心教寺釋明淳廿有六霜

之に依れば、此本には智還の校合に混じて、圓識の記入も數多存すべく、加之、一所「圓識點」と
記して別の訓點を附加せる外、「忍點」といふもの六、「剛點」といふもの七、「剛云」といふ記入三
所あるより察するに、少くとも三人の記入の存在せることを知るべし。圓識の名は、智還
の門弟中に存するを見るも、他の二人は未だ之を檢出せず。

此本は、寛文本を底本とし、寛永・正保・明暦の三種の刻本は元より、左の八種の寫本をも校
合に用ひたり。

一、延書　二、文明本　三、教行寺本　四、本善寺本　五、寺内端坊本　六、同性應寺本
七、同西光寺本　八、大阪淨光寺本

これ第一冊表紙裏に記せる所なり。また同所に、

本山有三本　一聖人眞筆二冊　二存如上人筆　三蓮如上人筆
名塵教行寺有蓮上　人筆大方同明暦本

と書するも、之等の諸本は校合せざりしものゝ如し。而して教卷終の餘白に左の記入あり。

今時校合此書經論釋文各考其本並照合此書數本而歸其小當
但爲知恩報德不耻人倫哢言遇得文明古本校之示以文本字
又得教行寺本校之示以教本字其餘云異本此其例也

此本の校合は、頗る周到綿密を極む。然れども此本の特色は寧ろ讀法を改訂せる所に存し、刊本に於ける難澁なる訓點も、此本に於ては釋然として通暢するを見る。唯惜むべきは、通常祖訓と稱して別意の存するものも、大概所引の原文の意に從ひて讀法を改め、宗祖引用の微意を究むるの用意少かりしこと、是なり。此點に於て前揭の寂如上人校訂本と同じく、又讀點の一致する所頗る多し。

因に文明本といふもの、明暦小本の追加校異中にも參照せる所なるが、智運本教卷の終に左の記入あり。今「一本」といふもの、前に擧げたる校正凡例に、文明本は文本の語を以て之を示すといへるに一致せざるも、文明二年の奥書ある本を特に示せるより察するに、この一本といふもの、或は校合上珍重せる文明本を指すに非ざるか。姑く疑を存す。

一本教卷奥云
寛元五年二月五日以善信聖人御眞筆秘本加書寫校合訖

文義字訓等重委註了　　隱倫尊蓮六十一歳
又化土卷奥云　　今年聖人七十五歳也

文明二年九月上旬於河州書寫畢雖有文字不審如本寫畢

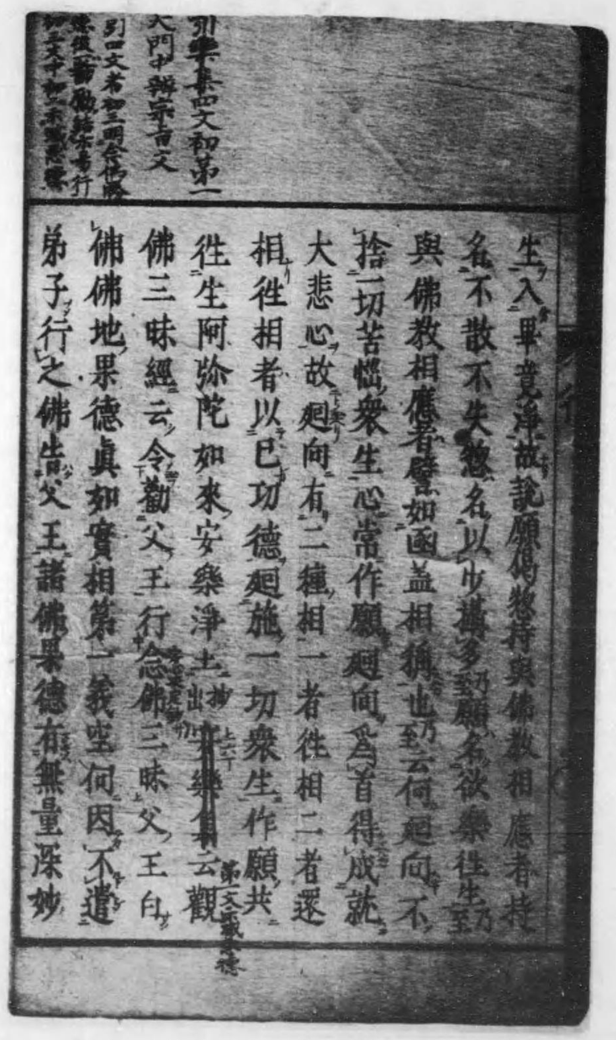
この尊蓮の奥書は、寛永本及び正保本の信卷本の終にも存し、又延書本の眞佛土卷の奥にも存する所なり。但、年齡を六十一歳とせるは、六十六歳の寫誤なるべし。この本が果して文明本なるものなりとせば、天保年間には尙存して校異の資料となりしに、今日に傳はらざること、最も遺憾とすべし。

一三　六要鈔會本

十冊

此書は、大谷派の學侶、豐後光西寺圓爾が、先考某の遺志を繼ぎて、本典と六要鈔の會合に從事し、寶暦十年(一七六〇)その業を卒へたるものなり。その成を告ぐるや、自ら携へて京都に至り、本山の允許を得て上梓を企て、僅かに教卷の刻成るの時、老疾に罹りて逝く。弟子全風、先師の遺囑を受くと雖も、資なきが爲に荏苒日を送ること七年、奮然立ちて緣を四方に募り、安永八年(一七七九)に至りて漸く剞劂の功を竣ふ。圓爾が會合の業を卒りてより、正に十

露光量違いの為重複撮影



九年の後なり。

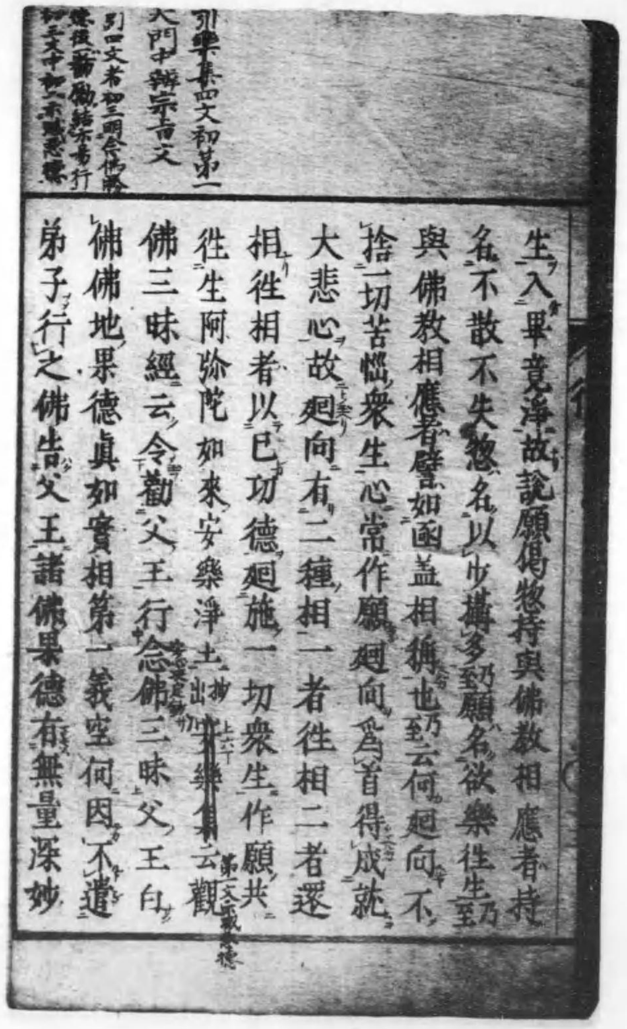
此書は本文を分節し、六要鈔の釋を細註として其間に挾めり。その本文は、世に流布せる寛永・正保・明暦・寛文の四種の刊本を對校して、一種の善本を作らんと企てたるものにして、四本の異同は之を冠頭に掲げたり。後年我が本山に於て明暦本を縮刻するに當り、餘の三本との校異を冠頭に標出せることは、恐く此書の例に倣へるなるべし。但その校異が、此書に在りては明暦縮刻本の夫の如く凡てを盡し居らざるを異とするのみ。此書が、撰號の安置、及び標擧の所在を、六要鈔に依りて一定し、大に體裁を整頓したることも、亦一特色として見るべき所なりとす。

此書は、初め錢屋庄兵衛、丁子屋九郎右衛門の板行する所なりしが、後大谷派本山に於て、之を買上げて藏版となせり。明治に入りて坊間に之を翻刻して、小本三册となす。

一四　悟澄校刻本　小本二册

天保七八年の頃（一八三六―）安藝の學徒悟澄（一八七〇―三）の上梓する所にして、安藝本の稱あり。寛永年間學林の創設以來、宗學の勃興するに伴ふて、本典の開板相尋いて起り、爾來百有餘年を經て、廣く眞宗學侶の間に本典刊本の普及を見たるが、其容積の大なる爲め携帶繙讀に

露光量違いの為重複撮影



九年の後なり。

此書は本文を分節し、六要鈔の釋を細註として其間に挾めり。その本文は、世に流布せる寛永・正保・明暦・寛文の四種の刊本を對校して、一種の善本を作らんと企てたるものにして、四本の異同は之を冠頭に揭げたり。後年我が本山に於て明暦本を縮刻するに當り、餘の三本との校異を冠頭に標出せることは、恐く此書の例に倣へるなるべし。但その校異が、此書に在りては明暦縮刻本の夫の如く凡てを盡し居らざるを異とするのみ。此書が、撰號の安置、及び標擧の所在を、六要鈔に依りて一定し、大に體裁を整頓したることも、亦一特色として見るべき所なりとす。

此書は、初め錢屋庄兵衛、丁子屋九郎右衛門の板行する所なりしが、後大谷派本山に於て、之を買上げて藏版となせり。明治に入りて坊間に之を翻刻して、小本三册となす。

一四　悟澄校刻本　小本二册

天保七八年の頃（一八三六）安藝の學徒悟澄（一八〇〇―三）の上梓する所にして、安藝本の稱あり。寛永年間學林の創設以來、宗學の勃興するに伴ふて、本典の開板相尋いて起り、爾來百有餘年を經て、廣く眞宗學侶の間に本典刊本の普及を見たるが、其容積の大なる爲め携帶繙讀に

不便尠からざるより、之を縮刻して小本となしたるものにして、これ實に小本本典の先駆なり。この企が藝州學徒の手に成りしことは、偶々その地が學問の隆盛なること、全國に冠たりしことを證すべく、本典校刻史上著大の事實たる小本の刊行は、永く藝州學界の誇とするに足るべし。

然るに東西兩本山が各藏版を有し、書林の手に在る寛文本も亦御抱板となれる上は、本典の類板重板は時の法律の許さゞる所なりしが故に、安藝本の刊行は全く秘密出版に屬し、眞宗學徒の間に私に使用せられたるに過ぎざりしなり。本山の記錄によれば、天保八年の冬、本山藏版掛大喜多左司馬、書林丁子屋庄兵衛より小本の合册本典を得、翌九年正月左司馬大阪津村御坊に出張し、同本の所持者、畿岐本正寺、同寺中快麟、並に豐前圓光寺弟子大印を取調べたる結果、大阪の書籍表紙業、播磨屋五郎兵衛が秘密版行せることを確め得たり。依て直に大阪東町奉行所へ、「裏方にも右敎行信證別祿有之候故、萬一彼方にて證跡相知れ、先訴に相成候ては甚心外云々」と訴へ出でたる爲、終に絶版を命ぜられたりといふ。その小本合册の本典といふもの、恐くは此安藝本にして、此記錄に悟澄の名を見ざるは、大阪の書林が一切の責任を負ふて刊行の任に當りたるが爲なるべし。㊀悟澄は本典改刻の爲に本山の咎を受け、終に僧籍を剝奪せられたりと雖も、この事が本山に於て小本本典を開版するの近因となりし爲、深くその宿志を遂せることを喜べりといふ。㊁本山が明暦本

の縮刻を完成したるは、實に安藝本が絕版の運命に會へる天保九年（一八三七）なりとす。

此本は本山藏版の明暦本を縮小したるものにして、行數を十行となし、處々文字の形誤を訂正したると、音訓や送假名を極度まで省略せるの外、著しき相違を見ざるも、此本には看過すべからざる出色の點あり。即ち、

（一）引文の誤字脫字の著しきものは、原文によりて傍に校異をなせること。

（二）訓讀の意義通暢し難きもの、又は誤讀の明白なるものは、自由に改めたること。

（三）正依經の異譯、七祖聖教の引文には、間々丁數を傍に記入して便覽に供せること。

（四）文句の解釋、義門の研究上、參照すべき他の聖教の箇處を、傍註として揭出せること。

是なり。之に依て、校刻者が單に其形を小さくするのみならず、宗學研究の立場より、極めて實用的のものを作らんとしたる、苦心の存することを知るべきなり。

茲に挿入せるは、佛教大學所藏の悟澄自筆書入本にして、門弟たる故滿田了誓氏の近年寄附せる所にかゝる。

㊀ 六條學報第百三十九號（大正二年五月發行）所載、鷲尾教導氏の「安藝本本典開版者悟澄小傳」、參照。

㊁ 佛教大字彙一三七九頁「悟澄」の項、參照。

一五　佛光寺派本山藏版本　小本二冊

天保十四年（一八四三）佛光寺に於て寛文本を校正して開版せるものなり。小本二冊、九行十七字詰にして、卷頭に天臺座主教仁親王と、時の宗主眞導上人の序を載せ、卷尾に左亟相齊信の跋あり。別に校正一册を附す。その校正例に、「舊刊諸本、訛謬不レ尠、今以二古本一査對訂正、使二讀者燦然一、所謂古本者、本剎從來所二珍秘一之精本也」、といふ。その底本の寛文本なることは、前に記せるが如し。然るにその古本と稱するものは、別册校正によりて之を檢するに、小本明暦本追加校異中に參照せる所謂古本なるものと、同一のものに非ざるも、文字訓點の比較的正しきものにして、其體裁は、六要鈔所釋本に酷似して頗る整頓せるものなるが如し。この佛光寺本は啻に所傳の古本を以て査對訂正せるのみならず、所引の經論の原文をも檢して對校改正せるものにして、試に別册校正によりて其箇所を數ふれば左の如し

古本に據るもの。

教卷	四	行卷	一〇	信卷本	三
信卷末	四	證卷	一	眞佛土卷	五
化土卷本	八	化土卷末	一一	合計	四六

經論に據るもの。此下化土卷本所引、末法燈明記は錯簡倒寫多端にして、此本悉く之を

改むるも、校正には一々之を擧げず。故に今之を一箇として算す。

教　卷	二	行　卷	八	信　卷本	五
信　卷末	一八	證　卷	八	眞佛土卷	一三
化土卷本	一〇	化土卷末	二〇	合　計	八四

古本及經論によりて本文を改正せず、單に別冊に於て校讎標異せるもの。

教　卷	二	行　卷	三九	信　卷本	九
信　卷末	五七	證　卷	七	眞佛土卷	二〇
化土卷本	二七	化土卷末	四七	合　計	二〇八

之に依つて見れば、此本は刊本中最良なる寛文本を、更に所傳の古本と、所引の經論とによりて校訂せるものなれば、頗る善本となれることは、疑ふべくもなし。この本は但に本文の文字のみならず、其訓讀の如きも、意義の通暢し難き處は之を改め、讀法に疑義の存する箇所は、無點のまゝに遺し置けるが如き、その用意の頗る愼重なるを知るに足るべし。送り假名の外、音訓は多く省略せられたるも、未だ安藝本の如く甚しからず。天保以後の刻本は、何れも必要なる改訂を加へて、從來の面目を一新せるを見るが、この本が後に來るべき諸本の爲に校訂の範を垂れたることは、本典校刻史上の偉勳として特筆すべき所なりとす。⊖

⊖ 六條學報第百六十六號（大正四年八月發行）所載、予が「天保以後の教行信證刻本に就きて」、參照。

一六　縮刷藏經所輯本　一冊

此本は明治十八年完成の弘教書院發行の大藏經中に收むるものにして、恐らくは本典の鉛版に上ぼされたる最初のものなるべし。半紙版にて、五號活字二十行四十五字詰なり。初め本典を大藏經の日本撰述部の中に收むるにつき、出版者より適當なる原本の提供を求め來れるを以て、眞宗各派本山協議の上、我が本山所藏の古本を選定せり。依て赤松連城・青木逡門の二氏、明如宗主の特命を受けて之を拜覽し、藏版の大本明曆本に校合を加へ、之を底本として大藏經の原稿となるべき本典を作り上げたり。この原稿を作るに際して、水原宏遠勸學の意見を參考せりといふ。

此本は體裁整備し、誤脫訂正せられて、頗る善本となり、之をその原本たる本願寺本に比するに、殆んどその原形を認むる能はざる程なり。その訓讀の如きも、意義の通し難きは之を改めたること、句讀點によりて知ることを得べし。此本にも亦左の特色あり。

（一）返點音訓等凡て省略し、句讀點を施こせること。

(二) 所引の原文と異にして而も訂正せざる箇所は、冠頭に校異をなせること。
(三) 從來の寫本及刊本には、大經述文贊及び聞持記の引文に、標を本行となし、釋を挾註となせるものあるを、標釋ともに本行に書せること。
(四) 偈頌を引くに、諸本には句間を存し、且つ前後の文と區別せるものを、凡て一連に書き續けたること。
(五) 本願寺本に於ける冠註、從來の刻本に於ける本文中の挾註を、凡て省略せること。

一七　高田派本山藏版本　四冊

明治四十五年、宗祖聖人六百五十回忌の紀念として、高田派本山に於て開版したるもの、半紙版にして二號活字を用ひ、八行十七字詰なり。此本の開版始末に就きては、何等公表されたるを聞かず、又校正例及び校異の記載なきが故に、其原本の如何を知る能はずと雖も、同本山の寶物目錄中に、宗祖眞筆の本典を擧ぐるより見れば、定めて之を底本として、その上に校訂を加へたるものなるべし。此本は少數の誤植を存すと雖も、文字及び訓點の校訂頗る周到にして、恐くは從來の刊本中、最も優秀なるものなるべし。蓋し佛光寺本・縮刷藏經本の後に出でゝ、此等二本の上に更に一歩を進めたるが爲なり。唯この本が此の

如き嚴密なる校訂を加へたるに拘らず、何等凡例を示さず、校異を載せざるは、學界の爲に甚だ遺憾とすべく、之が爲に終に學術上の價値を減ずるに至れるとは、最も惜むべきことなりとす。此本は內容に於て能ふ限りの改善を加へたりと雖も、その體裁に於ては、原始的の形を保留せるを、大なる特色となすべし。即ち、(一)調卷が信卷・化土卷、共に本末を分たざるが故に、一部六卷をなすこと、(二)標擧が表紙の裏に存すること(教卷に在りては總序の餘白に、信卷に在りては別序の餘白に在り)、(三)撰號の位置は題後の別行にあるも、その有無の不定なること(總序、行卷及び信卷別序になし)等は、報恩寺本若くは本願寺本に類する點にして、(四)字註の本文中にも冠頭にも存せざることは、常樂臺本に一致する點なりとす。而して、(五)涅槃經及大集經の廣博なる引文中に存する偈頌が、多く偈頌の體を保つことは、彼の三本と異なることなし。

校正標異

凡例

一　教行信證の諸本を、對校本と參考本に分ち、對校本は相互の異點を一々校讎して之を標出し、參考本は參考に資すべき點のみを擧げ、以て其最善なるものを採りて本文を改訂す。

一　對校本及び其略稱、左の如し。

（一）寛永刻本　寛永初刻のものを永前本と稱し、天保再刻のものを永後本と稱す。單に永本と稱するときは、二本を併せ指す。

（二）正保刻本　保本と稱す。

（三）明暦刻本　暦本と稱し、本山藏版の小本に依る。

（四）寛文刻本　文本と稱す。以上四種の刻本を併せ呼ぶときは、四本と稱す。

（五）佛光寺派本山藏版本　澁谷山の山號に依りて、澁本と稱す。

（六）縮刷藏經所輯本　縮本と稱す。

（七）高田派本山藏版本　高本と稱す。

一 參考本及び其略稱、左の如し。

(一) 報恩寺本　一に阪東本と呼ぶが故に、略して阪本と稱す。

(二) 本願寺本　本山に藏する所なるが故に、山本と稱す。

(三) 存覺上人筆寫本　存本と稱す。以上三本、對校本に准じて力めて對校をなす。

(四) 存覺上人延書本　延本と稱す。別に延文寫本を指すときは延文延本と稱し、また天文寫本を指すときは、天文延本と稱す。又刊本と區別する時は、延寫本と稱す。

(五) 六要鈔所釋本　六要鈔の釋によりて推定するものにして、六要本と稱す。

(六) 存蓮兩上人筆寫本　兩筆本と稱す。明曆本と殆んど相同じ。特に擧ぐるものゝ外は、明曆本の如しと知るべし。

(七) 寂如上人校訂本　寂本と稱す。寛永初刻本を底本とするが故に、特に擧ぐるものの外は寛永本の如しと知るべし。

(八) 智暹校訂本　暹本と稱す。寛文本を底本とするが故に、特に擧ぐるものゝ外は、寛文本の如しと知るべし。

(九) 六要鈔會本　會本と稱す。

(十) 悟澄校刻本　一に安藝本と呼ぶが故に、略して藝本と稱す。明曆本の翻刻なれば、特に擧ぐるものゝ外は、明曆本の如しと知るべし。

(十一) 古本　本山藏版小本本典に附する追加校異中に揭ぐる所。

(十二) 文明本　上に同じ。以上二本は其原本を知る能はずと雖も、追加校異に引く所に依りて之を參考す。

以上對校本と參考本の全部若しくは多數を併せ呼ぶ時は、諸本と稱し、二三本を擧げて餘を總稱するときは餘本と稱することあり。

一 本典の大部分は引文より成るが、此等の引文は凡て所引の原本を檢索して精密に對校し、文字訓點の原本に從ふを善しとするものは、之を改む。

一 引文の檢索對校に用ひたる原本の版種は、左の如し。

(一) 三部經は、標註淨土三部經に依る。

(二) 七祖聖教は、本山藏版本に依る。

(三) 諸餘の經論釋は主として縮刷藏經に依る。藏經に宋元明麗の四版ある中、元明の二版は本典の成立以後に出でたるものなれども、四版に異同あるときは、便宜上之を揭ぐ。

(四) 縮刷藏經中に存せざるものは、坊刻單行の本に依る。その版種は、別錄引文一覽の中に之を示せり。時に藏經書院發行續藏經に依ることあり。

一 校訂に關し、本典の註疏を參考せるもの左の如し。

(一)六要鈔十卷　存覺上人
(二)教行信證文類樹心錄十卷　智暹
(三)教行信證義例略讚一卷　慧雲・大瀛
(四)顯淨土眞實教行證文類講疏、一名光融錄四十卷　玄智
(五)教行信證略讚八卷　道隱
(六)教行信證集成記七十五卷　芳英
(七)顯淨土眞實教行證文類徵決十九卷　興隆
(八)文類述聞八卷　僧叡
(九)廣文類對問記、舊稱敬信錄十卷　月珠
(十)顯淨土教行證文類敬信記十九卷　善讓
(十一)教行信證講義十五卷　深勵・頓慧
(十二)教行信證報恩記十三卷　頓慧
(十三)本典指授鈔十八卷　法海

總序

一頁

㊀總序題後文前に、保曆文三本、

大阿彌陀經　友謙三藏譯
平等覺經　帛延三藏譯

の二行十九字あり。兩筆本亦然り。但し友の字は支の形誤。永本は支謙等の五字を、吳月支國居士支謙譯に作り、帛延等の五字を、後漢月支國三藏支婁迦讖譯に作る。此二行、存本、六要本、延本、共になく、古本及び文明本にも之を載せず。山本には、此二行十九字、表紙の內面に在り。蓋し此經譯者異說あるが故に、集主自ら取る所の說を記して廢忘に備へたまへるを、後人傳寫の際、崇重の餘、この處に安じたるものなるべし。溢縮高三本及會本にもなし。

㊁撰號、永保曆三本及高本になく、文本及溢縮二本に之あり。信卷別序に、四本皆撰號あるに准すれば、この處にも之あるを以て備はれりとす。六要本この撰號あり。阪本、山本、存本、延本、兩筆本、共になし。

㊂無礙、山本、无㝵に作り、四本及溢本、無㝵に作る。縮高二本、㝵の字みな礙に作る。已下之に准す。正字通に、无は古文の無、㝵は礙に同じと云ふ。

㊃慧、曆文二本、惠に作る。已下慧惠互見す。今之を慧に一定す。

㊄濟、永本になし。

㊅萌、諸本、肅に作る、今縮高二本に從ふ。以下之に准す。正字通に「萌、媒朋切音盲、艸芽」といひ、肅の字なし。

㊆剛の字に、保曆二本、「德イ」の肩註あり。文本、この肩註、證の字にあり、之を正とす。

㊇證、存本、延本、德に作る。

二

㊀昏、曆文二本及山本、曶に作る。正字通に、曶は昏に同じと云ふ。

㊁障、四本及山本、鄣に作る。已下障鄣互見、今之を一定すること、高本の如し。

㊂遇、永保文三本、及曆本の一種、遻に作る。存本亦然り。本山藏版の曆本、阪本、山本、兩筆本、共に遇に作る。澁縮高三本及び遇本、亦遇に作る。

㊃綱、曆本、綱に作るもの形誤。

㊄賾、曆文二本、扁を目に作る。已下亦然り。

㊅遇、永保二本、偶に作る。

四

㊀標列の前に、永保曆三本、

大無量壽經眞實之敎
淨土眞宗

の一行あり。存本、兩筆本、寂本、亦然り。文本は此處になく、下の敎卷の題後文前に在り。六要本は、文本に同じ。山本は、總序と敎卷の間に一紙を置きて、其左面に、此一行と次の標列の文を安す。山本の體裁を存するものは永保二本にして、總序餘白の左面に此一行及び標列の文あり。案するに、山本敎卷の題前に、敎卷の標擧及び一部の標列を載するもの、一見敎卷の敎宗と下の章目を知り易からしめん爲にして、以下の各卷、信卷に在りては別序の餘白に、其他に在りては表紙の內面に標擧を載するも、亦同じ意なり。然るにこの標擧の文を、各卷題後文前に安ぜるは、六要本に於て初めて之を見る。永保曆三本が、行卷以下に於て題後文前に標擧を安ぜるに拘らず、敎卷のみ題前に置けるは、頗る體裁の一致を缺けるの觀あり。澁縮二本は文本の如く、遇本及藝本、亦之に倣ふ。高本は總序餘白の右面に標擧を、左面に標列を載す。

次に標列の文、六要鈔には敎卷に屬して科す。蓋し所釋の本、敎卷題前に此標列あるが爲なり。然るに標列は廣く一部に通ずるものなれば、之を敎卷に屬するは穩ならざるに似たり。案するに、標列は一部の章目を列擧して內容を示すこと、普通の著述に於ける目次と等しければ、總序と本文との中間に於て、獨立の地位を與ふべきものなり。

因に云ふ。大本の曆本には、敎卷の終に別に標擧と標列とを記せる一紙を添ゆ。山本、兩筆本、亦然り。但し山本には、顯眞佛土六を、顯眞實佛土六に作る。

敎卷

一

㊀題號、曆文二本に在りては、前段標列に接續して始まる。

㊁撰號、曆文二本には、題號直下に二行に細書し、山本は一行に細書し、存本は一行に大書す、阪本には撰號なし。

㊂標擧の文、永保曆三本、存本、兩筆本、寂本には、此處になくして、上の標列の前に在ること、上に述ぶるが如し。

㊃迴、四本、阪本、山本、迴に作り、澁高二本、廻に作る。今縮本に從ふ。正字通に、回俗に迴廻に作る、迴は當に迴に作るべしといふ。回一に回に作る。以下迴廻互見、今迴に一定す。

㊄於、永本、弘に作る、恐くは形誤。

二

㊀揆、曆本、山本、兩筆本、撰に作る。以下亦然り。

㊁何以等の八字、四本及山本、前文に連續し、大無量壽經言の六字、別に行を成す。次下の無量壽如來會言、平等覺經言、亦各別に一行を成す。澁本之に同じ。縮高二本、一連に書す。

㊂明鏡淨影、永本、明鏡影淨に作る。縮藏に依るに、大經の宋元明麗の四本、みな鏡淨に作り、玄智の校本に依るに、唐本淨鏡に作るといふ。本宗依用の本は、所謂唐本の如し。此句、延本「アキラカナルカ、ミノキ

三

ヨクシテ、カケ表裏ニトホルカコトシ」と讀む。

㊀耶、高本及山本、邪に作る。次下の來問佛耶の耶の字、亦然り。邪は余遮切、疑問の辭なり。

㊁威神等、四本及山本、「威神ノヒカリヒカリ乃シ爾ル」と讀ましむ。高本は、光光の二字直讀す。今の點、澁本及寂遲二本の如し。

㊂爾、四本、澁本、山本、尒に作る。今縮高二本に從ふ。已下之に准す。

㊃曰の下、本經、云何阿難の四字あり。

㊄佛言等、四本、澁本、山本、行を更む。

㊅發、諸本、辯才に流至す。私に點を改む。

㊆辯、永保二本、弁に作り、曆文二本及澁本、辨に作る。今縮高二本及山本に從ふ。已下之に准す。

㊇蓋、永前本及保本、益に作るもの、形誤。永後本は蓋に作る。蓋は蓋に同じ。無蓋、經の四本、無盡に作る。本宗所依の本、今の如し。

四

㊈所以、光闡道教の語に流至せしむる時は、出世本懷の意を明にするに便なり。因に鎮西の大雲點左の如し。

如來以二無盡大悲一、矜二哀三界一。所以、出二興於世一、光闡二道教一、欲レ拯二群萌一、惠以二眞實之利一。

㊉欲拯の下、大經の宋元明三本、濟の字あり。麗本には欲拯等の十字、普令群萌獲眞法利の八字に作る。本宗依用の經は今の如し。

㊀華、永保二本、花に作る。已下華花互見、今華の字に一定す。

㊁導、保曆文三本、道に作るもの、形誤。

㊂已上、永本に無し。

㊃觀察、諸本、微妙辯才の句に屬して點す。今改めて善能觀察を一句となすこと、寂遲二本の如し。存本には觀の字に「マナコニミル」、察の字に「コヽロニミル」の左訓あり。一說に、現點は阿難が佛の微妙の辯才を明察觀知するの義なりとなす。

五

㊄如是之義、文本「是ノ如キノ義」と點す。存本及延本、亦然り。餘本皆如是の二字直讀するもの、印可の語となすものなり。

㊅爲、此字讀み難し、姑く現點を存す。藝本及遲本は、出現世間の句より回讀す。

㊀現、經の麗本、見に作る。

㊁有情、經に衆生に作る。

㊂已上、永本に無し。

㊃如世等、寂遲二本、「世間に優曇鉢樹アルカ如シ」と點じ、藝本は「世間ノ如キ」と點す。

㊄乃の下、本經有の字あり。

㊅若、汝の義なり。四本及山本、「モシ」と訓ずるは、穩ならず。下の二所亦同し。追加校異に依れば、古本「ナムザ」と訓ず。

㊆豫、四本及び山本、緣に作り、「佛意ヲ知ルニ緣テ」と點ず。澁高二本、本經に依て之を改む。寂遲二本亦然り。縮本冠註に校異をなす。

㊇妄、永保二本並に存本、忘に作り、曆本、山本、不妄を「ワスレズバ」と訓ず。文本、澁高二本、古本、寂本、藝本、經に從ふこと、今の如し。諸註不忘に依りて解を設け、阿難の聞持不忘の德を擧ぐとなす。

㊈善、四本並に山本、普に作る、恐くは形誤。澁高二本及遲本、經に依りて之を訂すこと、今の如し。縮本冠註に校異をなす。

㊀憬、述文贊の撰號には、璟に作る。今典凡て憬に作る。凝然の淨土源流章、憬興に作ること、今の如し。

㊁今日世尊等、今典憬興の述文贊を引くに、常に所用の語を拔萃するに止まる。もと此所の引文、行卷（六二）所引の本願力故等の釋、及び眞佛土卷（六〇）所引の十二光釋と同じく、標を擧げて釋を子註となす。今子註を改めて本行となすと、縮本の體に從ふ。試に五德の一に就きて、述文贊の具文を出せば左の如し。

六

經言唯然大聖至奇特之法者、述云、此第二彰已所念也。……汎言今日者、卽簡往來之言。依神通輪所現之相、非唯異常、亦無等者故、云奇特。卽立世尊名之所以也。

㊂常、永前本及保曆二本、下の句に屬す。藝本及寂本、亦然り。

㊃普等三昧、述文贊には、諸佛平等三昧に作る。

㊄雄健天、原文には雄健之天に作り、雄健之天の故に世雄の名を得となす。四本、阪本、山本の點、雄健天を衆覺と共に所制となす。澁高二本、遐本、藝本、原文の點に從ふ。寂本は雄健天の三字を削る。

㊅導、曆本、道に作るもの、形誤。

㊆上、原文、者に作る。

㊇四、永前本及保曆二本、迄に作るもの、形誤。

㊈解、諸本皆無し、恐くは誤脫。今原文に依りて之を補ふ。今典の註疏、皆解の字を加へて釋す。

㊉法の下、永保文三本、也の字あり。蓋し假名の本文に濫入したるものなり。

㊀已上、今典の例、原文を略せずして引用する時は、終に已上の語を置き、原文の一部を乃至し、或は要所を拔萃する時は、略抄、略出、抄出、抄要等の語を置くを常とす。今述文贊を抄出せる所に已上の文字あるは、此常例に准ぜず。

㊁此、澁高二本及存本、是の字に作る。諸本「此ノ」と點す。但、文本今の如し。遐本「此ハ」に改む。顯眞實教の五字、澁本、遐本、延本「眞實ノ教ヲ顯ハスノ」と點す。

㊂題後、山本、兩筆本、大本の曆本、標舉及標列あること、先きに述ぶるが如し。

一

行卷

㊀撰號、高本になし。阪本、存本、亦然り。

㊁標舉、高本には、表紙の內面に在り。阪本、山本、存本、亦然り。但し高本と存本は、子註十二字、單に眞實之行の四字に作る。

㊂寶、文本、實に作るもの、形誤。

二

㊀設我の右、山本、第十七願諸佛吞嗟之願の肩註あり。設の字、諸本「タトヒ」と訓す、銘文に「設我得佛トイフハ、モシヲレ佛ニナリタラントキトイフ御コトハナリ」とあるに依り、已下凡て「モシ」の訓に改む。

㊁不悉等の句、漢文の法に從へば、「悉ク我ガ名ヲ吞嗟シ稱セズバ」と點すべし。

㊂我至等の文、五言八句の偈頌。山本、二句一行に書す。

三

今典偈頌を引くに、其體裁一定せず。

㊃覺の下、四顯十六句を越却す。

㊄法、諸本、實に作る。いま本經に依りて之を改む。縮本、冠註に校異をなす。六要鈔に「問經云法藏今云寶藏如何、答所覽之本有其異歟、又法卽法、寶是寄喩、法喩不違、其義無失」と云へり。

㊅沙、阪本、山本、砂に作る。已下亦然り。

㊀嘆、經に歎に作る。今典凡て歎を嘆に作る。正字通に、歎嘆相同しといへり。

㊁已上の下、永保二本、又言無量壽佛威神無極功德不可思議已上の十八字あるもの、過剩。

㊂於彼の二字、淨影は、次下の東方恒沙佛國の句に屬す。今典之を莫不稱嘆の句に屬するもの、愚興に從ふ。

㊃其佛等の文、五言四句の偈頌。

㊄致、永本、到に作るもの、形誤。

㊅今對の右、山本、成就行の三字あり。今卷已下引文の

初に、多く此三字あり。此文、七言十一句の偈頌。

㊄證の字註、阪本及山本には、格上に、證字諸應反驗也とあり。已下引文中の挾註にして、所引の原本になきものは、之に例して知るべし。縮高二本、此種の子註は凡て之を載せず。存本、延本、亦然り。六要鈔には、この子註の釋なし。

㊅因、如來會の四本、皆日に作る。「無上菩提ヲ證スルノ日ニ當リテ」の意なり。坊刻の本、因に作ること、今典の如し。蓋し梵文和譯に、「若シ我レ覺ヲ得タル後」とあれば、日に作るもの梵本の正譯とすべく、因に作るは、日の字の形誤ならんか。

㊆力、永前本及保本、方に作るもの、形誤。

㊇心或等の句、經は後に、不成救世之法王の一句ありて、「心或ハ常ニ行施ニ堪エ、廣ク貧窮ヲ濟ヒ、諸苦ヲ免レシメ、世間ヲ利益シテ安樂ナラシメズンバ、救世ノ法王ト成ラジ」と讀むの意なり。今第四句を略し、轉聲を變じて別義を顯はす。寂遲二本、經の點に改む。

四

㊀乃至、この處、二十一句を乃至す。今典乃至を用ふる法一樣ならず。中間を略するあり、下文を略するあり、上文を略するあり。中間を略するに、之を用ひざるが爲に略するあり、略して以て之を用ゆるあり。此處の乃至は、用ひざる爲に略するものにして、前の文より中間を隔越して、直に下の文に連接することを示す。今典中間を越却して而も乃至を置かざるもの往々あり、蓋し自然の略か。

㊁丈、永前本及保本、大に作るもの、形誤。

㊂抄出、文本、抄要に作る。

㊃佛說等、山本格上に、大阿彌陀經云廿四願經の十字あり。此經、宋元明三本には、佛說阿彌陀經と題し、麗本には具名を出す。但し阿彌陀の上、諸佛の二字なし。逃文贅(上に)大經の異譯を列するに、諸佛の二字あること今の如し。耶、縮高二本の外、皆那に作るもの、形誤。

五

㊀使、諸本、「某作佛セシメン時」と點す。今の使は、設と同義なり。寂本ひとり「タトヒ」の訓あり。今設我得佛の例に准して「モシ」と改む。

㊁衆、經に、坐に作る。

㊂莫不等の句、諸本「慈心セサル莫ケン、歡喜踊躍セン者」と點す。今寂遲二本の點に從ふ。

㊃無量淸淨平等覺經、此經、宋元二本は分つて二卷となし、明本は三卷となし、麗本は四卷となす。今典二卷本に依る。下の所引の偈、三卷本に在りては中卷に在り。

六

㊀我の上、本經、十七の二字あり。

㊁我の上、本經、十九の二字あり。

㊂爲惡、爲道の爲、本經の意「ナス」と讀むに在り。大阿彌陀經には、前世爲惡の句、前世作惡に作り、及正爲道の句、反攻自悔過爲道作善に作る。澁高二本、爲惡、爲道、共に讀法を明にせず。寂遲二本は經に從ひ、藝本は兩訓を附す。

七

㊀令、曆本、尒に作るもの、形誤。

㊁後、諸本、復に作る。但し高本、寂本、經に從ふこと今の如し。

㊂却後等、四本及澁本「無央數劫ヲ却後シテ」と點す。今の點、高本、阪本、山本、存本、延本の如し。寂本は「却テ後無央數劫ニ」と點す。遲本は寂本に從ふに似たり。

㊃會是共、諸本、讀法明かならず、寂本「コヽニ會シテ共ニ」と點し、延本「會シテコレトモニ」と點す。

㊄如是等以下の偈頌、縮本、一連の文となし、存本、第三句より三句一行に書す。

㊅快安樂の三字、文本及澁本、直讀の符號と今の點とを合せ附す。延本また今の如し。餘本、皆直讀に從ふ。

㊆穩の字、經の四本、皆隱に作る。坊本、今の如し。諸

入

九

經屢安隱の語あり。字彙に、隱は安なりといふ。

❶諸・此・利・等、延本「ヨノモロ〳〵ノ利ニ」と讀む。好の字、諸本好美の義に用ゐて「ヨキ」と訓す。今「ヨノム」と讀むもの、寂還二本に從ふ。此句の下、三十四句を乃至す。

❷悉、經に疾。に作る。寂本は經に從ふ。

❸具、永樂年及保本、是。に作るもの、形誤。

❹間、四本並に諸本、國。に作る。縮高二本、阪本、山本、存本、間。に作ること、經の如し。

❺輪・の下、四句を乃至す。

❻佛・の下、また四句を乃至す。

❼非・有・等の句、諸本「是ノ功德アルニ非サル人ハ」と點す。今寂還二本に從ふ。

❶清・淨・等、諸本及寂還二本「清淨ノ戒ヲ有テル者」の意に點するもの、本經の文に順す。現點は、魏譯の清。淨。有戒者。の句に准ずるの意なり。化土卷本（三六）所引の此文は、本經の點の如し。

❶諸・四本、阪本、山本、存本、皆。に作る。諸縮高三本及寂還二本、經に從ふこと、今の如し。

❷所、經に此。に作る。

❸法・の下、四句を乃至す。

❹輪、經の麗本、騎。に作る。

❺殺・經の四本、弊。に作る。

❻教・の下、二十句を乃至す。

❼在・世・、寂還二本「佛ノ在世甚ダ値ヒ難シ」と點す。

❽致・文本、到。に作るもの形誤。此字、寂本「イタス」と訓す。

❾忘、永樂二本、忌。に作るもの形誤。

❶將・、諸本、欲然の義となし「マサニ一切生老死ヲ度セントスベシ」と點す。經の切本は、將の字を再讀せず。一說に、將は上に屬し「世ノ尊將ト作リテ」と讀むべしといふ。今將は以と同じく「モッテ」と讀むの說に從ふ。

❶大・施・等、悲華經の此文、諸。菩。薩。本。授。記。品。第。四。之。一。に在り。此經第三卷は、前半に大施品第三之二、後半に諸菩薩本授記品第四之一を收む。化土卷本（三七）の初に引けるこの經同品の文、同じく大施品となす。古來之を略記の失に歸す。蓋し此文の存する悲華經第三卷卷頭の品名によりて、大施品と誤りたるもの乎。一說に、諸菩薩本授記品に在る無諍念王發願の文は、大施品より始まるを以て、初の品名を取りたるものなるべしといふ。

❷言・、永樂二本、之。に作る。

❸讓、永樂二本は殘。に、麗文二本並に諸本、讓。に作る。阪本、山本、存本、並に縮高二本は、讓に作ること、經の如し。

❹變、麗本變。に作るは形誤。經の宋元明三本變。に作る。

❺已・上の二字、高本になく、一字空白を存す。

❻稱・、永本になし。蓋し誤脫。

❶十住論の引文、論本と對校するに、或は麗本に合し或は宋元明三本と一致す。集主所覽の本、宋麗二本の何れなりしかを知り難し。

❷沙・、麗本、裟。に作る。縮本、藝本、亦同じ。淨土和讚の標目及び龍樹讚、論の名を出すに、亦裟に作る。阪本、山本、存本、諸高二本、沙。に作ること、論本の如し。

❸大・悲・の上、諸本、又。の字あり。恐くは寫誤。現本、論本に從ふこと、今の如し。

❹殺・舟・等の二十字、五言四句の頌文。山本、二句一行に書し、阪本、句間を離して、假頌たることを見易からしむ。

❺清・淨・等の句、四本、阪本、山本、存本、麗本「清淨トハ六波羅蜜四功德處ナリ、方便般若波羅蜜ハ菩提ナリ」と點するもの、穩かならず。之は九法を列擧せるなり。

❻蜜、文本、密に作る。

一二　❶轉於等の句、所釋の偈頌、「則生如來家、無有諸過咎、卽轉世間道、入出世上道」の後の二句を脱せるものなり。四本、阪本、山本、存本、「世間道ヲ轉シテ出世上道ニ入ルモノナリ」と點するもの、穩かならず。誠高二本、論本の點に從ふに似たり。遇本及藝本、今の如し。轉於の上、論本轉。於。遇咎。の四字あり。

❷行、永前本、得。に作るもの、形誤。

❸轉名等の句、四本、阪本、山本、存本、「轉シテ休息ト名ク」と點す。

❹出、論の宋元明三本になきもの、定めて誤脱。此處、藝本に順ず。

一三　❶如得等の四十字、五言八句の頌文。山本、二句一行に書し、阪本、少しく句間を離す。初の二句、四本、阪本、山本、存本、「初果ノ究竟シテ涅槃ニ至ルヿヲ得ルカ如シ」と點す。

❷此、文本、誠高二本、是。に作る。論の文、今の如し。

❸如人等の句、誠高二本、「モシ人衆陀洹道ヲ得レハ」と點す。如の字、下の譬の終なる大歡喜の語より回るの意なり。道の字、藝本に在りて餘の三本になし。

❹見、永前本、是。に作るもの、形誤。

❺惱、論本、爛。に作る。惱、四本、阪本、山本、惱に从ひ土に从ふもの、形誤。

❻九、永前本五。に作るもの、形誤。

❼如以等の文、讀點全く論文に順ぜず。論文は、

如以一毛、爲百分、以一分毛、取大海水若三三滴、若已滅如大海水、餘未滅者如三三滴、心大歡喜。

と讀むの意なり。誠高三本、寂遇二本、藝本、古本、共に論の文點を取る。六要鈔、「依其文點可解義理、所言文點可在口傳」といひて之を釋せず。古き註家は多く論の文點に從ひて解し、後の註家は多く相傳の文點に依りて義を探る。

一四　❽滴、論の宋元明三本、滴。に作る。藝本、今の如し。下の二所亦同じ。

❾已、論の藝本、以。に作る、餘の三本今の如し。已滅の下、論文者。の字ありて、次の餘未滅者の句に對す。今論の文點を改めんが爲に、之を除きたるものか。遇本之を補ふ。

❶未、曆本、末。に作るもの、形誤。

❷又、曆本、丸。に作るもの、形誤。已下亦然り。

❸乃至、阿。修。羅等の廿四字を脱越す。

❹時文の下、論文佛。の字あり。

❺遂昧の二字、四本、阪本、山本、存本、下の句に屬して讀ましむ。

❻所可滅苦の四字、解し難し。敬信記に曰く、論文從容にして二途を含む。若し可の字を強く取れば、未滅の苦を意味して、先きの分毛取水譬の組訓に屬す。若し可の字を弱く取れば、已滅の苦を意味して、論文の點に屬す。遇本、可の字一本に已に作るといふ。

❶初歡喜地の歡、文本勸。に作るもの、形誤。

❷爲得等の句、四本、阪本、山本、存本、「諸ノ功德ヲ得ショトヲ爲スが故ニ」と點す。誠高二本、爲の字を「モツテ」と訓す。爲の字「ナス」と讀む時は、「得ダリト爲スが故ニ」と點するを勝れりとす。

❸歡喜の二字、古本上の句に屬して、「歡喜スルヤ」と讀み、下の句を「地ダル法ヲ歡喜スベシヤ」と讀みて、二問を提起するの意となす。遇本は「諸ノ功德ヲ得ルカ故ニ歡喜スト爲ンヤ、地法トシテ歡喜スベシト爲ンヤ」と讀む。

❹常念等の二十字、五言四句の頌文。山本、二句一行に書し、阪本は句間を離す。論の文點に依れば「常ニ諸佛及ビ諸佛ノ大法ト必定ト希有ノ行トヲ念ス、是ノ故ニ歡喜多シ」と讀むべし。誠高二本、寂遇二本、藝本、論の文點に從ふ。

		㊀信、四本、阪本、山本、存本、何。に作り「信力增上トハ何ン」と點す。蓋し錯本に依るか。縮本、何に作り、冠註に校異をなす。藏高二本、論文に從ふ。
		㊀愛、永前本、定。に作るもの、形誤。前後の文、四本、阪本、山本、存本「因見スル所アリテ、必愛シテ疑ナケレバ、增上ト名ク」と點するもの、穩かならず。
		❶體、四本、阪本、山本、存本、體。に作るもの、形誤。縮本また體に作り、冠註に校異をなす。
		❶道、永本になきもの、誤脫。
		㊀勤、四本、阪本、山本、存本、勤。に作り、中にも保曆二本及山本、「チヨンコロ」の左訓を附す。藏縮高三本及退本、論文に從ふ。今の如し。
		㊀乃至、此所「如偈說」以下、偈の十二句を乃至す。若人等の二十字、偈の終四句に當る。
	二一	❶度の下、論の麗本、說の字あり。餘の三本、今の如し。
		❶名號の上、論文其の字あり。高本、醍本、寂退二本、之を補ふ。稱名號の三字、四本、阪本、山本、存本、下の句に屬し「名號ヲ稱スルコト、寶月童子所問經阿惟越致品ノ中ニ說クガ如シ」と點す。
		㊀乃至、此所、長行及偈頌三紙餘を越却す。「丙方善世界」以下、「問名定作佛」に至る、五言の偈頌。
		㊀乃至、此所偈頌四句を乃至す。
		㊀在、永前本、有。に作るもの、形誤。
		❶耶、阪本、山本、邪。に作る、高本亦然り。數卷三頁の❶參照。
		㊀阿彌陀等の二十字、論の宋元明三本は、四句の偈に作り、麗本は、後の十字を二句の偈に作る。坊刻の本、この二十字を長行となす。
		㊀如是の二字、論文更有。に作る。これ問に應じて如上の頌を加釋するものなればなり。今如是。に作るもの、異本あるか。此二字、上の句に屬して點するより見れば、集主所覽の本、上の二十字を偈頌させるに似たり。

		㊀今當等、論文の意、今當具說。を一句となして上の文に屬し、以下無量壽佛等の一百七佛を列ねて、是等の諸佛を稱名憶念せよとなすに在り。今引用の意、阿彌陀佛を以て所稱所念となし、其餘の佛を以て能稱能念となすに在るを以て、文點全く論文の如くならず。永前本、寂退二本、論の文點に從ふ。
		㊀乃至等の子註、師子意佛等の一百五佛を乃至するの意なり。
		㊀現在の二字、諸本、十方淨世界の句と共に直讀す。今寂退二本に從ふ。
		㊀稱名憶念の四字、下の阿彌陀佛本願。如是。の句に屬すること、亦論文の點に順ぜず。寂退二本、上に屬して「稱名憶念スベシ」と點すること、論文の如し。
		❶自の字、論の當分は「ミヅカラ」の意なり。今「オノヅカラ」と讀むもの、自然の義を顯はさんが爲なり。延本は「ミヅカラ」と讀ましむ。
	二二	㊀今當等、論文の意、今當具說。を一句となして上の文に屬し、以下無量壽佛等の一百七佛を列ねて、是等の諸佛を稱名憶念せよとなすに在り。今引用の意、阿彌陀佛を以て所稱所念となし、其餘の佛を以て能稱能念となすに在るを以て、文點全く論文の如くならず。永前本、寂退二本、論の文點に從ふ。
		㊀乃至等の子註、師子意佛等の一百五佛を乃至するの意なり。
		㊀現在の二字、諸本、十方淨世界の句と共に直讀す。今寂退二本に從ふ。
		㊀稱名憶念の四字、下の阿彌陀佛本願。如是。の句に屬すること、亦論文の點に順ぜず。寂退二本、上に屬して「稱名憶念スベシ」と點すること、論文の如し。
		❶自の字、論の當分は「ミヅカラ」の意なり。今「オノヅカラ」と讀むもの、自然の義を顯はさんが爲なり。延本は「ミヅカラ」と讀ましむ。

二三

㊀無量等、已下引文の終まで、五言の偈頌。山本は二句一行に、高本及阪本は三句一行に、存本は四句一行に、縮本は一連に書す。

㊁乃至、此所八句を乃至す。

㊂功、麗本、威に作る。今文、餘の三本の如し。

㊃乃至、此所三十六句を乃至す。

㊄彼佛本願力の句、論文にては下の三句と組合ふて一頌をなす。澁高二本、力に「ニ」の轉聲を附す。藝本及遐本、論の文點に從ふ。

㊅乃至、此所八句を乃至す。

㊆乃至、此所三十二句を乃至す。

二四

㊀人、論文、者に作る。

㊁我依等、已下五言の偈頌。山本は二句一行に、存本は四句一行に書す。

㊂說願等の句、論文の意「願偈ヲ說キテ總持シテ」と讀むに在れば、論註(上七右)に「說ㇾ所ニ願生ニ偈ヲ總ニ持佛

二五

經ニ」と云へり。總、四本、山本、存本、摠に作り、澁高二本、摠に作る。正字通に依れば、摠摠共に總の俗字なり。

㊃壓の下、六十四句を越却す。

㊄菩薩等の文、論の文相に從へば、左の如く點すべし。

菩薩、入ノ四種ノ門ヲモテ、自利ノ行成就ス、知ルベシ。菩薩、出ノ第五門ノ迴向ヲモテ、利益他ノ行成就ス、知ルベシ。菩薩、是ノ如ク五念門ノ行ヲ修シテ、自利利他シテ、速ニ阿耨多羅三藐三菩提ヲ成就スルコトヲ得ルガ故ニ。

引用の意、二利成就を以て法藏菩薩の所修となすに在るを以て、三所の成就に崇重の轉聲を用ひ、迴向の二字を利益他に屬して讀ましむる等、全く右の點に順ぜず。迴向利益他、論の四本、皆利益他迴向に作る。論註所釋の本は、今の如し。

㊀曰、集主論註を崇重して本論の如くするが故に、特に

曰の字を用ふるを例とす。時に除外例なきに非ず。

㊁沙、曆、本婆に作り、左に「沙イ」の校異をなす。

㊂無佛時の上、論註の文、於の字あり。

㊃醬、龍谷山藏版の七祖聖教、將に作る。坊本醬、又は漿に作る。

㊄聲聞等の句、四本、阪本、山本、存本「聲聞ハ自利ニシテ」と點す。

㊅願、四本、阪本、山本、存本、扁を辰に作る。字彙に依るに、願の俗字に用ゆれども、實は古文の辱なり。

二六

㊀無他力持、保曆二本、「他力ヲ持ツニナシ」と點し、存本及延本「他力ノ持ツナシ」と點す。

㊁衍、四本、阪本、山本、存本、衍に作り、澁本衍に作る。阪本、山本、「エン反」の音を附し、格上には「衍字ロ旦反樂也」の註を載せ、且つ「カン反」の音を附せり。此冠註、四本、澁本、本文の中に挾む。六要鈔は子註より推して、衍の字たるべしと爲し、廣韵に「空旱切、信言也」とあるより、此論說を信じて安樂に生ずべきの義と解す。澁本は蓋し六要鈔に從ふものなり。衍は梵語ヤーナの音譯にして、翻して乘といふ。されば「ロ旦反樂也」の子註を存することは、尤當ならざるに似たり。依て今之を削る。高本、存本、延本、この註なし。遐本及縮本、亦之を除く。

集主文字の音又は訓を示すに「エン反」といふが如く、反の字を用ゆるの例、今典に頗る多し。之は漢文の反切の意なるべきも、其用法漢文と同じからず。之につきて、義門の末代無智御文和語說（眞宗全書本二四頁）に解釋する所あり。左に之を揭ぐ。

和讃ノ歸命ノ左訓ニ、タノム反トアル。此反ト云ハ人多ク心得雜ヌル事、コレモ皇國ノ古クヨリノ風儀デ、萬葉集十六ニ、田盧ト書クチ、タフセト讀メヨト云指圖ノ處ニ、多夫世反トセル處アリ。爾ノミナラズ、音字ノ音讀ノ註ニサヘ、和名鈔ニ、勝朕ハ旁

二七

光。二。反。トアリ。コレハ酸脆ノ二字ヲ訓テヨム時ハナイソ、又字音ヲアヤマルナ、旁光トヨメト指圖チスルニ、旁光二反トアリ。又和名鈔ニ云ク、唐韻云、跟根反、和名久比須。御和讃ニモ、梁ノ天子齋王ノ御左訓、御草稿本ニハ、サウ。反、セウ。反。ト書給ヘリ。又異本ニセウ。ノカ。ヘ。シト御書ナサレテアリ。是カ。ヘ。シ。ト云ヒ、反。トアルノハ、ト。ヨ。メ。ト云指圖チスル場ダヤト云、萬葉和名等ノ古風ニ、御ナラヒナサレタモノトミエルナリ。

㊁ 碪・、永前本及保本、碪。に作るもの、形誤。

㊂ 升・、暦文二本、舛。に作るもの、形誤。舛は音センなり。

㊃ 倦・、諸本「ツエテ」の訓あり倦は從ふの義にして「ツカレテ」を訓むべきなり。今私に之を改む。讃岐ハ所引、安樂集の文もまた同じ。

㊄ 云・、用例に准ずれば、曰。に作るべし。

㊅ 乞・加・神・力・、諸本「神力チ乞加ス」と點す。今の點、寂

二八

遇二本の如し。

㊆ 昏・の字註、阪本、山本、格上に在り。但し、冬。渡。の三字なし。樂、誰本の外音字訓正しからず。猪高二本及存本、この註なし。六要鈔、この字註の釋あり。

㊇ 乃・至・、一問答五十八字を乃至す。

❶ 必・、四本、阪本、山本、存本、之を缺く。誰高二本及遇本、原文に依りて之を補ひ、猪本は冠註に校異を掲ぐ。

㊈ 命・の字註、山本に在りては、上の「何以知諸命是識耳」の文の格上に在り。阪本は今の文の格上に在り。猪高二本及存本、この註なし。六要鈔、この字註の釋なし。

㊉ 論・解・等、四本、阪本、山本「論ニ個義ヲ解スルニ」と點す。今存本及誰高二本に從ふ。

二九

❶ 凝・、永前本及保本、量。に作る。蓋し尊の形誤。

㊁ 譏・嘆・の下、論註の文、門。の字あり。

㊂ 稱・の字註、阪本、山本、格上に在り、而して正。斤。兩。也。の次に、昌。孕。反。昌。陵。反。の六字あり。猪高二本及存本、

三〇

この註なし。字註の中、四本、銓。を詮。に作り、秤。を枰。に作り、斤。を力。に作り、暦文二本、兩。を雨。に作るもの、何れも形誤。六要鈔、この字註の釋なし。

㊃ 乃・至・、約十行を乃至す。

㊄ 天・親・の下、論註の文、菩薩。の二字あり。

㊅ 乃・至・、此所十一字を乃至す。

❶ 如・凡・等の句、永前本及保本は「凡夫ノ如クニ謂フ所ノ質ノ衆生ト、凡夫ノ所見ノ質ノ生死ノ如シ」と點じ、永後本及暦文二本は「凡夫ノ質ノ衆生ト謂フ所ノ如ク、凡夫ノ所見ノ質ノ生死ノ如シ」と點すること、阪本、山本、存本、存本の如し。寂遇二本は「凡夫ノ謂フ所ノ如キハ質ノ衆生ナリ、凡夫ノ見ル所ノ如キハ質ノ生死ナリ」と點す。今の點、誰高二本に從ふ。

㊆ 無・所・有・、四本、阪本、山本、存本、「有ラヌルコトナク」と點す。下の一所亦同じ。

❶ 耶・、山本、邪。に作る。高本亦然り。

三一

❶ 前・念・等の句、永保暦三本、阪本、山本「前念ト後念ト因ト作ル」と讀ましむ。

㊁ 復・、四本、阪本、山本、存本になし。誰高二本及遇本、原文に依りて之を補ふ。

㊂ 觀・一・異・門・の四字、一説に、論。の字を連讀して、論の名となす。これ十二門論の觀一異門章を指すの意なり。

㊃ 乃・至・、此所「次成壞聚提舍名、又成上起下復」の十三字を乃至す。

㊄ 總・、四本、山本、阪本、存本、惣。に作る。下二所の總、亦同じ。上の二四頁の㊄參照。

㊅ 乃・至・、此所三行半を乃至す。

㊆ 何・所・依・、何・故・依・、云・何・依・の三句、諸本音讀す。今延本に從ふ。

三二

❶ 乃・至・、此所「成上起下竟」の五字を乃至す。

㊁ 直・、永前本及保本、貞。に作るもの、形誤。

㊂ 三・藏・の二字、諸本になし、恐くは誤脱。寂遇二本、原

文に依りて之を補ふべ、今の如し。然るに此釋、古來解し難しとなす。初の十二部經中直說者とは別修多羅にして、四阿含三藏等とは總修多羅なり。此釋、總別混亂するに似たり。微決に、初は別修多羅を擧げ、謂四阿含以下は總修多羅に大乘と小乘との別あることを進するなりといひ、文を讀むこと次の如し。

修多羅トハ、十二部經中ノ直說ノ者ヲ修多羅ト名ク。謂ユル四阿含三藏等ト、三藏ノ外ノ大乘ノ諸經ヲモ、亦修多羅ト名ク。

㊁者、永前本、名に作るもの、形誤。

㊂菩薩等の句、論註の文相は「菩薩ノ智慧清淨ノ業ヨリ起セル莊嚴佛事ハ」と點するに在り。微決によれば、今の點は、法藏菩薩の智慧清淨業が能く名號を莊嚴するの意なり。名號能く化他の所作を爲すが故に、佛事と名くることなり。

㊃入、永前本、爲に作るもの、形誤。

三三

❶名の下、論註の文、爲の字あり。

❶乃至、この所、「偈言五言句數」の六字を乃至す。

㊁乃至、此所、說の字の釋、十九字を乃至す。

㊂應の下、論註の文、相應の二字あり。蓋し乘佛教相應の五字、乃至せる文の中の總持佛經の四字と共に、一句を成すの意なれば也。

㊃週、龍谷山藏版の七祖聖教中、淨土論は皆週に作り、同じく論註は回に作る。而して論註の坊本は、却て週に作る。此文の引意、週向を佛の週向となすに在るを以て、通途の讀法と異なり。通途の讀法は左の如し。

云何週向スル、一切苦惱ノ衆生ヲ捨テズシテ、心ニ常ニ作願シ週向スルヲ首トシテ、大慈心ヲ成就スルコトヲ得ルガ故ニ。……往相トハ、己ガ功德ヲ以テ一切衆生ニ週施シテ、共ニ彼ノ阿彌陀如來ノ安樂淨土ニ往生セント作願スルナリ。

此文また信卷本（宝）欲生釋の下に引く。而して「云何

三四

カ週向シタマヘル」、「己ガ功德ヲ以テ一切衆生ニ週施シタマヒテ」と讀みて、他力週向の意を明せり。

❶彼、諸本之を脫す。信卷本（宝）も欲生釋の下に引けるこの文には、彼の字あり。今原文によりて之を補ふ。

㊁抄出の二字、高本、已上抄出の四字に作る。

㊂云の下、約六行を乃至す。

㊃遣、永前本及保本、遣に作るもの、形誤。

三五

❶晃、誥高二本及藝本、臭に作ること本集の如し。正字通に依るに、晃は臭に同じ。

㊁寒、龍谷山藏版の七祖聖教、冀に作る。坊本今の如し。

㊂發、永前本及保本、鉢。冠あるもの、形誤。

㊃梅、厚本、梅に作るもの、形誤。梅の下、永本檀の字なきは、誤脫。保本、梅の字なく、梅の下根芽漸の三字あるもの、錯簡。

三六

㊁在、永保二本、有に作る。

❶一切衆生、誥縮二本、阪本、山本、存本、延本、一。衆生に作る。切の字、もと本集に異本ありて、その有無一定せず。從て古來註家の文意を解するも、又一樣ならず。先づ一衆生の本に依る者は、一衆生の念佛の功により て、一切衆生の念佛の功を倒知するの意となし、一切衆生の本に依る者は、一切衆生念佛の功を註釋するに、其の多少によりて滅罪の多少ありとの意となす。或は言ふ、此處の文言連續し難し、本集もと錯簡あるべしと。

㊁可、諸本になし。寂遍二本、本集に依りて之を補ふこと、今の如し。

㊂功、本集になし。

㊃筋、四本及山本、筋に作り、阪本筋に作るもの、形誤。

三七

㊁結、永保二本、絲に作るもの、形誤。次下の結の字、亦然り。

❶排、「シヌル」と訓するもの、古來所據知り難しとなす。一說に、排は殺に通ずと。字彙に曰く「殺、居候切音

遷、取牛乳也」と。大集經月藏分諸寶得敬信品（右十五オ）に、麗本には「搏將時出純淨乳」とあるを、餘の三本には「穀乳時出醇淨乳」に作るあり。搏穀相通ずるの證とすべし。

㊀將、本集、持に作る。

㊁人、諸本、行に作る。今本集に依りて之を改む。縮本冠註に校異をなす。文明本は、人に作ること、本集の如し。

三八

㊂所詣、四本、阪本、山本、存本、諸處に作るもの、寫誤。

㊃附、四本、阪本、山本、存本、念に作り、下の句に屬して點す。蓋し念の形誤に基く。縮本冠註に校異をなす。

㊄衍、四本、阪本、山本、存本、行に作るもの、形誤。已下之に准ず。

㊅瞋、四本、嗔に作る。今典嗔瞋互に見はる。正字通に依るに、嗔は瞋と通ず、瞋は怒視なり。今一定して瞋に作る。

三九

㊆會、諸本之を脫す。寂遐二本及縮本、之を補ふ。

㊇無問の二字、四本、阪本、山本、存本、下の一切諸障に流至す。問、永前本及保本、間に作るもの、形誤。

㊈皆の上、本集悉の字あり。寂遐二本之を補ふ。

四〇

㊉浮、四本、阪本、山本、存本、之を脫す。縮本冠註に校異をなす。

㊊後、曆本後に作るもの、形誤。

㊋貴、永本になきは、誤脫。

㊌勉、澁縮高三本、免に作ること、本集の如し。今典處處免の字を勉に作る。正字通に「按免乃勉字譌省、非免與勉同、从勉爲正」といふ。

㊍爲人、諸本、「人トナリテ」と點す。今寂本に從ふ。

㊎于、諸本千に作る。今存本に從ふ。本集の文、千に作るもの、解し難きに似たり。恐くは于の形誤か。

㊏今典禮讖を引くに、智昇法師の集諸經禮懺儀に依り、五ヶ所には特に其事を附言せり。禮讖の單行本が當時既に我國に傳來せることは、選擇集に之を引用せるによりて知るべし。選擇集が禮懺儀に依りて引用せるに非ざることは、處々懺儀の文と相違あるに依りて知らる。集主は單行の禮讖に依らずして、特に禮懺儀の下卷に編入せるものを所依とし、其出所を示さんが爲に度々智昇師禮懺儀云々の語を添へたまへるに就きては、古來說あり。曰く、智昇が禮讖を推尊して諸經に擬し、之を經文と共に禮懺儀中に加へたることによりて、終南大師の高德を知り得べしといふ意味と、併せて智昇が禮懺儀中に加へて大藏中に編入し、爲に失傳を免がれしめたるの功績を稱揚するの意味とにて、特に禮懺儀に依りたるものなりと。

此書の題號、宋元二本は諸禮佛懺悔文といひ、明本は集諸經禮懺悔文といふ。今典は麗本に依るが故に、集諸經禮懺儀といふか。明本は四卷に分ち、餘の三本は二卷に分つ。然るに引用の文、間々懺儀の文と異にして、却て別行の禮讖に同じきものあり。今二書を呼ぶに、略に從ふて儀及び讖といふ。

㊐般、儀の宋元麗三本、波に作る。明本並に讖、今の如し。

㊑欲、儀に在り、讖になし。

㊒及、永本に脫す。

㊓直の字、諸本、「タヾチニ」と點す。終南大師の用例を案ずるに、「タヾ」の義也。今之を改む。以下亦同じ。

㊔也、儀になし、讖にあり。

㊕由の字註、阪本及山本、格上に載すること、餘處の例の如し。澁高三本及存本になし。六要鈔に、此字註の釋なし。

四一

㊖行觀坐觀、四本、阪本、山本、澁本、行勤座觀に作り、「勤メテ座觀禮念等ヲ行セシム」と點ず。但し澁本點な

きは、疑義を存してなるべし。存本は座を坐に作り、點は右の如し。縮本、行勤坐觀に作り、冠註に行勤の二字讖には佛勤に作り、儀儀は行觀に作るとの校異を掲ぐ。高本は行觀座觀に作る。遥本、儀の文に從ふこと、今の如し。一說に、讖には「佛坐觀禮念等ヲ勤ム」とあるを以て、行は佛の形誤ならんといひ、又一說には、四本の點、「勤メテ座觀禮念等ヲ行セシム」とあるを以て、行勤の二字恐くは倒置なるべしといふ。寂本は讖に從ふ。

四二

㊀須面等の句、四本、阪本、山本、存本、「須ク面ヲ西方ニ向フ者ハ最勝ナルベシ」と點す。今澁高二本及寂遥二本の點に從ふ。

㊁者、儀に在り、讖になし。

㊂勤專等の句、諸本「專ラ禮念等ヲ勤ムルハ」と點す。延本、專禮念の三字音讀す。今の點、澁本及寂遥二本の如し。

四三

㊃收、永保二本、阪本、山本、存本、取に作る。儀の宋元明三本、拔に作る。麗本及讖は今の如し。按するに、來收の二字、熟して「收ムル」の義なるべし。來の字は虛字、西河終南二師の文に、間々この例あり。楷定記に、來破、來證、來明、又來、久來、向來等の數例を擧ぐ。

㊄以の上、儀に願の字あり、攝化十方の句より回る。

㊅信心求念、諸本「信心ヲシテ求念セシムレハ」と點す。存本は單に「信心ヲ」に作る。「ヲシテ」は、餘處の用例に准ずるに、「ヲモテ」の意なり。今之を改む。

㊀耳、儀に爾に作る。讖は今の如し。

㊁期、永前本及保本、斯に作るもの、形誤。

㊂十卽等の句、諸本直讀す。今化土卷本（五三）所引の文に准して點す。

四四

㊃覩、儀に覓に作る、覓は求むる也。讖は今の如し。

㊀端陀等、五言の偈頌。直過以下、山本二句一行に書す。

㊁罪障等、讖の文少異あり、左の如し。

四七

罪障深重論六道苦不可具云云、今日遇善知識。

㊂弟子、原文に在りては、次下の見佛の願文に屬す。今之を上の攝受の願文に屬して引く。寂本之を削る。

㊀須至等、通途の讀法に依れば、「須ク心ヲ至シテ往ク コトヲ求ムベシ」と點すべし。寂本この點に改む。須を「モチヰル」と訓して他力の信を願はすは、集主特殊の筆格なり。今典此例多し。信卷本（二三）散善義三心釋の引文を見るべし。山科連署記に「須ノ文點ハ用ノ文點トイフコトアルナリ」と云へるは、是なり。

㊁號、永保二本、字に作る。

㊂在の下、儀及讖、共に世の字あり。此本願引釋の文、八言六句ありて、字數凡て四十八なり。されば吉水大師は、法語の中に此文を引くに、曾て世の字を略したまふことなく、加之「此文ハ四十八願ノ眼ナリ、肝ナリ、神ナリ、四十八字ニ結ビタルコトハ此故ナリ」と言へり。然るに我祖に附與せられたる眞影の銘には、世の字なく、凡て四十七字を成す。今典世の字を略せるは、此相傳を崇ふが故なりとの說、然るべし　口傳鈔には、世の字の有無に就きて別に說を設く。然るに六要鈔には「大祖所覽之本無此字歟、故如其文被書與之、有何不審」といひ、又一說に、眞影の銘に世の字なきは、恐く大祖の筆脫なるべく、此字なくんば四十八字を成さゞが故にといふ（光融錄所載、月筌說）。華頂誌要に載する吉水大師の眞蹟を檢するに、眞影の讖文たる此文、第四句に於て世の字を缺けり。永享八年尊意なる人のものせる眞影の裏書に、此眞影は元久二年二月十三日大師自ら描寫せられたるものなりと言へば、正しく今典後序に「元久乙丑歲（二年）初夏中旬第四日、空眞影申預、奉圖畫」とあるものゝ原圖なるが如し。されば眞影の銘は、我祖に書與へられたるものに世の字を缺くのみならず、其原圖の銘に於て已にこの字なかりしより見れば、決して偶然の筆脫と見る

べからざるに似たり。口傳鈔に說を設くるもの、故なきに非ず。

四七

㊀是說、儀に說是に作る。讖は今の如し。

㊁如恒河沙等の五字、諸本直讀す。今之を回讀すること寂本及び藝本に從ふ。但、次下の一所、寂本は直讀す。

四八

㊀念の下、四本及び澁高二本、經の字あり、阪本、山本存本、縮本、之なきこと、儀及讖の如し。

㊁及、寂遐二本「若ハ七日及ビ一日」と讀みて、下より回讀せず。存本は「若ハ七日及ビ一日、下一聲乃至十聲一念等ニ至ルマデ」と點す。

㊂一聲等、讖には十聲乃至一聲一念等に作る。儀の文今の如し。從多向少なるが故に、讖の文を優れりとす。遐本、讖に從ふ。

㊃成、讖に誠に作る。儀は今の如し。寂遐二本、讖に從ふ。

㊄文、儀に又に作る。讖は今の如し。

㊅河、儀になく、讖に在り。

四九

㊀乘の字註、阪本及山本には、格上に在り。但し食陵反の次に寶證反の三字あり。蓋し寶は實の形誤ならん。存本及縮高二本、之なし。六要鈔、この字註の釋なし。

㊁如の上、觀念法門の本文、卽の字あり。

五〇

㊀夫「チシテ」の點、寂本に從ふ。諸本になし。

㊁劒、四本及存本、劔に作る。

㊂微塵等、阪本及山本「微塵ノ故業ト隨智ト滅ス」と點す。存本亦この點に依るに似たり。

㊃覺の字註、阪本及山本には、格上に在り。縮高二本及存本になし。字彙に、覺に敎の音を出す。今音を借りて訓となすなり。六要鈔に釋あり。

㊀抄要、永本、抄出に作る。

五一

㊁歸の字訓、縮本の外、諸本左の如く書す。

歸言至又歸說也說字音悅又歸說也說字也稅音悅稅二音告也逃也宣逃人意也

今縮本に從ふ。後の歸說也の說の字、永前本、保文二本、稅に作り、悅稅二音の悅の字、永前本及保本、稅に作るは、何れも形誤。

前の歸說也に、山本には左に、「ヨリタノムナリ」の訓あり、高本には右に、「ヨリタノムトイフ」の訓あり。今山本に從ふ。

正信偈五部評林（上廿一右）に、一古寫本によりて歸の字訓を擧げり。文字の配置、正に今の如し。

五二

㊂命の字訓、諸本二行に細書す。今縮本に從ふ。

㊀光闡の二字、由聞願力の上に置きて見るべし。遐本文點を改めて、「願力ノ光闡ヲ聞クニ由リテ、報土ノ眞因決定スル時尅ノ極促ナリ」となす。

㊁必の字訓、諸本二行に細書す。今縮高二本に從ふ。審也、然也の左訓、永保文三本及高本には、右に在り。今曆本に從ふ。山本には、審也の右に、「ツマビラカナリ」左に「アキラカナリ」の訓あり。分極也に、保曆二本、分の右に「ワカツ」、極の左に「キハムル」の訓あり。文本は分極の右に、山本及高本は左に「ワカチキハムル」の訓あり。存本は右に、「アキラケキ」の訓あり。今山本及高本に從ふ。

㊂貌、四本、阪本、山本、存本、見に作る。正字通に見は貌の本字なりといふ。

㊃第五祖善導大師の釋文上に竟りて、已下後善導の稱ある法照禪師、及び憬興等九師の釋文を引く。古來この引意を解して、法照は善導を助顯し、憬興以下は法照を助顯するを以て、此一段の引文、全く第五祖釋文の中に攝すべしといふ。

淨土五會念佛略法事儀讚、正保年間開刻のものを檢するに、間々魯魚の誤あり。今典の引文錯誤多きより見れば、集主所覽の本、亦善本ならざりしに似たり。略讚に、今家錯本によりて讀み雜きまゝに引用す、たゞ大義を引て文句に拘らず、謬文を以て闕となさゞる

もの、却て其深識を仰ぐべしといへり。

㊐管・暦本、寅。に作るもの、形誤。

㊑得・員等、諸本及寂本、員ノ無生ヲ得ル者、孰カ能ク此ニ興カランヤ」と點ず。讃の點亦然り。遡本は原本によりて「員ノ無生ヲ得。ズ。ン。バ。、孰カ能ク此ニ興カランヤ」に作る。讃に異本あるか。

㊒孰・永保二本、熟。に作るもの、形誤。

㊓門・の上、讃に調。の字あり。寂本之を補ふ。

㊔爲・四本、阪本、山本、存本、爲。に作り「彌陀法王四十八願ノ名號ヲ以テ、爲ニ佛願力ヲ事トシテ衆生ヲ度シタマフ」と點ず。縮本寛註に校異をなす、諸高二本「佛事ヲ爲シ。願力衆生ヲ度シタマフ」に作ること讃の如し。今讃の一本により、以。の字を「オモンミレバ」と點す。鈔本は以の字、度衆生より回讀す。

㊕常・光融錄に、常讀んで嘗の字の如し、同音假借なりといふ。略讃また嘗の字を通すといひ「カツテ」の意にて解す。

㊖非・細・紬手・、諸本、毋細紬。に作り「細紬ヲ毋ダタマヘルヲヤ」と點ず。縮本には、細の字寛註に校異をなす。高本は、この四字「毋細紬手」に作る。是れ讃の一本に從ふなり。

略讃に、細紬手といふをなし、定んで細紬手の誤なるべしといふ。高本の改訂、亦この意なるべし。光融錄に、三十二相の中、第五は手足指縵網相、第六は手足柔軟相なり、此二相を合して細紬手と謂ふをなす。

五三

❶同・永保暦三本、阪本、山本、存本「難心ニ同シテ」と點ず。餘本、讃の文點に從ふ。

❷乎・諸本になし。寂本讃に從りて之を補ふ。こゝ、今の如し。縮本寛註に校異をなす。

㊗乎・四本、阪本、山本、存本、無生の下に在るもの、倒置。

㊘身・諸本尒。に作る。今讃によりて之を改む。文本は屑

註に、縮本は寛註に、校異をなす。學の字、讃の一本「マコトニ」と點ず。

㊙雖・、讃の文になし。穢・淨・、讃に淨。穢。に作る。

㊚兩・暦本、雨。に作るもの、形誤。

㊛然・彼・等、讃の文を斷章取義せるもの、從つて文點原文に從はず。讃の文は次の如し。

然彼西方、殊妙雖、此。其國土也、嚴以二百寶、遍數二九品一、以收、人。其名號也、能滿二千衆、普周二五會一、而挾物。

殊妙雖此、嚴以百寶遍數九品の二所、諸高二本、遡本、鵝本の點、讃の如し。寂本は、其國土の三字上に屬ず。

㊜收・永前本及保本、悲。に作るもの、形誤。

㊝佛・、讃の文になし。

五四

❶如・來・等、淨土樂讃十九首の中、第九、第十一、第十五の三首を引く。文本、初二首の終に、各乃至の二字を細書し、中間を遡却せるこを示す。以下の倒頁、縮本

五六

微問するなりといふ。今此說に從いて文點を改む。

箇の字に「ヨラメ」の點あるもの、所據知り難し。一說に、集主所覽の本、因の字に作れるかといふ。

㊐ 歷、曆文二本、月に从ひ麓に从ふもの、形誤。

㊐ 禪・律等、譯文に在りては微問なるが故に、「禪律如何ゾ是レ正法ナル、念佛三昧是レ眞宗ナル」と讀むの意なり。今の引意、嶮立を示すに在るを以て、文點を改む。

㊐ 略・抄、この正法樂讚の文、三首一連なるが故に、常例に依れば略抄の二字を必要とせず。前の淨土樂讚の文は、三處を拔出せるが故に、終りに略抄の二字ありて然るべし。或は錯置に出でたるか。

❶ 西・方等、西方樂讚十五首の中、第二、第三、第十二、第十四の四首を引く。第八句及び第十二句の下、文本乃。至の二字を細書して、中間を越却せるまを示す。

㊐ 海、諸本、界。に作る。今讚文に從ふ。文本肩註に校異をなす。

五七

㊐ 保、諸本二本、存本、藝本、樂。に作る。讚文今の如し。

㊐ 傳・證、證の一本、傳。燈。に作るといふ。光融錄に、傳燈、傳證、共に正しからず、當に傳。言。に作るべしといふ一說を擧げて、之を非とす。然るに此首の第二句の終は門にして、元韻を押すを以て、同韻にして字形證に似たるは言の字なれば、斯くは推定せるなるべし。

㊐ 此、阪本、山本、延本、一。に作る。

❶ 今・日等、殺舟三昧樂讚、二句一頌となし、凡て廿八頌より成る。今第十七頌以下を引く。但し第廿八、第廿九の二頌を略す。

㊐ 等、永文二本、生。に作る。文本傍註に校異あり。

㊐ 來、「カヘル」と訓ずるもの、集主獨特の筆格なり。唯信文愈に「マタ來ハカヘルトイフ。カヘルトイフハ、願海ニイリヌルニヨリテ、カナラズ大涅槃ニイタルヲ、法性ノミヤコヘカヘルトマフスナリ」といへり。此讚文中、餘の三處の來の字、また之に同じ。

五八

㊐ 度、讚文、慶。に作り、人身の值遇し難きを慶幸するの意となす。諸本冠註に校異をなす。寂本、讚文に依りて之を改む。

㊐ 讚、諸本、贊。に作るもの、蓋し略字。

㊐ 契、讚文、絜。に作る。

㊐ 幾、讚文、懺。に作る。病魔の能く來犯することなきを願ふの意なり。諸本冠註に校異をなす。

❶ 借・問の二字、文本「カリニ問フ」と訓ず。借の字、假と通ずるの意なり。蓋し借の字は助字、諸本二字倒して「トフ」と讀ましむ。寂本は二字直讀す。鄉、永前本、廊。に作るもの、形誤。

㊐ 將、四本、山本、阪本「マサニ」の點あるもの、過剩。

㊐ 成・金、四本「金ト成ルガゴトクナラシム」と點じ、阪本、山本、高本「成サンガゴトクセシム」と點ず。延本は「コガネトナサシム」に作る。

㊐ 大・衆等、讚文、諸。大。衆。に作る。

五九

㊐ 相・尋等、今の點、寂遇二本の如く、餘本皆「何ノ處ヲ相尋ネテ去カム」に作る。

㊐ 遷、讚文、道。に作る。遷道、共に言之義なり。永保二本、導。に作るもの、形誤。次下三處の遷、また同じ。

❶ 聞、永保二本、時。に作る。

㊐ 近、光融錄、迎。の形誤ならんといふ。此殺舟三昧讚は、數頌同韻を用ゆるを以て、迎の字に作れば、前頌の明と同じく庚韻に協へばなり。近の字は仄字なり。但、現流の讚文、近に作ること今の如し。

㊐ 依・新等、讚に新。無。量。經。と題して廿八頌ある中、第廿七頌を茲に引用す。新の字を附するは、讚に淨土師の作る所の觀經十六觀讚を先きに擧げたるを以て、法照師また觀經に依りて自ら作る所の讚文なれば、前と區別せんが爲に新の字を冠せるなり。今依新無量壽觀經といふに就いて、六要鈔に、觀經に二譯ありて、前本已に缺け、現存するものは非後本なることを示さん

が爲なりといふ義と、大觀二經の前後に就きて、大經を舊とするに對し、觀經を新とする意を示さんが爲なりといふ義とを設く。觀の字、永前本及保本、親に作るもの、形誤。

六〇

㊀慢興師云の傍、四本、第二末の三字を小書す。之は六要鈔の卷數を示せるものにして、後人の記入せるを合刻したるものなり。

㊁說、澁本及遵本、果の字より回讀す。下の顯の字亦然り。

㊂因、阪本及山本になきは、誤脫。存本、六要本、延本、また之を脫す。兩筆本亦此字なく、左傍に「因、本疏有此字」の註あり。

㊃悲華等、述文贊に、已下の文なし。贊の中卷（十九左）大經の尋發無上正眞道意を釋する下に、「不違觀音授記悲華經」といひ、同卷（三十五右）第三十五願を釋する下に、「准悲華經」といひて、經名を舉ぐるを見るのみ。蓋し集主、如來淨土の因果を明す文證に、右の指示によりて、本經の文を探りて之を出したまふか。今典悲華經を引くに、行卷（一〇）及び化土卷本（三）に於ては、品名を大施品となせるに反し、今はその正しき品名を出せり。

今典述文贊を引くに、字句の增減出沒あり。蓋し取意を主とするが爲のみ。故に以下一々校異せず。

六一

㊄界の上、經の宋元明三本、世の字あり。寂本之を補ふ。

㊀無異、經文になし。所顯の下、十字を隔て、等無差別の四字あり。

㊁無量等、此文亦述文贊になし。加へ引きて、以て淨土の因果を明すの證となすこと、悲華經の如し。

㊂生、贊の文、聖に作り、「施等ノ衆ノ聖行ヲ備フ」と讀ましむ。これ大經の具足衆行の釋なればなり。集主所覽の本、生に作るか。今他力回向を顯はすが故に、文點原文に從はず。縮本冠註に校異かなす。遵本、聖に作るを是とし、原文の點に改む。藝本また聖に作る、但し文點を改めず。

六二

㊀藉、諸本、籍に作る。今贊の文に從ふ。

㊁誰、贊の文、詎に作り、「詎ゾ力ヲ盡シ、善ヲ作シテ生ヲ願セザランヤ」と點す。

㊂因善等、贊の文、「因善既ニ成ズ」と點す、今義を轉じ、文點を改む。

㊃不、贊の一本、可に作る。此句、阪本「ミヅカラ果ヲ獲ズ」と訓じ、山本「オノヅカラ果ヲ獲ザランヤ」と訓す。

㊄著、諸本、箸に作る。存本、著に作ること、原文の如し。

㊅來、贊の文、求に作る。六要鈔贊の具文を引くに、來に作ること今の如し。異本あるか。

㊆往、贊の文に在りては往昔の義なり。今轉用して往生の義となす。

六三

㊀絲不等、延本「壞スルコトアタハザルニヨルガユヘニ」に作る。

㊁果遂、贊の文、遂に作る。

㊂管、諸本、官に作る。今樂邦文類に從ひて之を改む。縮本冠註に校異をなす。

㊃暇、曆本、扁を目に作る。

㊄弃、永保二本及高本、棄に作る。正字通に、棄古に弃に作るといふ。

㊅幼、曆本、幼に作るもの、形誤。次の壽夭延保の句、諸本、「壽夭ニシテ保チ難シ」と點するもの、意通じ難し。今私に之を改む。

六四

㊀頃、永保曆三本、項に作るもの、形誤。

㊁如、四本、阪本、山本、存本、「モシ」と點す。如何の二字、連讀するを善とす。

此文、諸本釋を二行に細書す。今縮本に從つて本行に大書す。

㊀居、永前本、尼に作るもの、形誤。

六五

一元照云の左傍、保暦文三本、觀經義疏の四字あり。

二懇懃等、四本、阪本、山本、存本、「懇懃ニ偏ク諸大乘ヲ勸囑シタマヘリ」と點す。澁高二本及寂遲二本、原文の點に從ふこと今の如し。

三爲可等、四本、阪本、山本、存本、「憐憫スベキ者ノ爲ニシタマヘリ」と點す。蓋し、諸經に淨土の法門を說くことは、憐憫すべき疑謗の徒の爲にすとの意なるべきか。今澁高二本及寂遲二本の點に從ふ。

六六

一素、暦本、索に作るもの、形誤。

二令決等、諸本「決定ノ信心卽チ是レ往生ノ因種ナラシム」と點す。今遲本の點に從ふ。

三具引彼等、四本、「具サニ彼ヲ引テ問テ曰ク」と點じ、阪本、山本、存本、「具サニ彼ノ問ヲ引テ曰ク」と點じ、澁高二本及寂本、「具サニ引カン、彼ニ問テ曰ク」と點す。今遲本の點に從ふ。

㊃見の字、四本及澁本、菩薩より回り、高本、阪本、山本、存本、寂本、持臺より回り、遲本は往生より回る。今の點、疏文に從ふ。

五經、諸本之なし。但し、高本疏文に從ふて之を補ふこと今の如し。此句、寂遲二本、「首楞嚴ニ依テ三昧ヲ修習スルニ、或ハ陰魔ヲ發動スルコトアリ」と點す。以下の二句、亦之に准ず。

六七

一定、諸本「定ンデ」と點す。但し澁本及寂本、疏文に從ひ禪定の意となし、「定ニ擊發セラルヽガ故ニ」と點す。

二被、永前本及保本、破に作るもの、形誤。

三干、保暦文三本、于に作るもの、形誤。

㊃慧、永本之を脫す。

六八

一耶、暦文二本、高本、阪本、山本、邪に作る。

二耶、高本、阪本、山本、邪に作る。

六九

一耶、暦文二本、高本、阪本、山本、邪に作る。

二障、諸本、境に作る。文勢を案ずるに、疏文に從ひて障に改むるを可とす。

三元照等、この挾註、阪本は左傍に、山本は格上に在り。存本は本行に大書す。縮高二本は之なし。文本「彌陀經ノ義文」と點ずるもの、穩ならず。

㊃以、諸本、「以テ」と點す。今澁本及寂遲二本に從ふ。

五乘、永前本及保本、乘に作るもの、形誤。此字、疏の聞持記に、專也と註す。

六躬行、四本、澁本、存本、窮行に作り、「行ヲ窮メ」と點す。縮高二本、阪本、山本、躬行に作ること、疏文の如し。但し山本、躬に「キハメ」の訓あり。光融錄は、德行窮滿の義として、窮の字を勝れたりとす。

七濟、永保二本、齊に作るもの、形誤。

七〇

一興、高本、藝本、寂遲二本、疏文に從ふこと今の如く、餘本皆與に作りて、「機ト緣ト熟シ」と點す。文本修註に校異あり。

二彰、暦文二本、障に作るもの、形誤。

七一

三攝、疏文、接に作る。永保二本、阪本、山本、存本、疏文の如し。古書、接を攝に通用せしむる例多し。

㊃多功德、延本、多善根に作る。

一或發等、四本、阪本、山本、存本「或ハ猖狂ノ惡相ヲ發セン、一ラ皆顚倒ノ因ト名クルニ非ズヤ」と點す。澁縮高三本及藝本、疏の文點に從ふこと、今の如し。但、藝本、因の字、上の句に屬す。

二熏、諸本薰に作る。今原文に從ふ。正字通に「薰、香艸。熏、火煙上出、又以火熏物。熏作薰非」といへり。

三那、永前本及保本、郁に作る。郁は那に同じ。

㊃天竺等の挾註、阪本及山本には、格上に在り、縮高二本及存本になし。

五直、諸本、眞に作る。恐くは形誤。但、高本及寂遲二本、直に作ること疏文の如し。縮本冠註に校異をなす。

六得、四本、阪本、山本、存本、復に作るもの、形誤。縮本冠註に校異あり。

七二

㊐還、四本、阪本、山本、存本、遠に作るもの、形誤。縮本冠註に校異あり。

㊑等、澁本、寂遐二本、藝本、原文の點に從ふこと今の如し。餘本、「此法等チ學スベシ」と點す。然るに此引文は、元照の觀經疏に、「慈雲法師云」として引けるものにして、等は上來の慈雲の語を等取するの意なり。

以下觀經疏の文を連引して、觀經の翻譯及び譯者の傳を出す　是れ上の五會讃の引文中に、「依新無量壽觀經」と云へるを釋するの祖意に出づとせらる。

㊒標、四本扁を手に作るもの、形誤。

㊓亡、永保二本、已に作るもの、形誤。

㊔蓋、四本、蓋に作る。餘本、疏文の如し。次下の一處亦然り

㊕耶、阪本及山本、邪に作る。次下の一處亦同じ。

㊖時稱の下、疏文「西域人、性剛直、寡嗜欲、善通三藏」の十三字あり。今之を略す。

七三

㊗㊘㊙元照等、此等の挾註、阪本及山本、格上に在り。存本及縮高二本になし。

㊚積劫熏修、正觀記の本文、積劫重修に作る。劫、曆本功に作るもの、形誤。熏、諸本、薰に作る。今原文に從ふ。記の餘處の文に、名號の德を舉げて、「從因至果、歷劫熏修、無量行願之所莊嚴」と言ふより見れば、今積劫熏修に作るもの正しゝして、重修の語却て形誤なるに似たり。

㊛用欽の引文、本據詳ならず。恐くは元照の觀經義疏を釋せる白蓮記、若くは彌陀經義疏を釋せる超玄記に依るならんといふ。二書、傳を失するが故に、檢するに由なし。

七四

㊀修無等、四本、阪本、山本、存本、寂本の點、左の如し。

修スルニ妙行ニ住スルコトナシ、證スルニ菩提ヲ得ルコトナシ、住スルニ國土ヲ莊嚴スルニ非ズ、現スルニ神通ノ神通ナキガ故ニ。

今澁高二本、遐本、藝本の點に從ふ。

㊁更、諸本、臾に作り、「須臾ニ彌陀ノ二法莊嚴ニ收ム」と點じ、持名行法の四字、下の句に屬す。本據を檢する能はずと雖も、姑く追加校異に載する古本に從ふて之を改む。遐本、臾の字に「更本」の校異をなす。持名行法の四時、上に屬すること、今の如し。

㊂須、永前本、頓に作るもの、形誤。

㊃於、永本になし。

㊄德、永本之を脫す。

㊅念佛等、四本、阪本、山本、「念佛三昧ノ善、之レ最上ナリ」と點す。澁高二本及遐本の點、寶王論の本文に從ふこと、今の如し。存本亦今の點に似たり。

㊆曰、永本、目に作るもの、形誤。

㊇雙卷經の上、要集二の字あり。念佛證據十文を擧ぐる中の第二なればなり。

七六

㊈經の下、要集、云の字あり。

㊉彌陀、要集の文、念佛に作る。化卷本（一二）に引けるこの文、又彌陀に作ること今の如し。所覽の本異あるか。拾遺語燈錄下、往生淨土用心の中に、此文を引くに、同じく唯稱彌陀に作る。

㊋世、諸本になし。但、高本要集によりて之を補ふこと今の如し。

七七

㊃一切、諸本になし。但、高本及寂遲二本、原文に從ふて之を補ふ。義依の二字、四本、阪本、山本、存本、下の句に屬し「義具サニ此ノ如キ等ノ六種ノ功德ニ依ル」と點するもの、意通じ難し。餘本、文點を訂すこと、今の如し。藝本は兩點を存す。

❶一稱等の十字、諸本直讀す。今寂遲二本に從ふ。

㊁田、永前本、因。に作るもの、形誤。

㊀匪、諸本、所。に作る。蓋し匪を恢。に作るより起れる形誤なり。縮高二本、今の如し。

七八

❶覩、歷文二本、勾。に作る。

❶波師迦華、要集に婆。師。華。に作る。異本あるか。婆師華、具名を婆師迦華といふ。

㊁如、要集になし。今集主自ら之を加ふ。此文、要集十喩を錄くる中、第三、第五、第八を連引す。

㊁尸、四本、阪本、山本、存本、月。に作るもの、形誤。

㊀出要實、要集、出。生。果實。の四字に作る。

七九

㊄上、永保二本になし。

㊂源空集の集、永前本、茉。に作るもの、形誤。

❶定の下、永保二本、業。の字あるもの、過剩。

㊁重寵、文本、輕。重。に作る。

八〇

❶阿の上、論註の文、是。の字あり。

㊁惰、四本、阪本、山本、存本、惰。に从ひ土に从ふもの形誤。

㊀九、永前本、五。に作るもの、形誤。

八一

❶知、永前本之を脫し、次の無。の字、重複す。

㊁則、文本、乃。に作る。寂本は文本に從ふ。

㊀只光等、阪本、寂遲二本、藝本、訓讀し、餘本直讀す。次の念佛成佛是眞宗の句は、諸本皆直讀するに似たり。

八二

❶遇、永保二本、逢。に作る。此句諸本「眞宗遇ヒ難シト云ヘルヲヤ」と點す。今遇本の點に從ふ。

❶相、永前本、生。に作るもの、形誤。

八三

㊁歎、文本、勤。に作るもの、形誤。

❶智の字の右傍、保曆文三本、三。點。の二字を小書す。蓋し延本の卷數を、後人が備忘のために記入したるものなり。（異本解說一七頁參照、禮懺儀に關しては、行卷四〇頁の㊁參照。

㊀儀、永前本及保本、義。に作るもの、形誤。

㊀及、寂遲二本「彌陀ノ本願願、及。ヒ名號ヲ稱スルコト」と點じ、下より回讀せず。

㊀聞、曆文二本になく、永保二本、諸高二本、阪本、山本にあり。懺儀を發するに、聞。の字藏本になく、宋元明三本にあり。されば曆文二本は藏本に據じ、其他の諸本は宋元明三本に據ずといふべし。六要本、亦聞。の字あり、鈔に之を疑ふて「十聲一聲可守護歟、十聲聞者、恐是展轉書寫誤歟」といへり。これ別行の禮讚には、十聲聞を十。聲。一。聲。に作れればなり。蓋し懺儀の原文に聞の字あるもの、過剩なるべきか。

案するに、一多證文に此深信釋を引きて、

名號ヲ稱スルコト、トコロエ、ヒトコエ、キクヒト、サメガフコヽロ一念モナケレバ、實報土ヘウマルトマウスコヽロナリ。

と集主自ら釋したまへるより見れば、所讀の本に聞の字ありしことを知るべく、從つて此釋は、正しく禮讚と懺儀との文を各樣して語を作せるこをも知るべし。されば今典聞の字あるものを以て正さずべく、曆本二本に之なきもの、恐くは後人六要鈔の說に從りて之を削りたるものなるべし。藏本は證文の釋に基き、更に修治を加へて、十。聲一。聲。聞。に作る。寂本は聞の字を衍字となし、遲本及存本は禮讚の如し。藝本は曆本を襲踏す。

此信法の文、寂遲二本「彌陀ノ本願願、及。ヒ名號ヲ稱スルコト」等と點じ、下至十聲等の句、寂本、「下十聲ニ至ルマデ」と點す。

八四

㊁乃、諸本、及に作り、「一念ニ至ルニ及アマテ」と點す。寂遥二本及存本、機機及譜譜の文に從ふこと、今の如し。縮本冠註に校異をなす。

㊂㊃乃、永前本及保本、及に作るもの、形誤。

❶之、永保二本、阪本、山本、存本になし。

八五

❶即、安樂集の文、但に作る。

㊁不繰等、諸本「他事ヲ繰セザレバ、叢道成難セシメテ」。

㊁即チ罷ミヌと點す。今寂本の點に從ふ。

㊁罷の下、樂集不用の二字あり。次の亦不の不、未に作る。所覩の本、現流の本と異なるか。寂本、不用の二字を補ふ。

❶法、存本、行に作り、侈に「法イ」の校異をなす。

㊁大、存本、本に作る。

㊁論目、今典所々論註を引くに、或は論目といひ、或は淨土論目（行卷八）といふ。これ註釋を尊崇すること、本論と異ならざるの意なり。又論註を呼ぶに註論。

八六

㊁法、存本、行に作り、侈に「法イ」の校異をなす。

字を補ふ。

八七

❶相の下、諸本、乃至の二字を細書す。蓋し一連の文なるが故に、此二字恐くは過剰。縮本、寂遥二本、之を除く。延本は、已上に作る。

㊁㊂㊃菩薩等、此牒文の點に關しては、行卷二四頁の㊁參照。

㊁五門、現流の論註、五念門に作る。所釋の淨土論は、五門に作ること、今の牒文の如し。寂遥二本、念の字を補ふ。

❶藐、暦文二本及存本、邈に作る。古書に多くこの字を見る、恐くは俗字歟。以下亦同し。

㊁得の字、崇蓮の點を附して、牒文に應ず。

㊁後、永保二本及存本、綏に作るは、統の形誤。文本及譜縮高三本は、統に作ること、現流の論註の如し。今姑く暦本、阪本、山本に從ふ。正字通に、「後音護、繩束也」とあり。然れば諸本「カテ」の假名あるは、「ツカヲテ」と讀むの意なるべし。

九〇

❶覈、永前本及保本、窮に作るもの、形誤。山本鈔に作る。暦文二本、譜縮高三本、皆亦然り。鈔は皆ヶヶ、穴なり。定んで是れ形誤。阪本、永後本、藝本、存本、註の文の如し。

㊁他利之、保暦二本及阪本「之ヲ利他ト」と點するもの、讀み難し。山本及寂本、「他ノ之ヲ利スルト」と點す。

❶若自佛、㊁自衆生、永保暦三本「若シオノヅカラ佛ヲシテ、オノヅカラ衆生ヲシテ」と點す。二門假の點、今の如し。

㊁起、暦本、超に作るもの、形誤。肩註に校異あり。

㊂的の字、諸本「ヒトシク」と點す。一説に、集主所覩の本均の字に作れるが爲かといふ。今寂遥二本の訓に從ふ。論註の坊本には、「アキラカニ」と訓ず。

㊃願音の右、保暦文三本、十八願の三字を小書す。

㊄生の上、現流の論註、得の字あり。

❶勉、譜高二本、免に作ること、現流の論註の如し。行

の語を以てする所あるも（菩薩土卷を）、之と同意なり。論註を呼ぶに本論の名を以てすること、もと安樂集に其例あり。

㊂示、大等、論註の文相は、淨土の菩薩に約するが故に、文點次の如し。

大菩薩、法身ノ中ニ於テ……種々ノ說法ヲ現スルコトヲ示ス、皆本願力ヲ以テ起セリ。

今の文は法藏菩薩に約するが故に、文點同じからず。寂本は、「大菩薩、法身ノ中ニ於テ、常ニ三昧ニマシ〳〵テ、種々ノ身、種々ノ神通、種々ノ說法ヲ現シマヌフコト、皆本願力ヲ以テ起スコトヲ示ス」と點す。遥本亦之に習ふに似たり。鬱本は「常ニ三昧ニ在レドモ而モ」と點じ、前後の文を讀むこと、寂本の如し。

㊃起、永前本及保本、超に作るもの、形誤。

㊄波、暦文二本、縮本、山本、阪本、存本、波に作る。正字通に、「波俗作波非」といふ。

九二

卷四〇頁の❶零照。

㊁顯•言•の右、保楷文三本、十。一顯。の三字を小書す。

㊁定•の上、現流の論註、正。の字あり。

㊂顯•言•の右、保楷文三本、二。十。二顯。の四字を小書す。

❶㊁超•出•等の十六字、集主出格の讀法なり。通途の點に依らば左の如し。

常倫諸地ノ行ニ超出シ、現前ニ普賢ノ過チ修習セン。

論註よた此讀法によりて釋す。寂遇二本、原文の點に改む。

㊁以•超•等の十二字、論註の文、以。超。出。常。倫。諸。地。行。故。の九字に作る。これ顯文を讀むこと、通途に順ずるが故なり。今集主特に之。の字と、現。前。の二字とを加へて、超出常倫と諸地之行現前とのニ句となすもの、顯文別途の讀法に應ぜしめんが爲なり。然るに寂本は之を存して、「常倫諸地ノ行ヲ超出シテ現前スルヲ以テノ故ニ」と點じ、遇本は現前の二字を削りて、原文の如くす。

九三

㊁他•力•、四本、高本、阪本、山本、存本、ヶに屬して「他力ヲ推スルニ」と點す。遇寂二本及寂遇二本、下に屬すること、論註の如し。

㊁塗•、永保二本、除。に从び土に从ふもの、形誤。

㊁修•、現流の論註になし。寂本之を削る。

❶劣•夫•等、論註の鎮西義山本「劣夫闥ニ跨レドモ上ラズ」と點す。安樂集（三三丟）論註の此文を引くに、「劣夫アリ、己が身力ヲ以テ闥ヲ跨テドモ上ラズ」に作る。顯名鈔此譬を引きて「イキシキ劣夫ノ闥ニノルコトヲエモナケレバ、地ヲハナレテアユムベキヤウカラナケレドモ」といふ。

㊁愚•蔑•、論註の文、遇。寂。に作る。所覽の本異ある歟。遇寂の方、文に親し。

㊁學•、永前本及保本、寛。に作るもの、形誤。

㊁局•の字註、阪本及山本、格上に在り。存本及寂遇二本之なし。

九四

㊁方•、元照觀經義の文、土。に作る。

㊁爰•非•等、四本、高本、阪本、山本、存本「方便ニ非ルコト爰シ、自心ヲ悟ラシメントナリ」と點す。今諸本の點に從ふ。寂遇二本、此下洞。諸。諸。法。の四字を加へて「方便シテ自心ヲ悟ラシメ、諸法ニ洞達スルニ非ルコト爰シ」と點す。

❶無•異•等、存本「如來ニ異ナルコトナク、法身ニ異ナルコトナシ」と點す。延本は「如來ニ異ナルコトマシマサズ、異ノ法身マシマサズ」に作る。

九五

❶言•、永保二本、云。に作る。

㊁說•の下、涅槃經の南北兩本、共に者。の字あり。

㊁了•知•等、寂遇二本「一切衆生ハ皆佛道ニ歸ストヿ知スルナリ」と點す。

㊁信•順•不•逆•、遇本及寂遇二本、經文に順じて「信順シテ逆ハズ」と點す。今點じて「不逆ニ信順ス」といふもの、微決に、不逆は其國不逆逆の義にして、自然來引の法たる名號に信順すること、の意なりといふ。

九六

❶悉•有•佛•性•の四字、諸本直讀す。今寂遇二本に從ふ。

❶非•、曆本誤。に作るもの、形誤。

❶言•、永保二本、云。に作る。

九七

㊁文•殊•等、華嚴經の文にては、文殊は對告の人なり。今「文殊ノ法」と點すること、微決に、文殊所得の法即ち念佛三昧を指すなりといふ。常爾。の二字、直讀する方宜しき歟。常爾は猶自然といふが如し。

㊁雜•修•、永本之を脫す。

九八

❶測•、四本、山本、阪本、則。に作るもの、形誤。上の諸本、以下測の字、多く側に作る。以下一々校異せず。

九九

❶故•、四本、阪本、山本、存本、故。の字より言。に回讀するもの、穩かならず。以下論註の文を引くに、この例多し、一々校異せず。此處、四本及遇寂二本、音讀す。山本、二句一行に書す。

㊁作•、四本、阪本、山本、存本、空。に作るもの、形誤。

永曆文三本、傍に校異あり。

㊁作・、曆本、住。に作るもの、形誤。

㊂就・顧、四本、阪本、山本、存本、「顧ニ就ク」と點ず。今の文、是就の二字を分釋するが故に、「顧チ就ナス」と讀むを便れりとす。今誠高二本及寂遡二本の點に從ふ。

㊃符・、永保曆三本、阪本、山本、脩。に作るもの、形誤。

100 ❶晁・餞・、論註の文、死。尸。に作る。六要本は、死。餞。に作るが如し。

㊄天・人等、諸本直讀す。

㊅顧・敎・一・乘・海・、諸本「顧敎ト一乘海ト。ニ依ル」と點ず。存本、寂遡二本、延本並に二卷鈔は、「ニ所「ト。」の釋穿なし。二卷鈔亦然り。菩薩藏、顧藏、一乘海の三名は、別法に非ず、所對に依りて名を異にするのみ。

㊆顧・敎・、存本、延本及二卷鈔の文、「ナ。リ。」の釋穿なし。

㊇喚・、諸本、釋。に作るもの、形誤。宗喚は製邦文類の編者なり。高本及寂遡二本、之を訂し、縮本註註に校異なし。

㊈還・、諸本裏に作る、蓋し形略か。寂遡二本、原文に依りて之を改むること、今の如し。

引用の句、原文と少異あり、蓋し取意の文か。即左の如し。

還丹一粒點。成。金、眞理一言承。凡。成。聖。

寂本、原文によりて之を改む。

101 ❶挾・、永前本及保本、狹に作るもの、形誤。

㊁對・、永本之を脫す。

㊂觀・、永前本、雜。に作るもの、形誤。

㊃狹・、永前本及保文二本、狹。に作り、曆本裟。に作るもの共に形誤。

㊄徑・迂・、徑、誠縮高二本、徑。に作る。正字通に「徑同徑、直也」といふ。迂、永前本及保本、迂。に作るもの、形誤。

㊅相・、永本になし。

102 ❶迴・の下、永保二本、向。の字あり。此句、存本、向。不。向。對。に作る。

㊁付・、阪本、山本、存本になし。

㊂不・滅・、永保二本、之を脫す。阪本、山本、存本、延本、不。滅。對。の三字を脫す。兩筆本また此三字なく、傍註さして之を加ふ。

103 ❶餘・、永保二本、量。に作る。蓋し尋。の形誤。

104 ❶嗟・、永保二本、譬。に作る。

㊁夫・、文本、誠高二本、存本、延本、夫。に作る。

㊂劫・、永保二本、存本、劔。に作る。

105 ❶磯・、四本、誠本、阪本、山本、存本、勞を惡。に作るもの、形誤。

106 ❶智・、曆本、知。に作るもの、形誤。

107 ❶業・敬・等の左に、保曆文三本、校異を掲げて「見敬得大慶喜人イ」といふ。蓋し下ニ二の獲信見敬大慶喜の句に對する校異が、此に誤入したるものなり。

㊁智・、曆本、知。に作るもの、形誤。

110 ❶彌・陀・本・願・、阪本もと本。願。二。乘。と書し、後塗抹して右に彌陀本願と書す。

❶如・來・、阪本もと釋。迦。と書し、後その上に朱にて如來と書す。

111 ❶圓・、永保二本、唵。に作る。

㊁獲・信・等の左、兩筆本、見。敬。得。大。慶。喜。人。の七字を書す。此句、阪本もと見。敬。得。大。慶。喜。人。に作り、後之を塗抹して左に、獲信見敬大慶人と書す。

㊂分・、永本、芬。に作る。

㊃邪・見・等、文本「邪見憍慢ノ惡衆生」と點ず。正信偈大意に釋して、「邪見ノモノト、憍慢ノモノト、惡人トハ」といへるが故に、文本の點は後人の加筆なるべし。

113 ❶信・樂・、諸本「信樂セシム」と點ず。已下七祖を嘆ずる偈を樂ずるに、前に其功勳を擧げ、後に其敎語を述ず。敎語には夫々「トイヘリ」の點あるを以て、之と區別を

明にせんが爲に、功勳を舉ぐる所には、私に「シヌマフ」の點を施せり。

一一三　❶顯•警•願、曆本、高本、阪本、山本、存本「警願ニ顯ハス」と點じ、永保文三本、謚本、延本「警願チ。顯ハス」と點す。蓋し顯の字、驚師の功勳を喚ずるものと見ると適當となすが故に、讀むこと、今の如し。願の字、報土因果の上に置きて見るべし。

一一四　❶湿•槃•の左、保曆文三本、「菩提イ」の校異を載す。延本菩。菩提。に作る。

㊁淨•土•等、保曆文三本及延本「淨土ニ通入スベキコトヲ明ス」と點す。永本、阪本、山本、存本「淨土。ノ」に作る。今之に從ふ。謚高二本、點なし。

㊁未•、曆本未。に作るもの、形誤。

㊁明•佛•等、四本、阪本、山本、「佛ノ正意。ヲ明セリ。」と點す。高本、「佛ノ正意。ニ明セリ。」に作るもの、誤脱か。今謚本に從ふ。存本は「佛ノ正意。ニ明ヲ。リ。」に作り、延本は「佛ノ正意。ヲ。ア。ラ。カ。ニ。セ。リ。」に作る。

一一五　❶願•因•緣、諸本「因緣ヲ。願ハス」と點じ、兩笠本、「因緣ニ。願ハス」と點す。今上ニミの願警願に准じて點す。

㊁智•、曆文二本、知。に作るもの、形誤。

㊁亦•、文本、遠。に作るもの、形誤。

㊁偏。、曆文二本、徧。に作るもの、形誤。

㊁倦•、存本、惓。に作る。字書に、惓倦に通ずといふ。

一一六　❶歎•、永前本及保本、記。に作るもの、形誤。讚の左、保曆二本、「談イ」の校異を載す。

㊁願鍵、永本になし。存本は、「願淨土實數。行。證文類ニ」に作る。延寛本、亦然り。阪本も數。行。證。に作り、後數と證の二字を塗抹す。

信卷本

一頁　❶摠鍵、高本になし。延本亦然り。阪本及山本は、題鍵直下にあり。遷•の字、阪本、山本、存本、我。に作る。

㊁㊂㊃及び次頁❶、曆本眉註に夫れ〳〵一。二。三。四。の小字あり。蓋し六要鈔の釋に從ふて分科を示せるもの、元より後人の所爲なり。保本には眉註なく、但分節を示す符號あり。

二　㊁巧•、文本、功。に作るもの、形誤。

㊁未•、曆文二本、未。に作るもの、形誤。

㊃行•、曆文二本、暦。に作る。總序一頁の❶參照。

㊃釋•親•靈、文本、釋の字擇。に作るもの、形誤。親の字、永本になし。延本亦然り。

❶前頁の㊁參照。

三　❶願•警•願、曆本、高本、阪本、山本、存本「警願。願ハス」と點じ、永保文三本、謚本、延本、「警願チ。願ハス」と點す。蓋し願の字、驚師の功勳を喚ずるものと見ると適當となすが故に、讀むこと、今の如し。願の字、報土因果の上に置きて見るべし。

四　❶願•鍵、永本になし。存本は、「願淨土實數。行。證文類ニ」に作る。延寛本、亦然り。阪本も數。行。證。に作り、後數と證の二字を塗抹す。

五　❶設•我•得•佛の右、山本、「十八念佛往生之願、往相回向之願」の十四字を朱書す。

㊁域•、曆本、字劃正しからず。

㊁矣•、四本細書す。

三　❶信•、永保二本になきもの、誤脱。

㊁未•、四本細書す。高本、阪本、山本、信卷と本末兩卷に分たざるが故に、本。の字なく、存本は兩卷に分つも雖も、本。の字なし。延本もまたなし。

㊁擺鍵、文本になし。阪本及山本、題鍵直下にあり。

㊁標舉の挾註、永保二本は一行に細書す。高本、阪本、山本、存本には、標舉の文、別序の餘白にあり。延本亦然り。但し高本は、挾註を二行に細書して之の字なく、餘は一行に書す。

㊁貞•、文本、直。に作るもの、形誤。

❶貞•、文本、直。に作るもの、形誤。

㊁遇•、永本、適。に作る。

❶設•我•得•佛の右、山本、「十八念佛往生之願、往相回向之願」の十四字を朱書す。

㈡無量壽如來會言の右、山本、「寶積經十八願言」の七字を墨書す。

㈢已、高本及山本、己に作り、下の句に屬して「オノガ」と讀ましむ。三經往生文類、已に作りて上に屬すること、餘本の如し。

㈣所有善根心心迴向の句、佛に約して、名號所具の萬德を、大悲心を以て行者に迴向したまふの意とする說と、衆生に約して、名號の萬德によりて往生を得ることを信じて、念々相續して得生の想を作すの意とする說とあり。若し前說によれば、「迴向セシム」の點は、迴向したまふの意に解すべく、次に引ける唐譯成就の文の「所有ノ善根迴向シタマヘルヲ愛樂シテ」と言へるに合す。若し後說に依れば、是れ自力の迴向に非ず、他力の迴向を須ゐて之を迴向するの意なれば、「迴向セシム」の點は法德の然らしむることを顯はす。私に按ずるに、今の文、前說によりて解するを親しとす。何故なれば、心心迴向を、上の聞我名已に連續せしめて一句と成し、次の願生我國乃至十念を別句となすの讀法なれば、二句を初起と後續とに分つの意なりと見るべければなり。三經往生文類建長本の點は今の如く、同康元本は「所有ノ善根心心ニ迴向シテ我ガ國ニ生レント願シテ乃至十念セン」と一連に讀ましむるもの、正しく後說の意に相當す。存本は、「迴向シ」に作る。

六

㈠諸有衆生等、山本、四字一句、二句一行に書す。

㈡至心迴向の點、二樣あり　此處と信卷末(一)信一念釋には、「迴向セシメタマヘリ」と點じ、下の三一問答段中の欲生心釋（信卷本五五）及三經往生文類には、「迴向シタマヘリ」と點す。之に就て、前の點は佛力能く行者をして名號所具の善を迴向せしむるの意にして、後の點は佛が衆生に名號所具の善を迴向したまふの意なりとする說あり。蓋し集主の筆格「セシムル」と「スル」とを同意に用ふること多ければ、今の文「迴向セシメタマヘリ」といふも、「迴向シタマヘリ」といふも、別義には非ざるべし。行者の所修、元より佛力の然らしむる所なれば、佛行者をして迴向せしめたまふといふ反射的迴向の意あるべしと雖も、尙に祖意を按ずるに、願成就の文中、獨り至心迴向の一句を佛邊に屬して訓し、以て他力の極致を開顯するの意なれば、此迴向を以て佛の直射的迴向となすを以て、祖意を得たりとなすべし。されば意義の混雜を防ぐが爲に、「迴向シタマヘリ」の訓に一定すること、宜しからんか。姑く現點を存す。此句、存本點なし。延本、「シタマヘリ」に作る。

㈢無量壽如來會言の左、山本、信成就の三字を朱書す。巳下引文を標する所、多く此三字あり。

㈣言の下、山本、菩提流支譯の五字を一行に細書す。而して菩提流支の四字は朱書し、譯の一字は墨書す。阪本及存本は、菩提流支の四字を二行に書す。

㈤衆生、永前本、衆情に作り、永後本及高本、有情に作る。山本は有情に作り、情の傍に生の字を書す。阪本は衆生の二字を塗抹し、格上に有情の二字を書す。本經衆生に作ること、今の如し。

㈥能發の上、經文乃至の二字ありて、魏譯の乃至一念に相應す。以下二處（信卷本四五、信卷末三）此文を引くに、同じく乃至の二字を除く。

㈦歡喜愛樂を訓ずるに、今典三例あり。（一）は之を二分して、歡喜を次上の能發一念淨信の句に屬し、愛樂を次下の所有善根迴向の句に屬するもの、今の文是なり。（二）は四字ともに能發一念淨信に屬するもの、下の信樂釋（信卷本四五）及信一念釋（信卷末三）の文是なり。（三）は四字共に所有善根迴向に屬するもの、下の欲生釋（信卷本五六）の文是なり。三經往生文類兩本の點は、第二例の如し。

今の文、永保曆三本、高本、阪本、山本、「歡喜セシム」又は「歡喜セシメ」と點じ、文本及澁本、「歡喜セム」と

七

點す。還本、「能ク一念ノ淨信ヲ發シテ歡喜愛樂セン、所有ノ善根迴向シタマヘリ」と點するもの、第二例に屬し、魏譯の成就の文に准ずるものなり。存本は「歡喜愛樂シテ、所有ノ善根迴向シ」と讀むに似たり。

㊇誹謗正法と謗聖者と、諸本直讀す。但寂本、後者を訓讀すること、今の如し。

㊀又言、如來會の文に次で大經を引き、而も又言の語を置くもの異例なり。又次下の二文は如來會の文なるに、大經の文に對して又言といふ。六要鈔に、前後錯亂思ひ難しとなし、一說を設けて、「雖有二翻譯之異一、梵本同故、依二其義邊一、强無二苦歟一」といふ。下（信巻本三〇）に觀經義を引き終り、又云と標して般舟讚を引き、又（信巻末一五）如來會を引き終り、又言と標して觀經を引くが如き、是と同例なり。

㊁聞法等、五言の偈、山本、二句一行に書す。

㊂能生等の句、坊本の如來會「能ク廣大佛法ノ異門ヲ生

八

ズ」と點す。今の點、廣大佛法異門を安樂淨土の事とする意なり。

㊃如來等、七言の偈。

㊄又、永前本、又に作り、保曆文三本、又に作るもの、共に形誤。以下又を又に作るもの多し。一々校異せず。

㊀聖、永本になきもの、誤脫。

㊁徧虛空の三字、諸本直讀す。今澁本及寂還二本に從ふ。

㊂諸智士、本經には諸智士に作る、卽ち「博聞諸智ノ士」の義なり。集主所覽の本、諸智士に作れる歟。今諸智所成の士と解して、極樂の別名となし、此句を、諸智士の善を諸佛が博く讚嘆するを聞くの意となす。所謂錯本によりて義を設くるものなり。眞佛土巻（六六）には、眞土を諸智士と言ふといひ、又二巻鈔（上二五）には、此文四句を引きて眞佛土の證となせり。寂本、原文に依りて之を改め、「博聞ノ諸ノ智士ハ」と點す。

㊃令、本經念に作り、「常ニ諸佛ヲ念シテ喜ヲ生セン」の

九

意となす。集主所覽の本、異ある歟。本經は生喜を衆生の事とし、今典は之を佛の事とす。次上の如是妙法已聽聞の句は、先きに引ける魏譯の聞法能不忘に當り、今の句は見敬得大慶に當るを以て、本經の如く、念諸佛而生喜に作りて衆生の事とする方、前後照應するに似たり。然るに諸註、令諸佛而生喜に作るを勝れりとし、諸の聖尊が聞法の者を重愛するは、喜を生ずるが爲なることを知らしむと解す。寂還二本は、經に從ふ。

㊄稱彼等の二十五字、論の文を牒するなり。稱の字、諸本、「稱シ」と點す。今の點、寂還二本に從ふ。

㊀黑、永本に脫す。闇、永保二本、暗に作る。

㊁空、四本、阪本、山本、室に作る、寂本、藝本、亦爾り。今原文に從ふこと、餘本の如し。

㊂如、永本之を脫す。

㊃有、寂還二本、不滿所願者より回り、「稱名憶念スレトモ、無明由存シテ、所願ヲ滿テザル者アルハ」と點す。

一〇

㊄存、現流の論註、在に作る。還本、原文に從ふ。

㊀不、六要本、之を脫す。

㊁淳の字註、阪本、山本には、一者信心不淳の頭註に、「諄字至也、誠懇之貌也、同上字」と記し、次の以信心不淳故の上に「淳字、常倫反、又音純也、又厚朴也、朴字、音卜也、藥名也」の頭註あり。後人前の頭註を省き、後の註を、初の淳の字の下に加へたるもの歟。四本それ〴〵、形誤脫字あり。今阪本及山本に從ふ。但し藥名也の三字を除く。縮高二本、存本、延本、この字註なし。六要鈔、この字註の釋あり。

㊂可の字、諸本、下の心不淳より回讀して、「心淳カラザルベシ」と點す。回讀の時は「……心淳カラズトイフベシ」と點すべし。今私に點を改む。

㊃淳、永本、醇に作る。

一一

㊀諸聞等、七言の偈。山本、二句一行に書す。

㊁至心者、讚偈の意、聞信の人となすを、今後句の迴向

の二字を組合せて、至心者を佛となし、他力迴向の深意を顯はすこと、成就の文の如し。

㊁•如の下、永本、更に如の字あるもの、過剰。

㊂二•の下、定善義の本文、者の字あり。

一二　❶益•、永本之を脫す。

㊀五•苦•の下、序分義の本文、入苦の二字あり。

一三　❶必•須•等の句、他流にては「必ズ須ラク貞實心ノ中ニ作スベシ。」と讀めど、今全く讀法を轉じて、佛の所修を須ゆるの意となすもの、集主獨特の筆格なり。次下の引文中、須の字に用の訓を施し、佛の所作を須ゆるの義に解する所、三四あり。行卷四六頁の❶參照。

㊀不•得•の二字、他流にては、內愼虛假に及ぼして讀む。今之を二句に分つもの、亦これ集主の讀法なり。

㊁苦•、文本、若。に作るもの、形誤。

一四　❶由•の字註、阪本及山本、例によりて格上に在り。類語

二本、存本、延本、この註なし。六要鈔、釋なし。

㊀所•施•等の句、他流にては、「施爲超求スル所亦皆貞實ナリ」と讀む。施爲超求、非に迫逸の用語にして、施爲は利他、超求は自利なり。今此用例に順ぜず、如來施與の行を以て衆生超求の行と爲すの意となすもの、亦集主の獨法眼なり。

㊁㊂㊃須•の字、他流にては、「須ク貞實心ノ中ニ拾ツベシ。」「須ク貞實心ノ中ニ作スベシ。」、「須ク貞實ナルベシ。」と讀む。今點を改めて他力義を顯はす。前頁の❶參照。

一五　❶攝•受•等の句、諸本、文點從容にして、無疑無慮の四字、上に屬すると、下に屬すると、二意を含むが如し。

彼ノ阿彌陀佛ノ四十八願ハ、衆生ヲ攝受シタマフコト、疑ナク慮ナシ。彼ノ願力ニ乘スレバ、定ンデ往生スルコトヲ得。

と讀む時は、無疑無慮は佛に屬す。又

彼ノ阿彌陀佛ノ四十八願ハ、衆生ヲ攝受シタマフ。

疑ナク慮ナク、彼ノ願力ニ乘スレバ、定ンデ往生スルコトヲ得。

と讀む時は、無疑無慮は衆生に屬す。寂證二本は前者の點に依る。今後者の點に從ふ。

㊁慮•、曆本、盧。に作るもの、形誤。

㊂證•觀•、諸本、一切凡夫より回讀す。今證本に從ふ。

一六　㊃深•信•者•、諸本、「深信スル者」と點す。今原文に從ふこと、寂本の如し。

❶依•行•、他流には、能行に約して「依行セヨ」と點す。今所行に約するが故に、「行ニ依レ」と讀ましむ。諸本、「行ニ依リテ」と讀みて下に續く。證本及鵜本、直讀す。

㊁遣•、曆本、遺。に作るもの、形誤。

㊂去•、保曆文三本「ュヵ」の左訓あり。この訓に從へば、「佛ノ去ュカシメタマフ處ニ、卽チ去ュク」にして、淨土に約す。今の點は穢土に約す。

㊃深•信•行•者•、他流には「深信シ行スル者ハ」の意となすもの、能行に約す。今の點は所行に約すること、前の決定依行の語の如し。證本及鵜本、「深ク信行スル者ハ」と點す。

㊁實•語•故•、諸本、「實語ナルガ故ニ」と點す。今證本及寂本の點に從ふ。

㊂由•、諸本及證本、猶の訓を附す。餘本、由の字、未除より回讀す。今私に之を改む。

❶衆•不•問•等の句、一說に

菩薩人天等ニ問ハズ、其是非ヲ定ム。

と讀みて、獨り是非を定むるの意と解し。又一說に

菩薩人天等ヲ問ハズ、其是非ヲ定ム。

と讀みて、菩薩の說にせよ、人天等の說にせよ、凡て六正六邪を以て其是非を定むるの意と解す。今の點は、菩薩人天等は正法に就きて是非を定むるを得ずの意なり。

永文二本及鵜本、「定ム」に作り、高本及寂本、「定メ

一八　ム」に作り、山本及延本、「定メムヤ」に作る。

❶捐・勤、諸本、一切凡夫より回讀す。疏の一本、また一切凡夫より回讀し、下の定生彼國者を「定ンデ彼ノ國ニ生ズト。イハヾ。」と點す。今選本の點に從ふ。

一九　❷勤・一・切等の句、諸本「一切凡夫ヲ勤メテ、一日七日、一心ニ彌陀ノ名號ヲ專念セシメテ、定ンデ往生ヲ得シメヽマフ」と點す。今選本の點に從ふ。

❶勤・勵等の句、諸本「衆生ヲ勤勵セシメテ、稱念スレバ必ズ往生ヲ得ト說シヽマフ」と點す。今選本の點に從ふ。

二〇　❶願・生・者、諸本、生者。に作る、但寂本、疏文によりて願の字を加ふ。こゝ、今の如し。

❷必・須等の句、讀法常道に異なり。他流にては、「必ズ須ク眞實心ノ中ニ回向シ、願シテ得生ノ想ヲ作スベシ」と讀む。前の一三頁の❶參照。

二一　❶想、曆文二本、相。に作るもの、形誤。

二二　❶破・戒・破見、文本、破。見。戒。見。に作る。

❷沙、四本、阪本、山本、砂。に作る。

❸寫・識、高本、藝本、選本、直讀すること、今の如く、餘本、「サトリヲウツル」と訓す。

❹即、永樂本、耶。に作るもの、形誤。即目、諸本「即チ目ニ」と點じ、疏には「目ニ即シテ」と點す。光融錄に、即目は矚目に同じ、同音假借なりといふ。今之に從ふ。

❺千、文本、手。に作るもの、形誤。

二三　❻法、永本之を脫す。

❶爲の字註、阪本、山本は、裕上に朱書し、藏高二本、存本、延本には、之なきこと例の如し。此下彼也の彼、恐くは被の形誤。然るに一多證文に、直爲彌陀弘誓重の爲の字を釋する中に、「カレトイフ」といへるを以て、姑く之を改めず。微決に、彼は被と同音なるが故に、被也の訓を借りて爲の字を彼也の義に解し、爲。此題綠起行の句を、彼（汝）と此（我）と綠に隨ふて行を起すの意

二四　となすなりといふ。延本「コレガヽメニ」と訓す。

❷霧、諸本、霧。に作る、今疏文に從ふ。

❶欲・向・西・行等、諸本、「西ニ向テ行カント欲スルニ、百千ノ里ナラン」と點す。今寂本の點に從ふ。

二五　❷忽、曆文二本、忽。に作るもの、形誤。以下之に准ず。

❸見、諸本になし。寂選二本、疏文によりて之を加ふること、今の如し。山本、本文になく、經頭に之を補ふ。

❹在、曆本、有。に作るもの、形誤。

❺許、文本、計。に作るもの、形誤。

二六　❶迦、謚高二本、迦。に作る。

❷此・人、四本、高本、阪本、山本、上の句に屬す。寂本亦然り。謚藏二本の點、下の句に屬すること、今の如し。存本、選本、藝本、亦然り。

❸狹、永保二本、狹。に作るもの、形誤。

❶應・可・度、保曆文三本、阪本、山本、「可度スベシ」と點す。餘本、應可の二字、連用一意となす。

二七

㊁正・當・身・心、諸本及遐本、「身心ヲ正當ニシテ」と點す。

㊂惡、存本、雜。に作る。

❶迴、永保二本、迴。に作るもの、形誤。

二九

❶妄・說・見・解等、永本、諸高二本、寂遐二本、麟本の點、次の如し。

妄ニ見解ヲ說テ造ニ相惑亂シ、及ビ自ラ罪ヲ造テ退失スルニ喻フルナリ。

法華問答に此文を引くに、讀法亦右の如し。此意、上の句は、別解別行人等が行者を惑亂するこゝとなし、下の句は、行者が造罪退失するこゝとなすなり。この點、疏の文相に親しく、鎮家之を三心退轉の所據となす。然るに今の點は、造相惑亂と造罪退失とを以て、別解別行人等が行者を誘惑する爲に設く所の事となす。即ち、汝等の見解一に非ず、造に相惑亂し、又自ら罪を造り、罪の爲めに妨げられて信心を退失すと、妄說妨難するの意なり。

三一

㊁倒、永保二本、到。に作るもの、形誤。

㊂向、諸本、「ムカヘタマフ」と訓するもの、音通の爲に迎の誤となすものか。今の點、遐本の如し。

㊃轉、諸本、轉。に作る、今疏文に從ふ。

㊄遺、永前本、遊。に作るもの、形誤。

❶第・十・一等、貞元新定釋教目錄を檢するに、その卷十一に、傳譯經業四十六人の名を列擧する中に、

沙門釋智昇經論錄撰二十五卷等

とあり。而して卷十四に、五部二十五卷の書目を掲げ、卷廿三に新編入藏の書を擧ぐる中に、

集諸經禮懺儀二卷、大唐西崇福寺沙門釋智昇撰、新編入藏。

とあり。今「新編入藏」の四字に代ゆるに、「准貞元十五年十月廿三日勅編入」の十六字を以てするもの、集主の意に出づ。蓋し卷第十一、傳譯經業列名中「沙門釋智昇」の前二人目に、

沙門釋日羅菩提四部七卷元十五年十月又二十二日勅編入部十卷准貞

とあり。而して卷十四、智昇の書目を擧ぐる下に、准勅編入の記事なきも、其前文、釋日羅菩提所譯の經を擧げて、

所譯經法、不及得開元目錄、今。諸。准。勅。編。入。貞元所定釋教目錄、下。皆。例。此。

といへるより推して、智昇所撰の書も、亦貞元十五年十月二十三日の勅に准じて編入せられたるものなることを知るなり。釋日羅菩提の細註、二十二日とあるは、餘所の例に准ずるに、二十三日の誤なるべし。

㊅撰の下、諸本、也。の字あり。經錄の原文、此字なし。恐くは轉寫の本文に濫入したるもの歟。

㊆勅、四本、阪本、山本、勅。に作りて「勅編ヲ入ル」と點す。寂本、麟本、亦然り。諸經高三本及遐本、勅に作る。今之に從ふ。

㊇㊈云・云、永保二本、二行細書す。

三二

❶及、寂遐二本、「彌陀ノ本弘願、及ビ名號ヲ稱スルコト」と點す。

㊁十・聲・聞等、保歷二本、存本、麟本、十。聲。一。聲。聞。等。に作り、文本、縮本、遐本、十。聲。一。聲。聞。等。に作る。永本、諸高二本、阪本、山本、今の如し。行卷八三頁の㊃參照。

㊂乃、諸本、及。に作り、「一念ニ至ルニ及アマテ」と點す。今懷感及疏鈔の文に從ふ。縮本冠註に校異をなす。

㊃圭・存等、五音の假。山本、二句一行に書す。

㊄心、諸讀、念。に作る、懷感今の如し。存本及延本は、諸讀に從ふ。

㊅可、要集の一本、この字なし。龍谷山藏寂七祖聖教は、今の如し。

三三

❶不、四本、阪本、山本、之。に作る。諸高二本及寂遐二本、要集の文に依りて之を補ふこゝ、今の如し。縮本冠註に校異をなす。

㊁異・變、要集の文、變。異。に作る。

三四

㊁長、諸本の點、諸煩惱業に流至す。今寂遇二本に從ふ。

㊂減、要集の文、減。に作る。

㊃倦、阪本、山本、存本、倦。に作る。行卷一一五頁の㊃參照。

❶非・無因等、此句の所據たる論註の文（證卷三所引）は、「無因ト他因ノ有トニハ非ザルナリ」と讀みて、無因計と他因計との二者に前ぶの意なるが、今の點は無因他因有の五字を一意となし、自因なくして他因に依るに非ずとするなり。即ち報土に往生するは如來回向の行信を因とすることを讃仰するの意なり。遇本は原文の點に從ふ。存本、無因の上、無。業。の二字あり。

㊄愚鈍等の入字、下の論主合三爲一歎の上に置きて見るべきが故に、今之を讀み切りて、問の何以故に繼ぜしむ。現點之を讀み切らざるに就きて、一說に、合三爲一は機に契ひ法に契ふ、愚鈍衆生等は契機の因故を示し、彌陀如來等は契法の因故を示すものなりといふ。

㊅國、永保曆三本、門に从ひ國に从ふものゝ、形誤。

三五

❶忠、永前本、忘に作るもの、形誤。下の一所亦爾り。四本、阪本、山本、「ニ、ロヂシ」の左側あり。

㊆作の字註、阪本、山本、格上に在り。縮高二本、存本、延本、之なし。永本、藏・落・反の三字なく、起の下、也の字なし。始・也の二字、阪本、山本にては、役也の次に在り。

㊇役の字、保曆文三本、役。に作るもの、形誤。一說に、羅の字、還。に作るべく、藏・落の二字、藏路。に作るべしと。

三七

❶測、永前本、保曆文三本、阪本、山本、惻。に作るもの、形誤。

㊈海、永前本及保本、晦。に作るもの、形誤。

㊉話、永本になし、恐くは誤脫。

㊊以、永保二本、之。に作る。

三八

❶想、曆本、相。に作るもの、形誤。

㊋觸、四本、縮高二本、阪本、山本、之。に作る。縮本及寂遇二本、經によりて之を訂すべし、今の如し。

三九

㊌先意、諸本、「意ヲ先ニシテ」と點す。先意とは、意を發さんとするに、聚め之を知るの義なれば、點を改むるべきなり、遇本の如し。

㊍門、曆本、門。に作るもの、形誤。

㊎倦、永保文三本、倦。に作る、縮高三本、又然り。曆本、阪本、山本、本經の麗本倦。に作るに從ふ。行卷一一五頁の㊎參照。

❶處、永本、藏。に作る。

❶願、諸本之なし。寂遇二本、如來會の本文によりて補ふべし、今の如し。

㊐時、縮本、寂本、延本、上の句に屬して點す。

四〇

❶內、諸本、上の句に屬して點す。初、諸本「初メテ」と點す。今の點、縮本、存本、寂遇二本、藝本の如し。

㊑嘆、藏中の如來會、嘆。に作るべし、今の如し。縮縮高三本、頌。に作る。

㊒敬、保曆文三本、欲。に作るもの、形誤。

四一

㊓乃至、此處四十八字を乃至す。

㊔心の字、四本、高本、阪本、山本、存本、上の句に屬す。餘本、經文に從ふべし、今の如し。

❶所・施等の句、通途の點に異なり。上の一四頁の㊁參照。

㊕須の讀法、他流と異なり。上の一四頁の㊁㊂㊃參照。

㊖是、永前本、見に作るもの、形誤。

㊗不・可稱の三字、永本になし。

四二

❶也の下、涅槃經北本の麗本にて、三百六十五字を、餘本にて三百六十四字を乃至す。

㊘即、永本になし。

㊙即の下、永保二本、是の字あり。

四三

❶世の下、涅槃經の本文、「若我滅世、皆悉黑闇、遠離光明」の十二字あり。今之を乃至す。

㊚問、永前本、門。に作るもの、形誤。

㊛明、經の本文、光。に作る。

四四
㊁譌、文本、滿。に作る。恐くは形誤。
㊁無、文本、一。に作るもの、形誤。
❶徳、暦文二本、得。に作り、傍に校異をなす。

四五
❶能・發の上、經本、乃。至。の二字あり。上の六頁の㊁參照。
㊁愛・樂の二字、永本、縮高二本、阪本、山本、存本、延本になし。上の六頁の㊁參照。

四六
❶導、涅槃經の北本、南本の宋元二本、必。に作る。
㊁拾、四本、阪本、山本、この字なし。謹本、高本、寂遇二本、藪本、經文によりて之を加ふ。今の如し。縮本寂註に校異をなす。拾の字なきにつきて、微決に曰く、二十五有は是れ所化の境なり、文の意は、菩薩大喜捨心なくば、二十五有を化すること能はず、然れば則ち回轉菩提を得ること能はずとなりと。
㊁導、南北兩本、必。に作る。
㊁說、永前本になし、恐くは誤脫。
㊁佛・性等の七字、永本に脫す。

四七
㊁菩・薩の上、諸本、以。の字あり。縮本及寂遇二本、經によりて之を削ること、今の如し。
❶㊁畢、北本、南本の宋元明三本、必。に作る。
㊁說、四本、阪本、山本の點、三藏提より回讀せしむ。文の意、說の字、信心爲因に法至すること在り。今化土卷本（五六）所引の、此文の點に從ふ。

四八
❶種、南本、北本の元明藏三本には、此字なし。
㊁是の下、南北兩本、故。の字あり。遇本之を補ふ。
㊁聞・此・法等、五言の偈。山本、二句一行に書す。華嚴經の原文は、「此ノ法ヲ聞テ歡喜シ、信心疑ナキ者ハ」と讀むの意なり。今の點、「信心ヲ歡喜シテ」と云ふもの、本願成就文の信心歡喜の語に順ずるものか。末燈鈔に此文を指示して、「信心ヲサルヲヨロコブ人ヲバ、經ニハ諸佛トヒトシキヒトヽトキタマヘリ」といへり。存本、寂遇二本、藪本、經の點に從ふ。

四九
❶如來等、五言の偈。山本、二句一行に書す。

五〇
㊁信・爲等、七言の偈。初の句、永保二本、高本、遇本の點、今の如く、餘本は「信ハ道ノ元ト爲ス、功德ノ母ナリ」と點ず。
㊁綱、暦文二本、謹高二本、綱。に作るもの、形誤。
㊁信・無等の二句、諸本「信ハ垢濁ノ心ナシ、清淨ニシテ憍慢ヲ滅除ス、恭敬ノ本ナリ」と點ず。今の點、縮本、寂本、藪本の如し。延本、また心の字を下に屬す。
❶信・爲等の句、四本、阪本、山本「信ハ功德ノ爲ニ種ヲ殖ラズ」と點ず。藪本亦然り。餘本は「信ハ功德不殖ノ種ト爲ル」と讀ましむ。微決に、本經の意は「信ハ功德ノ爲ニ不殖ノ種ナリ」と讀むの意にして、現點は、他力の信心は往生の果德の爲に因と爲り、而も其因は金剛の如くにして破壞せざるの意を顯はすなりといふ。今本經の點に從ふ。
㊁乃・至、此處、十句を略す。
㊁佛、諸本「ニ」の轉聲を附す。今寂本に從ふ。

五一
❶法、㊁僧、諸本「ニ」の轉聲を附す。今寂本に從ふ。
㊁則・得等の句の上、本經「則能遠離惡知識、若能遠離惡知識」の二句あり。寂遇二本之を補ふ。
㊁若、四本、阪本、山本、則。に作るもの、形誤。餘本、本經に從ふこと今の如し。縮本冠註に校異をなす。若の下の得の字、謹高二本、能。に作る。
㊁㊁集、經の宋元明三本、習。に作る。

五二
㊁護、文本、獲。に作るもの、形誤。
❶此、藪本、屬を本。に作るもの、形誤。
㊁能、本經、得。に作る。謹高二本及寂本、之に從ふ。
㊁㊁善、四本、阪本、山本、「善チシテ」と點ず。文本は、前の善に「チモテ」の轉聲あり。「チシテ」は「チモテ」の意なること、餘處の例の如し（行巻四二頁の㊁參照）。謹高二本、寂遇二本、存本、藪本の讀法、今の如し。微決に、善とは善根の義にして、自利の善根能く度生の善根を成ずるの意なりといふ。

五三　㊁㊃蜜、曆本、密。に作る。

❶即、永本、之なきは誤脱。保曆文三本、阪本、山本、得。に作るもの、形誤。

五四　㊁㊄辯、四本、辨。に作る。

❶言、用例に准ぜば、當に曰。に作るべし。

㊁彩・信等の句、論註の意「信ヲ能入ト爲スコトヲ彩ハス」と讀むに在り。化土卷本(四三)の私釋に、今の讀法に依りて語を遊る。通本、原文の點に改む。

五五　㊁入、永前本・及保本、人。に作るもの、形誤。

❶喇、永保二本、誠縮高三本、漂。に作る。

五六　㊁有の下、永本、情。の字あり。

❶散・響の二字、縮高二本、阪本、山本、存本になし。上の六頁の㊁參照。

㊁云・何・迴向等の二十七字、論文を脱す。此文の讀法、通途に順ぜず。迴向を以て凡て佛に約して點ず。行卷三三頁の㊁參照。存本、すべて異重の轉聲を用ひず、意、論註の文相に從ふに似たり。

五七　❶云、文本、言。に作る。用例に准ぜば、當に曰。に作るべし。

㊁曰の二字、論註の原文になし。證卷(五)所引の文、即ち此二字なし。微決に、此論文は他力回向の根本を明して、要中の要文なるが故に、集主殊に論曰の二字を加ふる事さいふ。是れ散善義三心釋の初に（信卷本三所引）、綽南大師經。云。の二字を置くの意に同例するものなり。

五八　❶願・心、諸本「ノ」の轉聲を附す、誠高二本には轉聲なし。今寂本の點に從ふ。

㊁知の下、永保二本、者。の字あるもの、過剰。

㊃非・無・因等の句、論註の意、「無因ト他因ノ有トニハ非ルナリ」と讀むに在り。上の三四頁の❶參照。寂通二本、原文の點に從ふ。

㊄以・本・願等の句、通途に在りては「本願力ヲ以テ迴向スルガ故ニ」と讀む。今他力回向となすが故に、別途の讀法を用ふ。

九　❶願、諸本になし。今疏文によりて補ふ。上の二〇頁の❶參照。

㊁必・須等の句、通途の讀法に異なり。上の二〇頁の㊁參照。

㊃由、二卷鈔(下十五)に此文を引て、「ナホシ金剛ノ如シ」と訓ず。

㊄學、永前本、保本、覺。に作るもの、形誤。

㊅投、脣文二本、誠縮高三本、捉。に作る。永保二本、投。に作ること、疏文の如くして、訓を附すること、捉の字の如し。阪本、山本、捉。に作り、左に「トヲ」の音、右に「トテ」の訓を附す。寂通二本、投。に作る。上の二一頁の㊅參照。

㊆不・得の二字、迴顧落道と、失往生之大益とに流至するの讀法あり。上の二一頁の㊆參照。寂本の點、今の如し。

㊇白、永前本、向。に作るもの、形誤。

六〇　❶道・俗等、五言の傳寫。

㊁各・發・無上・心、二卷鈔(上十二)に引きて、「無上心ヲ發セ」と讀ましむ。無上心を解するに、二卷鈔は他力に約するが故に「チヨモ」と點じ、今典は自力に約するが故に、「チヨモドモ」と點ず、彼此互に一義を顯はすなり。

六一　❶法の下、十七句を乃至す。

❶正・受等の三句、疏文に在りては、前文と共に所歸の人を顯すのみなり。即ち

……彌陀及ビ等覺ノ正受金剛心ト、相應一念ノ後ノ果德涅槃ノ者ト、皆名ス。

の意なり。即ち正受金剛心は、等覺の菩薩の金剛喩定に住するの心にして、相應一念の後の果德涅槃の者とは、即ち彌陀なり。

今の點全く別途の意を顯はす。「正シク金剛心ヲ受ケテ」と點じて、佛回向の金剛心を領受するの意となす。相應一念後の句、永本、通本、二卷鈔(上十五)に從

ふて、「相應一念ノ後」と讀ましむ。今の點、相應一念の四字を翻倒するもの、集主の讀法にして、華嚴經の歎喜信心の句を翻倒して讀むと同例なり。（上の四八頁の㊁參照）。

疏の果德の德、今文重に二卷欠、共に得に作り、「果、退槃ヲ得ル者」といひ、必至滅度の義を顯はす。果の字、今私に「トシテ」の點を加ふ。一説に、果とは畢竟決也の義なりといふ。

㊁從・、高本、「ダノミタテマツル」の訓を附す。

㊂免・、疏文、勉。に作る。行卷四〇頁の❶參照。

㊁歎・、永保二本、嘆。に作る。

六二　❶必・、讃文の法に從へば、當に不の字の下に置くべし。

㊁如・、永本之を貶す。

六三　❶不・可・說・の下、保曆二本、不・可・稱・の三字重出す。文本には、不可稱の三字、不可說の上になく、下に在り。

㊁堅・、永保二本になし。

㊁密・、曆文二本、阪本、山本、蜜。に作る。

㊂小・、曆文二本、阪本、山本、少。に作るもの、形誤。

六四　❶雖・、光融鈔は、化卷本（三ウ）に、「夫雜行雜修其言一而其意惟異」と言へるより例知して、雖の字は定人で惟。の形誤ならんといひ、本文を改めて解す。

㊁之・、永保二本になし。

六五　❶發・・者・、現流の論註、皆。發。に作る。

㊁之・、文本になし。

㊁是・、論註現流の本になし。

㊂攝・取・、高本左訓に、「ヲサメ、ムカヘトリタマフナリ」とあり。

㊁言・、四本、高本、阪本、山本、「言フコヽロハ」と讀ましむ。今證卷（三三）所引の此文の點に從ふ。

六六　❶向・、曆本の點「向ハシメ上ルナリ」といふは、穩かならず。此迴向の名義釋、他力の迴向となすが故に、讀法頗る異なり。但存本は崇重の轉寫を改め「一切衆生

ニ施與シテ共ニ佛道ニ向ハシム」と點すもの、自力の回向となすの意か。姑く疑を存す。

㊁豪・賤・の上、元祖小經疏の本文、不。揮。の二字あり。遇本之を補ふ。

㊁善・惡・の上、同じく不。選。の二字あり。寂遇二本之を補ふ。

❶剎・那・等の句、存本及延本、「剎那ニ成佛ノ法ヲ超越ス」と點じ、寂本、「剎那ニ超越シテ成佛スルノ法ナリ」と點す。

㊁世・間・の上、疏文一。切。の二字あり。

㊁㊂闕餘の爲・、疏文になし。初の難・の上、疏文一。の字あり。

㊁也・の下、數行を乃至す。前の引文「念佛法門……基雖信也」は、今乃至せる文の最後に在り。

㊁意・、諸本上の句に屬して點す。但縮本、寂遇二本、疏文に從ふこと、今の如し。

㊁說・法・難・、原文の意、「說法ノ難」と讀みて、他說の難を

六七

六八

遇すること、なり。今轉じて所說の難となすが故に、文點を改む。藤本は原文の點に從ふ。

㊁以・、諸本、藤本、寂遇二本の點、今の如く、餘本「此法ヲ以テ」と點す。高本點なし。

㊁乎・、一說に、手。の形誤ならんといふ。諸本、遇本、藤本の點、今の如く、餘本、「事ヲ及スガゴトクナルヲヤ」と點す。

㊁容・易・敎・、諸本、「易カルベキガ故ニ」と點す。今諸本及寂本に從ふ。遇本及藤本、「天ニ容易ダルガ故ニ」と點す。

㊁凡・淺・衆・生・、保曆文三本、高本、阪本、山本、寂本「凡ソ淺キ衆生」と點す。

❶不・前・愚・智以下の文、諸本、標。本疏によりて出し、釋。を聞持記によりて細書す。其餘、惣類の疏。を引く時の如し。今標釋。を一連に書すること、縮本の如くす。延本は標。を訓讀す。

㈡利、曆本、刹に作るもの、形誤。
㈢弱、永前本、醜に作るもの、形誤。
㈣信、永本之を脱す。
㈤中、聞持記の本文、下に作る。然るに地獄衆火等の文は、觀經下品中生に在るを以て、中に作るを正しとす。
㈥二惑、記の文、三惑に作る。永前本一或に作り、惑の字、保曆二本、或に作るもの、共に形誤。
㈦超越、保曆文三本、法より回讀す。
㈧酤、四本、阪本、山本、旁を盍に作る。藝本亦爾り。餘本、記の文に從ふこと、今の如し。
㈨止の下、永本、人の字あるもの、過剩。
㈩阿彌陀等の三十二字、聞持記の引文中に在るもの、疑ふべし。記の前後に此語あることなし。一說に、所覽の記に此衍文ありしならんかといふ。姑く、記の文と離して存置す。
㈠矣、永保二本、細書す。
㈡曾未聞等、四本、阪本、山本の點、次の如し。
曾テ未ダ聞カズ、自障自蔽ヲ以テ說ヲ爲スコトアル者、得ルニ因テ以テ之ヲ言フ。
還本之を改めず。餘本、樂邦文類の文に從ふこと、今の如し。
㈢疑、述聞に、凝の形誤として解し、樂邦文類の本文誤つて疑に作れるを踏襲せるものなるか、或は集主是正して凝に作れるを、後人傳寫の際誤つて疑に作れるやも知るべからずといふ。
㈣但使等、諸本の點、次の如し。
但疑愛ノ二心ナシテ、了ニ障礙ナカラシムルハ、則チ淨土ノ一門ナリ、未ダ始テ間隔セズ。
但澁本、「未ダ始ヨリ間隔セズ」と點ずること、今の如し。高本及藝本、また澁本に同ずるに似たり。原文の意、淨土一門と彌陀洪願、未始間隔と常自攝持、對句をなす。寂本、原文に從ふこと、今の如し。

㈤隔、文本、扁を手に作るもの、形誤。
㈥題號、高本、阪本、山本、存本、延本になし。信卷を本末に分たざるが故なり。
㈦本、永保二本、細書す。

永保二本、卷末に一紙を添へて、左の奥書を刻せり。

本云
寛元五年二月五日以善信聖人御眞筆秘本加書寫校合訖　隱倫尊蓮六十六歳

又云
元弘三歳癸酉從初春上旬之候厄孟夏下旬之天終書寫微功畢於寫本者以聖人眞秘本加寫合云云於當本者以松影助阿之證本重令校合而已釋乘專三十九歳
曆應四歳辛巳十二月廿八日遂筆硯之漸寫畢殊迎本願寺聖人之御緣日慮外終
右毫之功聖人定垂納受小質宜協知見者歟可喜可尊凡於此書者念佛成佛之咽喉諸門超勝之眞路悲喜交流感涙難抑而已
右初の奥書の訖の字、永前本、記に作るもの、形誤。因に寛元五年は、集主入寂の前十五年、元弘三年は、入寂の後七十二年、曆應四年は、更に九年後なり。

信卷末

㈠題號、㈡撰號、高本、阪本、山本、存本、延本、本末兩卷に分たざるが故に、之を安ぜず。
㈢末、永保二本細書す。

㊃諸有等、山本、四字一句、二句一行、偈頌の體に書す。
㊄至心迴向、此句の點につきては、信卷本六頁の㊁參照。
㊅他方等、山本、四字一句、二句一行に書す。

二

㊀能發の上、經本乃至の二字あり。信卷本六頁の㊅參照。
㊁愛樂、縮高二本、阪本、山本、存本、延本になし。信卷本六頁の㊄、同じく四五頁の㊁參照。
㊂其佛等、五言の偈頌。山本、二句一行に書す。
㊃聞佛等、五言の偈頌。
㊄未、涅槃經南北兩本、共に不に作る。寂本之を改む。
㊅不能の二字、澁本、寂遐二本、藝本、存本、解說より

回讀するもの、本經の意に從ふ。現點、諸註には、自行なくして利他するを嫌ふの意となす。

三

㊀持讀誦說、北本の麗本は、受持讀誦解說の六字に作り、宋元二本は持讀誦解說の五字に作り、明本は讀誦解說に作る。南本は持讀誦說に作ること今の如し。集主所覽の涅槃經は南本なる乎。永保二本は、持の上受の字あり、寂本は明本に從ふ。
㊁形身等、諸本、「身心悅豫ヲ形ハス貌ナリ」と點す。今存本及遐本の點に從ふ。貌の字、永保二本、阪本、山本、兒に作り、曆文二本及存本、貌に作る。今澁縮高三本に從ふ。行卷五二頁の㊁參照。
㊂攝多等、四本、阪本、山本、「多少ノ言ヲ攝スルナリ」と點す。寂本亦然り。今澁高二本、藝本、遐本、存本の點に從ふ。

四

㊀心、文本、念に作るもの、形誤。

六

㊀是心等の十二字、上に屬して、諸心を會する二十句の結文と見る說と、下に屬して大悲心の所由を顯はすものとなす說とあり。現點從容にして何れとも定め難きが、前說の方、文義共に親しき故に、之に從ふて點す。
㊁故の上、存本、也の字ありて、故の字、次の「論註曰」に屬せしむ。延本、また故の字を次の句に屬す。

㊂云、前文に論註曰といひ、今文又云といふもの、常例に違す。微決に、祖意論註主を以て、或は菩薩となし、或は人師となす、上に曰の字を用ひて菩薩たることを示し、次に云の字を用ひて人師の末釋たることを示すといふ。

七

㊀木、文本、本に作るもの、形誤。
㊁正智、永本、正知に作るもの、形誤。

八

㊀提、山本、薩に作るもの、形誤。

九

㊀化、永前本、他に作るもの、形誤。
㊁懈、文本、解に作るもの、形誤。
㊂頃、永前本、頓に作り、保曆二本、項に作り、文本、阪本、山本、兩筆本、傾に作るもの、何れも形誤。
㊃我建等、五言の偈頌。
㊄道の下、七句を乃至す。
㊅必得等、山本、二句一行に書す。
㊆趣、文本、超に作るもの、形誤

一〇

㊀支讓等の註、山本及存本には、經の下、言の上に在り、而して山本、也の字なし。阪本は、經の下、支讓の二字あるのみ。支の字、阪本、山本、友に作るもの、形誤。
㊁隨「トコロ」の訓あるは、魏譯の自然之所率の語に准して義訓を附するものか。澁本及寂遐二本、「率クニ隨フ」と點す。存本、隨の字所に作る。
㊂無生等の句、存本、「生ナクシテ當ニ生ヲ受クベシ、趣ナクシテ更ニ到リ趣クベシ」と點す。

一一

㊀會當等、五言の偈頌
㊁度、經の麗本、濟に作る。龍谷山依用の本は、麗本の如し。
㊂會當等、七言の偈頌。
㊃將、諸本、「マサニ……セントス」と讀ましめ、上の當の字に回へらず。但し寂本は當の字に回る。行卷一〇頁の㊀參照。
㊄四大等、諸本、「四大ノ暴河ニ漂フコト能ハザルガ故

一二

ニ」と點ず。今、寂遐二本の點に從ふ。

㊁•隷、脣文二本、裁。に作るもの、形誤。

㊂•四の下、永保二本、者。の字あり。涅槃經を後するに、南本の元明二本及北本、者。の字あり。南本の尖庵二本、この字なきこと、今の如し。

❶•貪而等、諸本「貪シテ厭ハザルベカラズ、……輕ジテ忻ハザルベカラズ」と點ず。今兎に點を改む。

㊃•輪、般舟讃の文、淪。に作る。阪本、山本、存本、原文の如し。

㊄•絕、存本、遐本、藏本「絕ス」と點じ、餘本、「絕ュルヲヤ」と點ず。

㊅•己、禮讃及議後には曰。に作り、「曰ニ偽ク」と讀みて下の句に屬す。六要鈔には「善自等者、言顧涯分、一本爲己今己爲正」といへり。化土卷本に云に、「闔世道俗、善自思量己能也」といひ、又（同）「今時道俗、思量己分」といふもの、語例を今の文に取るものなり。

一三

寂本及藏本、原文に依りて之を改む。

㊆•須、諸本の點、次驗より回讀せしむ。藏本、今の如し。

㊇•上、攢龕には止。に作る。禮讃は今の如し。

㊈•逆、攢龕及禮讃、共に經。に作る。

❶•必、永前本、心。に作るもの、形誤。

❶•眞佛弟子、永前本、保曆文三本、「眞佛ノ弟子」といふもの、穩かならず。

㊉•輙、諸本燼に作る。今謙藏高三本及遐本に從ふ。今典間々輙を燼に作る。

一四

❶•邊、經文、敷。に作る。編本校異なし。

㊀•殺生、永後本、有情。に作る。

㊁•菩提、經文、正覺。に作る。寂本之を改む。

㊂•明法等、五音の假顯。山本、二句一行に書す。

㊃•非有等、此文略書に引きて、「其レ至心ニ安樂國ニ生レントト欲スルコトアレバ」と點す。寂本の點、略書の如し。但し者を人者となす。存本は、「其レ心ヲ至シ

一五

テ安樂國ニ生セント願スルコトアラン者」に作る。

❶•解、永本讃歌。解の下、經文、之の字あり。自然の略のみ。

㊁•前大の下、經文、佛。法。の二字あり。信卷本七頁に引けるる文は、經の如し。此文彼と此と、讀方小異あり。

㊂•又言、大經の引文を並べて、又言と標出すれども、之は觀經の文なり。微決に、觀經は隱彰の實義を以て直に大經となすの意なるを以て、此文觀經中に在りと雖も、引て以て大經となすなりといふ。所謂義類相從の例なり。

㊃•分、永保二本、芬。に作る。分と芬、共に梵音を寫せるものなれば、何れにても宜しけれど、草花の名なるが故に、意樂により芬の字を用ひたるなるべし。

㊄•於說等、安樂集の意、醫王想と拔苦想は、說者が自身に對する心想にして、增長勝解想と愈病想とは聽者の心想なり。故に文を讀むこと左の如し。

一六

說。法。ニ。於。ケ。ル。者。ハ、醫王ノ想ヲ作セ、拔苦ノ想ヲ作セ。……非。ノ聽。法。ノ者。ハ、增長勝解ノ想ヲ作セ、愈病ノ想ヲ作セ。

今隨義轉用して、醫王想と拔苦想とを聽者が說者に對する心想とし、增長勝解想と愈病想とを、說者が聽者に對する心想とす。故に文を讀むこと、右に同じからず。然るに謙藏二本、存本、延本、後を聽者の心想として點ずること、本集の如し。

㊅㊆•想、永前本及保本、相。に作るもの、形誤。

❶•若能等、諸本「若シ能ク是ノ如キ。說者聽者」と點す。今存本、延本、寂遐二本に從ふ。

❶•至心、保曆文三本、「至心。チシテ。」と點じ、山本及延本、「至心。チモテ。」に作る。「チシテ」は「チモテ」と同義なり。

㊁•云、永保二本、言。に作る。

㊂•作、本集には住。に作り、「恒ニ此人ト與モニ而モ住シテ

一七　施ヲ受ク」と點す。六要鈔に曰く、「且或一本、以作。爲住。若依作義、諸佛世尊、爲其行人、且受供養、且施利益。若依住義、諸佛世尊、住其人邊、如前受施。」

寂本は原文によりて之を改む。

❶長・養・、保延文三本及藪本、我等より回讀し、下の大慈悲身に「ヲ」の轉倒を附す。寂本また我等より回讀し、法身等を所成の法となす。

㊁王・、本集、主。に作る。

㊂波・、永保二本及延本、般。に作ること、本集の如し。

㊃墮・、藪本、墮。に作るもの、形誤。

㊄逕・無・量・劫・、本集上の句に屬す。寂本、原文に從ふ。

㊅能・の下、本集、得。の字あり。寂本之を補ふ。

㊆依・善・等、存本、「善知識ノ邊ニ我ヲ教テ念佛三昧ヲ行セシムルニ依テ」と點す。

❶佛・遊・等、諸本、「佛シナガラ諸障ヲシテ力ニ解脫ヲ得シム」と點す。今存本及選本の點に從ふ。

一八

一九

㊇要・須・等、存本及寂本、集に依りて「要ズ須ク菩提心ヲ發スヲ源ト爲スベシ」と點す。

㊈周・徧・、現流の安樂集、徧。周。に作る。往生要集（上末二十五丁）に此文を引くに、周。徧。に作ること今の如し。

㊉法・界・の下、「此心究竟等若虛空」の八字を略す。

㊊普・備・、寂本、「普ク備ヘテ」と點じ、選本「普徧シテ」と點す。

㊋心・の上、本集、此。の字あり。

㊌輪・、本集、淪。に作る。要集の引文輪に作ること今の如し。

㊍云・、集になし。

❶此・等・の上、本集、當知。の二字あり。寂本之を補ふ。

㊎人・の下、本集、也。の字あり。

㊏唯・根・等、七言の偈頌。

㊐竹・、高本、「カナフ」と訓するもの、疑ふべし。

㊑乃・至・、四紙餘を越隔す。

㊒乃・至・、四句を略す。

二〇　㊓佛・世・等、五言の偈頌。山本、二句一行に書す。

㊔悲・、機儀の失元明三本、心。に作る。

❶弘・、永保二本及存本、傳。に作る。機儀の廢本は、弘。に作り、餘の三本及禮讃は、傳。に作る。

❶眞・成・等、諸本、「眞ニ佛恩ヲ報ズルニ成ル」と點す。一說に、眞成の二字、熟用して眞實の義となし、「眞成ニ佛恩ヲ報ズルナリ」と讀む。今の點、選本の如し。兩筆本、眞の字に「マメヤカニシ」の左訓を附す。

㊁嘮・陀・等、七言の偈頌。山本、二句二行に書す。

㊂十・、禮讃六。に作る。機儀今の如し。寂本、禮讃に從ふ。

㊃蓮・、禮讃開。に作る。「彼ニ到レバ華開キテ妙法ヲ開ク」と讀むなり。機儀今の如し。寂本、禮讃に從ふ。

㊄彼・佛・心・光・、諸本、寂選二本、存本、「彼佛ノ心光」と點す。

❶喜・の下、疏の文、故の字あり。寂本之を補ふ。

㊆玄・談・等、諸本「文カニ談ズルニ得處ヲ標ハサズ」と點す。今私に點を改む。延文延本、玄談の二字、「ハルカニ談ジテ」と訓する標、四本局を手に作るもの、形誤。

㊇多・、光融錄に、正字通に「多又音支、與祇通、本作綺、省作多」といへるを引き、多の字は祇と同じく、「マサニ」と讀むべしといふ。

二一　❶芽・、疏の文、分。に作る。上の「五貫の㊈參照」

二三　❶除・、永保二本、貝に从ひ系に从ふもの、形誤。

❶日・、永保二本、目。に作るもの、形誤。

㊈我聞・等、王日休錄は「所の淨土文の跋にして、周大賓の作る所なり。初の句、諸本、「我レ無量壽經ヲ聞クニ」と點す。今寂選二本の點に從ふ。

㊉謂・、諸本「謂ハク」と點す。今の點、存本及寂本の如し。

二四　❶此・經・より神・方・に至る十三字、原文になし、異本あるか。或は此十三字は、集主添加の語ならんか。

❶定・、永禎本、定。に作るもの、形誤。

㊁於・此・世・界・、存本及寂本、「此世界ニ於テ」と點す。現點

二五

は、此四字を、往生彼國の上に置きて讀むの意なり。

❶至・如等、本擬詳かならざるを以て、原文の點を知る能はずと雖も、恐くは左の如くなるべし。

至レ如ニ華嚴経唱、法華妙談、且未レ見有普授衆生、一生当得阿耨多羅三藐三菩提記者。

存本、遇本、藝本、右の點に改む。且未以下、現點左の如し。姑く之を改む。

且ツ未ダ普ク授クルヿ有ルヲ見ズ、衆生一生ニ当ニ阿耨多羅三藐三菩提ノ記ヲ得ルヿハ、誠ニ謂フ所ノ不可思議功德ノ利ナリ。

二六

❶獲・、文本、護。に作るもの、形誤。

㊁力・、永本之を脱す。

㊂吟・、永保文三本、吟。に作るもの、形誤。

㊃㊄㊅孰・、永保二本、阪本、山本、熟。に作るもの、形誤。

㊆㊇㊈矣・、永保二本、細書す。

㊉社・の上、永保二本、常。の字あるもの、過剰。

二七

❶㊈矣・、永保二本、細書す。

㊀有・才・、諸本、「オアル」と點す。但諸本及存本、直讀すること今の如し。

㊁孰・、永保二本、阪本、山本、熟。に作るもの、形誤。

㊂劉・、永本、扇。を產に作るもの、形誤。

㊃誠・、文本、賦。に作るもの、形誤。

㊄佛・教等、七言の脱頌。

㊅假・、法華讃の本文、化。に作る。異本あるか。光融錄に法華讃類解（僧樓）を引き、假の字に約すれば、權宜に投ずるが故に假門と名く、化の字に約すれば、方便して化度するの法門なるが故に化門と名くといふ。

㊆門・門等、七言の脱頌

㊇生・、永前本及保本、上。に作るもの、形誤。

二八

❶一切・等、四本、阪本、山本、「一切ノ外ハ九十五種ヲ除テ皆惡道ニ趣ク」と點するもの、解し難し。餘本の點、今の如し。北文、山本、四字一句、二句一行に

二九

書するも、原文は脱に非ず。

❶㊀學・、永前本、覺。に作るもの、形誤。

㊁汙・、曆文二本、汗。に作るもの、形誤。

㊂㊃閑・、法華讃の文、閒。に作る。

㊄㊅鑒・、存本、延本になし。

㊆㊇大・、阪本、山本、文本、太。に作る。

❶❷矣・、永保二本、細書す。

㊀混・槃・經・言、以下博く混槃經を引く。原經と對校するに、文字の異同少からず。通覽するに、南北兩本の中、南本に合する節多し。蓋し集主所覽の本、南本なりしに依るか。然れども其南本が宋版二藏のいづれに屬せしかは、殆んど決するに由なし。或は麗本と合する所あり、或は宋本と合する所ありて一定せず。加之、同所の引文中、南本の何れにも合せずして、却て北本と合する所さへあり。今主として南本と對校し、北本を參考するこゝとなす。文中三本といふは、宋元明三本を指すと知るべし。二本の異は、間、校異を略するこゝあり。

㊁菩・薩・、南本になし。今文北本に合す。案ずるに、今の引意、遊諸開提の機は三乘の能く治する所に非ず、唯佛のみ能く之を治することを明すに在れば、菩薩の二字なくんば其意を示すに由なし。或は集主北本によりて之を加ふる所なるか。

㊂譬・如等、以下の點、本經に順ぜず。本經の意、遊諸開提の三機は三乘の能く治する所に非ざるを譬說するに在れば、讀むこゝ左の如し。

譬ヘバ、病アリテ必ズ死シテ治スルコトナカランニ、若ハ瞻病醫意ノ醫藥アルモ、若ハ瞻病醫意ノ醫藥ナキモ、是ノ如キノ病ハ、定シテ治スベカラズ。當ニ知ルベシ、是ノ人必ズ死モコト疑ハザルガ如シ。善男子、此三種ノ人モ、亦復是ノ如シ。

下の若有聲聞緣覺菩薩等の句は、本經にては右の文に

連綴して合法なるものにして、瞻病醫愈の醫藥あるは法を說くに譬へ、之なきは法を說かざるに喻ふるなり。寂遲二本及藝本、原文の點に從ふ。

然るに現點は、瞻病醫愈の醫藥ある者は治し、之なきものは治せずと、二類を擧くるの意さなし、從つて合法の文も、二あることを要するが故に、前の一類を合法せんが爲に、從佛菩薩等の二十二字を下の文より斷章し來りて、此に挿入せるなり。

㊀無・南藏及北本、雜。に作る。

㊁㊂瞻・保曆二本、贍。に作るもの形誤。

㊃㊄不・南本の元明本、無。に作る。

㊅㊆善・男・子・南三本、此三字なし。

㊇㊈從・佛・等の二十二字、下の「不能令其發阿耨多羅三藐三菩提心」の下、「迦葉、譬如病人、若有瞻病醫愈醫藥、則可令差、若無此三、則不可差、聲聞緣覺亦復如是」の三十四字を隔越して後に出づ。

三〇

㊉菩・薩・、三乘の治する能はざる者を、佛のみ能く治することを示すに、菩薩の語あるにつきて、微決に、この菩薩は一乘實教の菩薩にして、前後に在る三乘中の菩薩に同じからずといふ。

㊋法・、永保曆三本、阪本、山本、治。に作るもの、形誤。

㊌㊍㊎㊏㊐㊑㊒㊓㊔㊕㊖㊗㊘㊙㊚㊛㊜㊝㊞㊟㊠㊡㊢㊣㊤㊥㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)(8)(9)(10)(11)(12)(13)(14)(15)(16)(17)(18)(19)(20)(21)(22)(23)(24)(25)(26)(27)(28)(29)(30)(31)(32)(33)(34)(35)(36)(37)(38)(39)(40)(41)(42)(43)(44)(45)(46)(47)(48)(49)(50)(51)(52)(53)(54)(55)(56)(57)(58)(59)(60)(61)(62)(63)(64)(65)(66)(67)(68)(69)(70)(71)(72)(73)(74)(75)(76)(77)(78)(79)(80)(81)(82)(83)(84)(85)(86)(87)(88)(89)(90)(91)(92)(93)(94)(95)(96)(97)(98)(99)(100)(101)(102)(103)(104)(105)(106)(107)(108)(109)(110)(111)(112)(113)(114)(115)(116)(117)(118)(119)(120)(121)(122)(123)(124)(125)(126)(127)(128)(129)(130)(131)(132)(133)(134)(135)(136)(137)(138)(139)(140)(141)(142)(143)(144)(145)(146)(147)(148)(149)(150)(151)(152)(153)(154)(155)(156)(157)(158)(159)(160)(161)(162)(163)(164)(165)(166)(167)(168)(169)(170)(171)(172)(173)(174)(175)(176)(177)(178)(179)(180)(181)(182)(183)(184)(185)(186)(187)(188)(189)(190)(191)(192)(193)(194)(195)(196)(197)(198)(199)(200)(201)(202)(203)(204)(205)(206)(207)(208)(209)(210)(211)(212)(213)(214)(215)(216)(217)(218)(219)(220)(221)(222)(223)(224)(225)(226)(227)(228)(229)(230)(231)(232)(233)(234)(235)(236)(237)(238)(239)(240)(241)(242)(243)(244)(245)(246)(247)(248)(249)(250)(251)(252)(253)(254)(255)(256)(257)(258)(259)(260)(261)(262)(263)(264)(265)(266)(267)(268)(269)(270)(271)(272)(273)(274)(275)(276)(277)(278)(279)(280)(281)(282)(283)(284)(285)(286)(287)(288)(289)(290)(291)(292)(293)(294)(295)(296)(297)(298)(299)(300)(301)(302)(303)(304)(305)(306)(307)(308)(309)(310)(311)(312)(313)(314)(315)(316)(317)(318)(319)(320)(321)(322)(323)(324)(325)(326)(327)(328)(329)(330)(331)(332)(333)(334)(335)(336)(337)(338)(339)(340)(341)(342)(343)(344)(345)(346)(347)(348)(349)(350)(351)(352)(353)(354)(355)(356)(357)(358)(359)(360)(361)(362)(363)(364)(365)(366)(367)(368)(369)(370)(371)(372)(373)(374)(375)(376)(377)(378)(379)(380)(381)(382)(383)(384)(385)(386)(387)(388)(389)(390)(391)(392)(393)(394)(395)(396)(397)(398)(399)(400)(401)(402)(403)(404)(405)(406)(407)(408)(409)(410)(411)(412)(413)(414)(415)(416)(417)(418)(419)(420)(421)(422)(423)(424)(425)(426)(427)(428)(429)(430)(431)(432)(433)(434)(435)(436)(437)(438)(439)(440)(441)(442)(443)(444)(445)(446)(447)(448)(449)(450)(451)(452)(453)(454)(455)(456)(457)(458)(459)(460)(461)(462)(463)(464)(465)(466)(467)(468)(469)(470)(471)(472)(473)(474)(475)(476)(477)(478)(479)(480)(481)(482)(483)(484)(485)(486)(487)(488)(489)(490)(491)(492)(493)(494)(495)(496)(497)(498)(499)(500)(501)(502)(503)(504)(505)(506)(507)(508)(509)(510)(511)(512)(513)(514)(515)(516)(517)(518)(519)(520)(521)(522)(523)(524)(525)(526)(527)(528)(529)(530)(531)(532)(533)(534)(535)(536)(537)(538)(539)(540)(541)(542)(543)(544)(545)(546)(547)(548)(549)(550)(551)(552)(553)(554)(555)(556)(557)(558)(559)(560)(561)(562)(563)(564)(565)(566)(567)(568)(569)(570)(571)(572)(573)(574)(575)(576)(577)(578)(579)(580)(581)(582)(583)(584)(585)(586)(587)(588)(589)(590)(591)(592)(593)(594)(595)(596)(597)(598)(599)(600)(601)(602)(603)(604)(605)(606)(607)(608)(609)(610)(611)(612)(613)(614)(615)(616)(617)(618)(619)(620)(621)(622)(623)(624)(625)(626)(627)(628)(629)(630)(631)(632)(633)(634)(635)(636)(637)(638)(639)(640)(641)(642)(643)(644)(645)(646)(647)(648)(649)(650)(651)(652)(653)(654)(655)(656)(657)(658)(659)(660)(661)(662)(663)(664)(665)(666)(667)(668)(669)(670)(671)(672)(673)(674)(675)(676)(677)(678)(679)(680)(681)(682)(683)(684)(685)(686)(687)(688)(689)(690)(691)(692)(693)(694)(695)(696)(697)(698)(699)(700)(701)(702)(703)(704)(705)(706)(707)(708)(709)(710)(711)(712)(713)(714)(715)(716)(717)(718)(719)(720)(721)(722)(723)(724)(725)(726)(727)(728)(729)(730)(731)(732)(733)(734)(735)(736)(737)(738)(739)(740)(741)(742)(743)(744)(745)(746)(747)(748)(749)(750)(751)(752)(753)(754)(755)(756)(757)(758)(759)(760)(761)(762)(763)(764)(765)(766)(767)(768)(769)(770)(771)(772)(773)(774)(775)(776)(777)(778)(779)(780)(781)(782)(783)(784)(785)(786)(787)(788)(789)(790)(791)(792)(793)(794)(795)(796)(797)(798)(799)(800)(801)(802)(803)(804)(805)(806)(807)(808)(809)(810)(811)(812)(813)(814)(815)(816)(817)(818)(819)(820)(821)(822)(823)(824)(825)(826)(827)(828)(829)(830)(831)(832)(833)(834)(835)(836)(837)(838)(839)(840)(841)(842)(843)(844)(845)(846)(847)(848)(849)(850)(851)(852)(853)(854)(855)(856)(857)(858)(859)(860)(861)(862)(863)(864)(865)(866)(867)(868)(869)(870)(871)(872)(873)(874)(875)(876)(877)(878)(879)(880)(881)(882)(883)(884)(885)(886)(887)(888)(889)(890)(891)(892)(893)(894)(895)(896)(897)(898)(899)(900)(901)(902)(903)(904)(905)(906)(907)(908)(909)(910)(911)(912)(913)(914)(915)(916)(917)(918)(919)(920)(921)(922)(923)(924)(925)(926)(927)(928)(929)(930)(931)(932)(933)(934)(935)(936)(937)(938)(939)(940)(941)(942)(943)(944)(945)(946)(947)(948)(949)(950)(951)(952)(953)(954)(955)(956)(957)(958)(959)(960)(961)(962)(963)(964)(965)(966)(967)(968)(969)(970)(971)(972)(973)(974)(975)(976)(977)(978)(979)(980)(981)(982)(983)(984)(985)(986)(987)(988)(989)(990)(991)(992)(993)(994)(995)(996)(997)(998)(999)(1000)(1001)(1002)(1003)(1004)(1005)(1006)(1007)(1008)(1009)(1010)(1011)(1012)(1013)(1014)(1015)(1016)(1017)(1018)(1019)(1020)(1021)(1022)(1023)(1024)(1025)(1026)(1027)(1028)(1029)(1030)(1031)(1032)(1033)(1034)(1035)(1036)(1037)(1038)(1039)(1040)(1041)(1042)(1043)(1044)(1045)(1046)(1047)(1048)(1049)(1050)(1051)(1052)(1053)(1054)(1055)(1056)(1057)(1058)(1059)(1060)(1061)(1062)(1063)(1064)(1065)(1066)(1067)(1068)(1069)(1070)(1071)(1072)(1073)(1074)(1075)(1076)(1077)(1078)(1079)(1080)(1081)(1082)(1083)(1084)(1085)(1086)(1087)(1088)(1089)(1090)(1091)(1092)(1093)(1094)(1095)(1096)(1097)(1098)(1099)(1100)(1101)(1102)(1103)(1104)(1105)(1106)(1107)(1108)(1109)(1110)(1111)(1112)(1113)(1114)(1115)(1116)(1117)(1118)(1119)(1120)(1121)(1122)(1123)(1124)(1125)(1126)(1127)(1128)(1129)(1130)(1131)(1132)(1133)(1134)(1135)(1136)(1137)(1138)(1139)(1140)(1141)(1142)(1143)(1144)(1145)(1146)(1147)(1148)(1149)(1150)(1151)(1152)(1153)(1154)(1155)(1156)(1157)(1158)(1159)(1160)(1161)(1162)(1163)(1164)(1165)(1166)(1167)(1168)(1169)(1170)(1171)(1172)(1173)(1174)(1175)(1176)(1177)(1178)(1179)(1180)(1181)(1182)(1183)(1184)(1185)(1186)(1187)(1188)(1189)(1190)(1191)(1192)(1193)(1194)(1195)(1196)(1197)(1198)(1199)(1200)(1201)(1202)(1203)(1204)(1205)(1206)(1207)(1208)(1209)(1210)(1211)(1212)(1213)(1214)(1215)(1216)(1217)(1218)(1219)(1220)(1221)(1222)(1223)(1224)(1225)(1226)(1227)(1228)(1229)(1230)(1231)(1232)(1233)(1234)(1235)(1236)(1237)(1238)(1239)(1240)(1241)(1242)(1243)(1244)(1245)(1246)(1247)(1248)(1249)(1250)(1251)(1252)(1253)(1254)(1255)(1256)(1257)(1258)(1259)(1260)(1261)(1262)(1263)(1264)(1265)(1266)(1267)(1268)(1269)(1270)(1271)(1272)(1273)(1274)(1275)(1276)(1277)(1278)(1279)(1280)(1281)(1282)(1283)(1284)(1285)(1286)(1287)(1288)(1289)(1290)(1291)(1292)(1293)(1294)(1295)(1296)(1297)(1298)(1299)(1300)(1301)(1302)(1303)(1304)(1305)(1306)(1307)(1308)(1309)(1310)(1311)(1312)(1313)(1314)(1315)(1316)(1317)(1318)(1319)(1320)(1321)(1322)(1323)(1324)(1325)(1326)(1327)(1328)(1329)(1330)(1331)(1332)(1333)(1334)(1335)(1336)(1337)(1338)(1339)(1340)(1341)(1342)(1343)(1344)(1345)(1346)(1347)(1348)(1349)(1350)(1351)(1352)(1353)(1354)(1355)(1356)(1357)(1358)(1359)(1360)(1361)(1362)(1363)(1364)(1365)(1366)(1367)(1368)(1369)(1370)(1371)(1372)(1373)(1374)(1375)(1376)(1377)(1378)(1379)(1380)(1381)(1382)(1383)(1384)(1385)(1386)(1387)(1388)(1389)(1390)(1391)(1392)(1393)(1394)(1395)(1396)(1397)(1398)(1399)(1400)(1401)(1402)(1403)(1404)(1405)(1406)(1407)(1408)(1409)(1410)(1411)(1412)(1413)(1414)(1415)(1416)(1417)(1418)(1419)(1420)(1421)(1422)(1423)(1424)(1425)(1426)(1427)(1428)(1429)(1430)(1431)(1432)(1433)(1434)(1435)(1436)(1437)(1438)(1439)(1440)(1441)(1442)(1443)(1444)(1445)(1446)(1447)(1448)(1449)(1450)(1451)(1452)(1453)(1454)(1455)(1456)(1457)(1458)(1459)(1460)(1461)(1462)(1463)(1464)(1465)(1466)(1467)(1468)(1469)(1470)(1471)(1472)(1473)(1474)(1475)(1476)(1477)(1478)(1479)(1480)(1481)(1482)(1483)(1484)(1485)(1486)(1487)(1488)(1489)(1490)(1491)(1492)(1493)(1494)(1495)(1496)(1497)(1498)(1499)(1500)(1501)(1502)(1503)(1504)(1505)(1506)(1507)(1508)(1509)(1510)(1511)(1512)(1513)(1514)(1515)(1516)(1517)(1518)(1519)(1520)(1521)(1522)(1523)(1524)(1525)(1526)(1527)(1528)(1529)(1530)(1531)(1532)(1533)(1534)(1535)(1536)(1537)(1538)(1539)(1540)(1541)(1542)(1543)(1544)(1545)(1546)(1547)(1548)(1549)(1550)(1551)(1552)(1553)(1554)(1555)(1556)(1557)(1558)(1559)(1560)(1561)(1562)(1563)(1564)(1565)(1566)(1567)(1568)(1569)(1570)(1571)(1572)(1573)(1574)(1575)(1576)(1577)(1578)(1579)(1580)(1581)(1582)(1583)(1584)(1585)(1586)(1587)(1588)(1589)(1590)(1591)(1592)(1593)(1594)(1595)(1596)(1597)(1598)(1599)(1600)(1601)(1602)(1603)(1604)(1605)(1606)(1607)(1608)(1609)(1610)(1611)(1612)(1613)(1614)(1615)(1616)(1617)(1618)(1619)(1620)(1621)(1622)(1623)(1624)(1625)(1626)(1627)(1628)(1629)(1630)(1631)(1632)(1633)(1634)(1635)(1636)(1637)(1638)(1639)(1640)(1641)(1642)(1643)(1644)(1645)(1646)(1647)(1648)(1649)(1650)(1651)(1652)(1653)(1654)(1655)(1656)(1657)(1658)(1659)(1660)(1661)(1662)(1663)(1664)(1665)(1666)(1667)(1668)(1669)(1670)(1671)(1672)(1673)(1674)(1675)(1676)(1677)(1678)(1679)(1680)(1681)(1682)(1683)(1684)(1685)(1686)(1687)(1688)(1689)(1690)(1691)(1692)(1693)(1694)(1695)(1696)(1697)(1698)(1699)(1700)(1701)(1702)(1703)(1704)(1705)(1706)(1707)(1708)(1709)(1710)(1711)(1712)(1713)(1714)(1715)(1716)(1717)(1718)(1719)(1720)(1721)(1722)(1723)(1724)(1725)(1726)(1727)(1728)(1729)(1730)(1731)(1732)(1733)(1734)(1735)(1736)(1737)(1738)(1739)(1740)(1741)(1742)(1743)(1744)(1745)(1746)(1747)(1748)(1749)(1750)(1751)(1752)(1753)(1754)(1755)(1756)(1757)(1758)(1759)(1760)(1761)(1762)(1763)(1764)(1765)(1766)(1767)(1768)(1769)(1770)(1771)(1772)(1773)(1774)(1775)(1776)(1777)(1778)(1779)(1780)(1781)(1782)(1783)(1784)(1785)(1786)(1787)(1788)(1789)(1790)(1791)(1792)(1793)(1794)(1795)(1796)(1797)(1798)(1799)(1800)(1801)(1802)(1803)(1804)(1805)(1806)(1807)(1808)(1809)(1810)(1811)(1812)(1813)(1814)(1815)(1816)(1817)(1818)(1819)(1820)(1821)(1822)(1823)(1824)(1825)(1826)(1827)(1828)(1829)(1830)(1831)(1832)(1833)(1834)(1835)(1836)(1837)(1838)(1839)(1840)(1841)(1842)(1843)(1844)(1845)(1846)(1847)(1848)(1849)(1850)(1851)(1852)(1853)(1854)(1855)(1856)(1857)(1858)(1859)(1860)(1861)(1862)(1863)(1864)(1865)(1866)(1867)(1868)(1869)(1870)(1871)(1872)(1873)(1874)(1875)(1876)(1877)(1878)(1879)(1880)(1881)(1882)(1883)(1884)(1885)(1886)(1887)(1888)(1889)(1890)(1891)(1892)(1893)(1894)(1895)(1896)(1897)(1898)(1899)(1900)(1901)(1902)(1903)(1904)(1905)(1906)(1907)(1908)(1909)(1910)(1911)(1912)(1913)(1914)(1915)(1916)(1917)(1918)(1919)(1920)(1921)(1922)(1923)(1924)(1925)(1926)(1927)(1928)(1929)(1930)(1931)(1932)(1933)(1934)(1935)(1936)(1937)(1938)(1939)(1940)(1941)(1942)(1943)(1944)(1945)(1946)(1947)(1948)(1949)(1950)(1951)(1952)(1953)(1954)(1955)(1956)(1957)(1958)(1959)(1960)(1961)(1962)(1963)(1964)(1965)(1966)(1967)(1968)(1969)(1970)(1971)(1972)(1973)(1974)(1975)(1976)(1977)(1978)(1979)(1980)(1981)(1982)(1983)(1984)(1985)(1986)(1987)(1988)(1989)(1990)(1991)(1992)(1993)(1994)(1995)(1996)(1997)(1998)(1999)(2000)(2001)(2002)(2003)(2004)(2005)(2006)(2007)(2008)(2009)(2010)(2011)(2012)(2013)(2014)(2015)(2016)(2017)(2018)(2019)(2020)(2021)(2022)(2023)(2024)(2025)(2026)(2027)(2028)(2029)(2030)(2031)(2032)(2033)(2034)(2035)(2036)(2037)(2038)(2039)(2040)(2041)(2042)(2043)(2044)(2045)(2046)(2047)(2048)(2049)(2050)(2051)(2052)(2053)(2054)(2055)(2056)(2057)(2058)(2059)(2060)(2061)(2062)(2063)(2064)(2065)(2066)(2067)(2068)(2069)(2070)(2071)(2072)(2073)(2074)(2075)(2076)(2077)(2078)(2079)(2080)(2081)(2082)(2083)(2084)(2085)(2086)(2087)(2088)(2089)(2090)(2091)(2092)(2093)(2094)(2095)(2096)(2097)(2098)(2099)(2100)(2101)(2102)(2103)(2104)(2105)(2106)(2107)(2108)(2109)(2110)(2111)(2112)(2113)(2114)(2115)(2116)(2117)(2118)(2119)(2120)(2121)(2122)(2123)(2124)(2125)(2126)(2127)(2128)(2129)(2130)(2131)(2132)(2133)(2134)(2135)(2136)(2137)(2138)(2139)(2140)(2141)(2142)(2143)(2144)(2145)(2146)(2147)(2148)(2149)(2150)(2151)(2152)(2153)(2154)(2155)(2156)(2157)(2158)(2159)(2160)(2161)(2162)(2163)(2164)(2165)(2166)(2167)(2168)(2169)(2170)(2171)(2172)(2173)(2174)(2175)(2176)(2177)(2178)(2179)(2180)(2181)(2182)(2183)(2184)(2185)(2186)(2187)(2188)(2189)(2190)(2191)(2192)(2193)(2194)(2195)(2196)(2197)(2198)(2199)(2200)(2201)(2202)(2203)(2204)(2205)(2206)(2207)(2208)(2209)(2210)(2211)(2212)(2213)(2214)(2215)(2216)(2217)(2218)(2219)(2220)(2221)(2222)(2223)(2224)(2225)(2226)(2227)(2228)(2229)(2230)(2231)(2232)(2233)(2234)(2235)(2236)(2237)(2238)(2239)(2240)(2241)(2242)(2243)(2244)(2245)(2246)(2247)(2248)(2249)(2250)(2251)(2252)(2253)(2254)(2255)(2256)(2257)(2258)(2259)(2260)(2261)(2262)(2263)(2264)(2265)(2266)(2267)(2268)(2269)(2270)(2271)(2272)(2273)(2274)(2275)(2276)(2277)(2278)(2279)(2280)(2281)(2282)(2283)(2284)(2285)(2286)(2287)(2288)(2289)(2290)(2291)(2292)(2293)(2294)(2295)(2296)(2297)(2298)(2299)(2300)(2301)(2302)(2303)(2304)(2305)(2306)(2307)(2308)(2309)(2310)(2311)(2312)(2313)(2314)(2315)(2316)(2317)(2318)(2319)(2320)(2321)(2322)(2323)(2324)(2325)(2326)(2327)(2328)(2329)(2330)(2331)(2332)(2333)(2334)(2335)(2336)(2337)(2338)(2339)(2340)(2341)(2342)(2343)(2344)(2345)(2346)(2347)(2348)(2349)(2350)(2351)(2352)(2353)(2354)(2355)(2356)(2357)(2358)(2359)(2360)(2361)(2362)(2363)(2364)(2365)(2366)(2367)(2368)(2369)(2370)(2371)(2372)(2373)(2374)(2375)(2376)(2377)(2378)(2379)(2380)(2381)(2382)(2383)(2384)(2385)(2386)(2387)(2388)(2389)(2390)(2391)(2392)(2393)(2394)(2395)(2396)(2397)(2398)(2399)(2400)(2401)(2402)(2403)(2404)(2405)(2406)(2407)(2408)(2409)(2410)(2411)(2412)(2413)(2414)(2415)(2416)(2417)(2418)(2419)(2420)(2421)(2422)(2423)(2424)(2425)(2426)(2427)(2428)(2429)(2430)(2431)(2432)(2433)(2434)(2435)(2436)(2437)(2438)(2439)(2440)(2441)(2442)(2443)(2444)(2445)(2446)(2447)(2448)(2449)(2450)(2451)(2452)(2453)(2454)(2455)(2456)(2457)(2458)(2459)(2460)(2461)(2462)(2463)(2464)(2465)(2466)(2467)(2468)(2469)(2470)(2471)(2472)(2473)(2474)(2475)(2476)(2477)(2478)(2479)(2480)(2481)(2482)(2483)(2484)(2485)(2486)(2487)(2488)(2489)(2490)(2491)(2492)(2493)(2494)(2495)(2496)(2497)(2498)(2499)(2500)(2501)(2502)(2503)(2504)(2505)(2506)(2507)(2508)(2509)(2510)(2511)(2512)(2513)(2514)(2515)(2516)(2517)(2518)(2519)(2520)(2521)(2522)(2523)(2524)(2525)(2526)(2527)(2528)(2529)(2530)(2531)(2532)(2533)(2534)(2535)(2536)(2537)(2538)(2539)(2540)(2541)(2542)(2543)(2544)(2545)(2546)(2547)(2548)(2549)(2550)(2551)(2552)(2553)(2554)(2555)(2556)(2557)(2558)(2559)(2560)(2561)(2562)(2563)(2564)(2565)(2566)(2567)(2568)(2569)(2570)(2571)(2572)(2573)(2574)(2575)(2576)(2577)(2578)(2579)(2580)(2581)(2582)(2583)(2584)(2585)(2586)(2587)(2588)(2589)(2590)(2591)(2592)(2593)(2594)(2595)(2596)(2597)(2598)(2599)(2600)(2601)(2602)(2603)(2604)(2605)(2606)(2607)(2608)(2609)(2610)(2611)(2612)(2613)(2614)(2615)(2616)(2617)(2618)(2619)(2620)(2621)(2622)(2623)(2624)(2625)(2626)(2627)(2628)(2629)(2630)(2631)(2632)(2633)(2634)(2635)(2636)(2637)(2638)(2639)(2640)(2641)(2642)(2643)(2644)(2645)(2646)(2647)(2648)(2649)(2650)(2651)(2652)(2653)(2654)(2655)(2656)(2657)(2658)(2659)(2660)(2661)(2662)(2663)(2664)(2665)(2666)(2667)(2668)(2669)(2670)(2671)(2672)(2673)(2674)(2675)(2676)(2677)(2678)(2679)(2680)(2681)(2682)(2683)(2684)(2685)(2686)(2687)(2688)(2689)(2690)(2691)(2692)(2693)(2694)(2695)(2696)(2697)(2698)(2699)(2700)(2701)(2702)(2703)(2704)(2705)(2706)(2707)(2708)(2709)(2710)(2711)(2712)(2713)(2714)(2715)(2716)(2717)(2718)(2719)(2720)(2721)(2722)(2723)(2724)(2725)(2726)(2727)(2728)(2729)(2730)(2731)(2732)(2733)(2734)(2735)(2736)(2737)(2738)(2739)(2740)(2741)(2742)(2743)(2744)(2745)(2746)(2747)(2748)(2749)(2750)(2751)(2752)(2753)(2754)(2755)(2756)(2757)(2758)(2759)(2760)(2761)(2762)(2763)(2764)(2765)(2766)(2767)(2768)(2769)(2770)(2771)(2772)(2773)(2774)(2775)(2776)(2777)(2778)(2779)(2780)(2781)(2782)(2783)(2784)(2785)(2786)(2787)(2788)(2789)(2790)(2791)(2792)(2793)(2794)(2795)(2796)(2797)(2798)(2799)(2800)(2801)(2802)(2803)(2804)(2805)(2806)(2807)(2808)(2809)(2810)(2811)(2812)(2813)(2814)(2815)(2816)(2817)(2818)(2819)(2820)(2821)(2822)(2823)(2824)(2825)(2826)(2827)(2828)(2829)(2830)(2831)(2832)(2833)(2834)(2835)(2836)(2837)(2838)(2839)(2840)(2841)(2842)(2843)(2844)(2845)(2846)(2847)(2848)(2849)(2850)(2851)(2852)(2853)(2854)(2855)(2856)(2857)(2858)(2859)(2860)(2861)(2862)(2863)(2864)(2865)(2866)(2867)(2868)(2869)(2870)(2871)(2872)(2873)(2874)(2875)(2876)(2877)(2878)(2879)(2880)(2881)(2882)(2883)(2884)(2885)(2886)(2887)(2888)(2889)(2890)(2891)(2892)(2893)(2894)(2895)(2896)(2897)(2898)(2899)(2900)(2901)(2902)(2903)(2904)(2905)(2906)(2907)(2908)(2909)(2910)(2911)(2912)(2913)(2914)(2915)(2916)(2917)(2918)(2919)(2920)(2921)(2922)(2923)(2924)(2925)(2926)(2927)(2928)(2929)(2930)(2931)(2932)(2933)(2934)(2935)(2936)(2937)(2938)(2939)(2940)(2941)(2942)(2943)(2944)(2945)(2946)(2947)(2948)(2949)(2950)(2951)(2952)(2953)(2954)(2955)(2956)(2957)(2958)(2959)(2960)(2961)(2962)(2963)(2964)(2965)(2966)(2967)(2968)(2969)(2970)(2971)(2972)(2973)(2974)(2975)(2976)(2977)(2978)(2979)(2980)(2981)(2982)(2983)(2984)(2985)(2986)(2987)(2988)(2989)(2990)(2991)(2992)(2993)(2994)(2995)(2996)(2997)(2998)(2999)(3000)(3001)(3002)(3003)(3004)(3005)(3006)(3007)(3008)(3009)(3010)(3011)(3012)(3013)(3014)(3015)(3016)(3017)(3018)(3019)(3020)(3021)(3022)(3023)(3024)(3025)(3026)(3027)(3028)(3029)(3030)(3031)(3032)(3033)(3034)(3035)(3036)(3037)(3038)(3039)(3040)(3041)(3042)(3043)(3044)(3045)(3046)(3047)(3048)(3049)(3050)(3051)(3052)(3053)(3054)(3055)(3056)(3057)(3058)(3059)(3060)(3061)(3062)(3063)(3064)(3065)(3066)(3067)(3068)(3069)(3070)(3071)(3072)(3073)(3074)(3075)(3076)(3077)(3078)(3079)(3080)(3081)(3082)(3083)(3084)(3085)(3086)(3087)(3088)(3089)(3090)(3091)(3092)(3093)(3094)(3095)(3096)(3097)(3098)(3099)(3100)(3101)(3102)(3103)(3104)(3105)(3106)(3107)(3108)(3109)(3110)(3111)(3112)(3113)(3114)(3115)(3116)(3117)(3118)(3119)(3120)(3121)(3122)(3123)(3124)(3125)(3126)(3127)(3128)(3129)(3130)(3131)(3132)(3133)(3134)(3135)(3136)(3137)(3138)(3139)(3140)(3141)(3142)(3143)(3144)(3145)(3146)(3147)(3148)(3149)(3150)(3151)(3152)(3153)(3154)(3155)(3156)(3157)(3158)(3159)(3160)(3161)(3162)(3163)(3164)(3165)(3166)(3167)(3168)(3169)(3170)(3171)(3172)(3173)(3174)(3175)(3176)(3177)(3178)(3179)(3180)(3181)(3182)(3183)(3184)(3185)(3186)(3187)(3188)(3189)(3190)(3191)(3192)(3193)(3194)(3195)(3196)(3197)(3198)(3199)(3200)(3201)(3202)(3203)(3204)(3205)(3206)(3207)(3208)(3209)(3210)(3211)(3212)(3213)(3214)(3215)(3216)(3217)(3218)(3219)(3220)(3221)(3222)(3223)(3224)(3225)(3226)(3227)(3228)(3229)(3230)(3231)(3232)(3233)(3234)(3235)(3236)(3237)(3238)(3239)(3240)(3241)(3242)(3243)(3244)(3245)(3246)(3247)(3248)(3249)(3250)(3251)(3252)(3253)(3254)(3255)(3256)(3257)(3258)(3259)(3260)(3261)(3262)(3263)(3264)(3265)(3266)(3267)(3268)(3269)(3270)(3271)(3272)(3273)(3274)(3275)(3276)(3277)(3278)(3279)(3280)(3281)(3282)(3283)(3284)(3285)(3286)(3287)(3288)(3289)(3290)(3291)(3292)(3293)(3294)(3295)(3296)(3297)(3298)(3299)(3300)(3301)(3302)(3303)(3304)(3305)(3306)(3307)(3308)(3309)(3310)(3311)(3312)(3313)(3314)(3315)(3316)(3317)(3318)(3319)(3320)(3321)(3322)(3323)(3324)(3325)(3326)(3327)(3328)(3329)(3330)(3331)(3332)(3333)(3334)(3335)(3336)(3337)(3338)(3339)(3340)(3341)(3342)(3343)(3344)(3345)(3346)(3347)(3348)(3349)(3350)(3351)(3352)(3353)(3354)(3355)(3356)(3357)(3358)(3359)(3360)(3361)(3362)(3363)(3364)(3365)(3366)(3367)(3368)(3369)(3370)(3371)(3372)(3373)(3374)(3375)(3376)(3377)(3378)(3379)(3380)(3381)(3382)(3383)(3384)(3385)(3386)(3387)(3388)(3389)(3390)(3391)(3392)(3393)(3394)(3395)(3396)(3397)(3398)(3399)(3400)(3401)(3402)(3403)(3404)(3405)(3406)(3407)(3408)(3409)(3410)(3411)(3412)(3413)(3414)(3415)(3416)(3417)(3418)(3419)(3420)(3421)(3422)(3423)(3424)(3425)(3426)(3427)(3428)(3429)(3430)(3431)(3432)(3433)(3434)(3435)(3436)(3437)(3438)(3439)(3440)(3441)(3442)(3443)(3444)(3445)(3446)(3447)(3448)(3449)(3450)(3451)(3452)(3453)(3454)(3455)(3456)(3457)(3458)(3459)(3460)(3461)(3462)(3463)(3464)(3465)(3466)(3467)(3468)(3469)(3470)(3471)(3472)(3473)(3474)(3475)(3476)(3477)(3478)(3479)(3480)(3481)(3482)(3483)(3484)(3485)(3486)(3487)(3488)(3489)(3490)(3491)(3492)(3493)(3494)(3495)(3496)(3497)(3498)(3499)(3500)(3501)(3502)(3503)(3504)(3505)(3506)(3507)(3508)(3509)(3510)(3511)(3512)(3513)(3514)(3515)(3516)(3517)(3518)(3519)(3520)(3521)(3522)(3523)(3524)(3525)(3526)(3527)(3528)(3529)(3530)(3531)(3532)(3533)(3534)(3535)(3536)(3537)(3538)(3539)(3540)(3541)(3542)(3543)(3544)(3545)(3546)(3547)(3548)(3549)(3550)(3551)(3552)(3553)(3554)(3555)(3556)(3557)(3558)(3559)(3560)(3561)(3562)(3563)(3564)(3565)(3566)(3567)(3568)(3569)(3570)(3571)(3572)(3573)(3574)(3575)(3576)(3577)(3578)(3579)(3580)(3581)(3582)(3583)(3584)(3585)(3586)(3587)(3588)(3589)(3590)(3591)(3592)(3593)(3594)(3595)(3596)(3597)(3598)(3599)(3600)(3601)(3602)(3603)(3604)(3605)(3606)(3607)(3608)(3609)(3610)(3611)(3612)(3613)(3614)(3615)(3616)(3617)(3618)(3619)(3620)(3621)(3622)(3623)(3624)(3625)(3626)(3627)(3628)(3629)(3630)(3631)(3632)(3633)(3634)(3635)(3636)(3637)(3638)(3639)(3640)(3641)(3642)(3643)(3644)(3645)(3646)(3647)(3648)(3649)(3650)(3651)(3652)(3653)(3654)(3655)(3656)(3657)(3658)(3659)(3660)(3661)(3662)(3663)(3664)(3665)(3666)(3667)(3668)(3669)(3670)(3671)(3672)(3673)(3674)(3675)(3676)(3677)(3678)(3679)(3680)(3681)(3682)(3683)(3684)(3685)(3686)(3687)(3688)(3689)(3690)(3691)(3692)(3693)(3694)(3695)(3696)(3697)(3698)(3699)(3700)(3701)(3702)(3703)(3704)(3705)(3706)(3707)(3708)(3709)(3710)(3711)(3712)(3713)(3714)(3715)(3716)(3717)(3718)(3719)(3720)(3721)(3722)(3723)(3724)(3725)(3726)(3727)(3728)(3729)(3730)(3731)(3732)(3733)(3734)(3735)(3736)(3737)(3738)(3739)(3740)(3741)(3742)(3743)(3744)(3745)(3746)(3747)(3748)(3749)(3750)(3751)(3752)(3753)(3754)(3755)(3756)(3757)(3758)(3759)(3760)(3761)(3762)(3763)(3764)(3765)(3766)(3767)(3768)(3769)(3770)(3771)(3772)(3773)(3774)(3775)(3776)(3777)(3778)(3779)(3780)(3781)(3782)(3783)(3784)(3785)(3786)(3787)(3788)(3789)(3790)(3791)(3792)(3793)(3794)(3795)(3796)(3797)(3798)(3799)(3800)(3801)(3802)(3803)(3804)(3805)(3806)(3807)(3808)(3809)(3810)(3811)(3812)(3813)(3814)(3815)(3816)(3817)(3818)(3819)(3820)(3821)(3822)(3823)(3824)(3825)(3826)(3827)(3828)(3829)(3830)(3831)(3832)(3833)(3834)(3835)(3836)(3837)(3838)(3839)(3840)(3841)(3842)(3843)(3844)(3845)(3846)(3847)(3848)(3849)(3850)(3851)(3852)(3853)(3854)(3855)(3856)(3857)(3858)(3859)(3860)(3861)(3862)(3863)(3864)(3865)(3866)(3867)(3868)(3869)(3870)(3871)(3872)(3873)(3874)(3875)(3876)(3877)(3878)(3879)(3880)(3881)(3882)(3883)(3884)(3885)(3886)(3887)(3888)(3889)(3890)(3891)(3892)(3893)(3894)(3895)(3896)(3897)(3898)(3899)(3900)(3901)(3902)(3903)(3904)(3905)(3906)(3907)(3908)(3909)(3910)(3911)(3912)(3913)(3914)(3915)(3916)(3917)(3918)(3919)(3920)(3921)(3922)(3923)(3924)(3925)(3926)(3927)(3928)(3929)(3930)(3931)(3932)(3933)(3934)(3935)(3936)(3937)(3938)(3939)(3940)(3941)(3942)(3943)(3944)(3945)(3946)(3947)(3948)(3949)(3950)(3951)(3952)(3953)(3954)(3955)(3956)(3957)(3958)(3959)(3960)(3961)(3962)(3963)(3964)(3965)(3966)(3967)(3968)(3969)(3970)(3971)(3972)(3973)(3974)(3975)(3976)(3977)(3978)(3979)(3980)(3981)(3982)(3983)(3984)(3985)(3986)(3987)(3988)(3989)(3990)(3991)(3992)(3993)(3994)(3995)(3996)(3997)(3998)(3999)(4000)(4001)(4002)(4003)(4004)(4005)(4006)(4007)(4008)(4009)(4010)(4011)(4012)(4013)(4014)(4015)(4016)(4017)(4018)(4019)(4020)(4021)(4022)(4023)(4024)(4025)(4026)(4027)(4028)(4029)(4030)(4031)(4032)(4033)(4034)(4035)(4036)(4037)(4038)(4039)(4040)(4041)(4042)(4043)(4044)(4045)(4046)(4047)(4048)(4049)(4050)(4051)(4052)(4053)(4054)(4055)(4056)(4057)(4058)(4059)(4060)(4061)(4062)

三三

❶惟•、本經、唯。に作る。已下亦爾り。存本、惟唯互見す。

この字、諸本「ヤ、」の訓あり。

❷屈•、四本及阪本、崛。に作るもの、形誤。

❸猋•、文本、猋。に作るもの、形誤。

❹惟•惟悴•、南麗及北本、顇。類。に作る。

❺脣•、諸本、脣。に作るもの、形誤。謹案當三本、寂遇二本、天文延本、經に從ふこと、今の如し。延文延本は、辰。に作る。

❻燋•、南三本、燒。に作り、北本焦。に作る。永本及延本は、南三本の如し。

❼乃•至•、此處十三字を乃至す。

❽目•、南三本、眼。に作る。

❾爲•親•塞•、四本、阪本、山本、親。の字を貶す。從つて此句、「爲ニ善ヲ」と讀みて下に屬す。存本、「而モ善ノ若シ」に作る。餘本經に依て之を補ふこと、今の如し。

猶本又親の字なく、寇註に校異をなす。

三四

❶目•、南三本、眼。に作る。

❷乃•至•、此處十三字を乃至す。

❸燋•、南三本、燒。に作り、北本焦。に作る。永本及延本は、南三本の如し。

❹脣•、諸本、脣。に作るもの、形誤。謹案當三本、寂遇二本、天文延本、經に從ふこと、今の如し。延文延本は、辰。に作る。

❺惟•惟悴•、南麗及北本、顇。類。に作る。

❻猋•、文本、猋。に作るもの、形誤。

❼屈•、四本及阪本、崛。に作るもの、形誤。

❽惟•、諸本「ヤ、」の訓あり。

三五

❶惟•、本經、唯。に作る。已下亦爾り。存本、惟唯互見す。

この字、諸本「ヤ、」の訓あり。

❷屈•、四本及阪本、崛。に作るもの、形誤。

❸猋•、文本、猋。に作るもの、形誤。

❹惟•惟悴•、南麗及北本、顇。類。に作る。

❺脣•、諸本、脣。に作るもの、形誤。謹案當三本、寂遇二本、天文延本、經に從ふこと、今の如し。延文延本は、辰。に作る。

❻燋•、南三本、燒。に作り、北本焦。に作る。永本及延本は、南三本の如し。

❼乃•至•、此處十三字を乃至す。

❽目•、南三本、眼。に作る。

❾爲•親•塞•、四本、阪本、山本、親。の字を貶す。從つて此句、「爲ニ善ヲ」と讀みて下に屬す。存本、「而モ善ノ若シ」に作る。餘本經に依て之を補ふこと、今の如し。

猶本又親の字なく、寇註に校異をなす。

❿提•、諸本、提。に作るもの、南麗及北本、提。に作る。

⓫假•、本經、叚。假。に作る。叚の上、北元明、而。の字あり、假の下、北三本、言。の字あり。寂本、而。叚。假。言。の四字に作る。

⓬若•、諸本、四言六句一偈を成す。終るに阪本、山本、存本は、次の「以是事故、令我心怖生大苦惱」の十二字をも加へて、九句の偈となし、阪本は三句一行に、山本は二句一行に、存本は四句一行に書す。

⓭今•、南麗、今。に作る。

⓮有•、北本になし。南麗また此字なく、餘の三本は此字あつて、上の又の字なし。高本、阪本、存本、延本、共に有の字なし。

⓯見•、文本、是。に作るもの形誤。見の字、諸本「見ルコトヽ」と點す。今「ラルヽコトヽ」と點すること、寂遇二本及延本に從ふ。永本、謹案二本、藪本、讀法明ならず。

❶則•王•國•土•、四本、阪本、山本、存本、下の句に屬し、「則チ王(ノ)國土是レ逆ナリトスフト雖モ」と讀ましむ。

今の點、謹案二本、寂遇二本、藪本の如し。

❷身•、北三本、腹。に作る。存本之に從ふ。

❸驟•の下、四本、阪本、山本、腹。の字あるもの、過剩。

妊•の字、永保二本、妊。に作る。正字通に、妊の字妊に作るは非なりといふ。等•の字、南三本、驟の字の下に在り。存本、驟等懷妊等に作る。

❹殺•、南三本、害。に作る。

❺實•、南北の三本、亦。に作る。

❻乃•至•、此處三十五字を乃至す。

❼未•伽•梨•拘•除•梨•子•、南本、末。伽。黎。拘。舍。離。子。に作る。北本、黎の字、黎。に作るの異あり。末の字、曆文二本、未。に作るもの、形誤。除、延本、舍。に作る。

❽知•、永保二本、智。に作る。

❾愍•、南三本、悶。に作る。以下亦同じ。

❿乃•至•、此處百六十三字を乃至す。

三六

⓫王•、文本之を脫す。

❶衆•の下、本本、生。の字あるもの、過剩。消•滅•、延本、消。除。に作る。

❷德•、北麗及南本、得。に作る。

❸大•王•等の十二字、四言四句の偈なり。山本、二句一行に書す。

❹遠•、北三本、彗。に作る。

❺乃•至•、此處四十字を乃至す。

❻耶•、本經になし。

❼仁•、南麗及北本、法。に作る。本經除處に、過恒沙念の語あり。

❽特•見•矜念•、諸本、「特ニ見テ矜念セリ」と點す。今謹本、寂遇二本、藪本の點に從ふ。

❾善•の下、本經、各。の字あり。謹本之を補ふ。善の字、南三本、過。に作る。以下亦同じ。高本、存本、延本、過各。に作り、山本、善の字を抹して過各。の二字に改む。

三七

㊐見・瞻・養、諸本、「見テ瞻養ス」と點す。今進本、寂通二本、鵝本、存本に從ふ。瞻の字、南明及北の明藏二本、瞻に作る。瞻は「ミキハス」なり、「スクフ」なり。

㊑迺・北本、好に作る。

㊒及・汙・此・正・尼・本經四字一句をなし、三本には及の字なく、南藏及北本には却て汙の字なし。

㊓祇・北三本、愛に作る。

㊔人・南三本及北本、者に作る。

㊕及・殺・南藏及北本、害及に作る。

㊖必・南北の藏本、事に作る。

㊗大・永前本、又に作るもの、形譌。

㊘乃・至・此處百七十八字を乃至す。

㊙數・數・本經一字に作る。存本及縮本、經の如し。

㊚王・四本、阪本、山本、存本、生に作るもの、形譌。

㊛王・今・南北の藏本、今王に作る。次の殺・南三本、害に作る。保曆二本、倣に校異をなす。

三八

㊜乃・此處十二字を乃至す。

㊝今・有・大・師・名の五字、諸本、乃至の中に錯す。今下文に此五字あるに准じて、私に之を補ふ。

㊞匠・永保二本、聖に作り、曆文二本、匠に作るもの、共に形譌。

㊟乃・至の二字、諸本になし、今私に之を補ふ。此處三百三十二字を乃至す。

㊠即・南三本、復に作る。

㊡乃・至・此處四十字を乃至す。

㊢我・今・南北の三本、今・我に作る。

㊣無・北藏、不に作る。

㊤乃・至・此處三十二字を乃至す。

㊥興・永保二本、興に作り、「アヽヽヽリ」と點す。

㊦瞋・曆本、瞋に作り、文本、瞋に作るもの、形譌。

三九

㊧羽・本經、流に作る。

㊨乃・此處十二字を乃至す。

㊩今・有・大・師・名の五字、諸本、乃至の中に錯す。今下文に此五字あるに准じて、私に之を補ふ。

㊪匠・永保二本、聖に作り、曆文二本、匠に作るもの、共に形譌。

㊫乃・至の二字、諸本になし、今私に之を補ふ。此處三百三十二字を乃至す。

㊬即・南三本、復に作る。

㊭乃・至・此處四十字を乃至す。

㊮我・今・南北の三本、今・我に作る。

㊯無・北藏、不に作る。

㊰乃・至・此處三十二字を乃至す。

㊱興・永保二本、興に作り、「アヽヽヽリ」と點す。

㊲瞋・曆本、瞋に作り、文本、瞋に作るもの、形譌。

四〇

㊳耶・南北の藏本、那に作る。

㊴何・諸本、者の字あり。縮高二本、寂通二本、經に從ふて之を除くこと今の如し。

㊵乃・至・此處十二字を乃至す。

㊶今・有・大・師・名の五字、諸本、乃至の中に錯す。今經によりて私に之を補ふ。

㊷舍・四本、阪本、山本、存本、金に作るもの、形譌。餘本經に從ふこと、今の如し。

㊸乃・至・此處二百六字を乃至す。

㊹德・北三本、得に作る。

㊺乃・至・此處二百九十四字を乃至す。

㊻菅・其・南元明二本、其・菅に作る。

㊼蹂・本經、叢に作る。

㊽以殺等の十二字、四本及阪本、「以殺彼誇命奚」故、名地獄」の十字に作り、山本、「以殺誇命」彼故名地獄」の九字に作る。共に讀み難し。縮高二本及寂通二本、經に從ふて之を除くこと今の如し。進本は「以殺得誇命奚、故名地獄」に作り。藏本は、「以殺彼誇命奚、故名地獄」に作り、存本は「以殺誇命、故、彼名地獄」に作る。

四一

㊾二個の麥・の字、永保文三本、阪本、山本、麥に作るもの、形譌。曆本は前を麥に作り、後を麦に作る。存本は共に麦に作る。

㊿當・四本、阪本、山本、下の無殺害より回讀す。

(1)復・復の下、北元、等の字あり。

(2)無・北宋藏及南本、不に作る。

(3)大・文本之を脫す。

(4)鑣・北藏及南本、鑣に作る。正字通に、「鑣、零年切音鏖、亦作鑣」といへり。

(5)刈・永保二本、刈に作り、曆文二本、阪本、山本、存本、刃に作るもの、共に形譌。

(6)人・四本、阪本、山本、上に屬し、「鋼人ニ非ザルガ如シ」

と讀むもの、穩かならず。存本前後の文、「如ニ……毒藥非レ人、無ニ罪、云何罪」に作る。延本亦然り。

㊄眠、永本之を脫す。

㊅乃至、此處十二字を乃至す。

㊆乃至、此處二百四十八字を乃至す。

㊇乃至、此處三百十九字を乃至す。

㊈尼乾陀若提子、南麗には、尼乾陀提子、南三本には、尼犍若提子に作る。提の字、四本、阪本、山本、存本、犍に作るもの、形誤。

㊉乃至、此處百七十一字を乃至す。

㊊得安眠不、四本、阪本、山本、「安ンゾ眠ルヿヲ得ンヤ不ヤ」と點ずるもの、穩かならず。

㊋王以偈答言、永前本、王の字、生に作るもの、形誤。王の下、北本、卽の字あり。言の字、南三本になし。

㊌乃至、此處五言七十句の偈を乃至す。

㊍瞻、文本、膽に作るもの、形誤。

四三

㊎法、南元明及北三本、先に作る。

㊏治、永前本及保本、沿に作るもの、形誤。

㊐宰の下、南麗及北本、咎の字あり。南三本、過咎に作る。縮高二本及存本、咎の字を補ふ。山本、左旁に咎の字を朱書す。延本は南三本の如し。

㊑乃至、此處四十四字を乃至す。

㊒亦、南三本、今に作る。

㊓穩、本經、隱に作る、行卷七頁の㊃參照。

㊔無無等、今の點、永本及澁本の如し。寂還二本、舊本、存本、亦然り。餘本皆、「無上ノ大醫ナシ、法藥ヲ演說センニ、我ガ病苦ヲ除キテンヤ」と訓ず。

㊕言、北三本、王に作る。

㊖乃至、此處五百六字を乃至す。

㊗乃至、此處一百四字を乃至す。

㊘乃至、此處二千八十六字を乃至す。

㊙有弟の二字、澁本及還本「イトヿ」と訓ず。高本、寂本、

四四

四五

藝本は、之を直讀す。提婆達多は釋尊の從弟に當る。然るに今「弟提婆達多アリ」といふもの、世俗從弟をも、呼んで弟と言ふに同ずるか。

㊀乃至、此處一千百八十五字を乃至す。

㊁大王等、者婆の言、上に終りて、以下頻婆娑羅、空中より阿闍世に告ぐるの語なり。

㊂我、諸本になし。今本經によりて之を補ふと、高本の如し。

㊃戰、北三本、顫に作る。慄の字、保曆文三本、火に从ひ票に从ふもの、形誤。

㊄掉、永保二本、搖に作り、曆文二本、阪本、山本、存本、捽に作るもの、形誤。縮本捽に作り、冠註に校異をなす。

㊅答、南三本、問に作る。

㊆天、南麗及び北本、汝に作る。高本、汝の字に從ふ。存本及延本、天汝の二字に作る。

㊇不現等の八字、澁高二本、王の語とせず、「色像ヲ現セズシテ但聲ノミアリテイハク」と讀ましむ。

㊈婆、曆文二本、澁縮高三本、阪本、山本、存本、沙に作る。永保二本、婆に作ること本經の如し。以下亦爾り。本宗依用の觀經並に和讀、皆婆に作ること涅槃經の如し。

㊉時王、諸本、王の字なし。但高本及寂本、經に依て之を補ふこと、今の如し。

㊋蹄、曆本、足に从ひ辛に从ふもの形誤。

㊌治療瘡、南麗及北本は、而治之に作り、三本は、治將療に作る。寂本前者に從ひ、還本後者に從ふ。

㊍熱、永前本、執に作るもの、形誤。

㊎略出、高本、抄出に作る。

㊏大臣等、茲に六臣六師の名を列するにつきて、略讚に、上の引文の終に「是故如來爲大良醫非六師也」と言ひ、又「莫隨邪見六臣之言」とあるより、その六臣六師を一目の下に知らしめん爲に、便宜上之を列擧せるなりと

四六

四七

いふ。然るに四本、阪本、山本、列名に著しき錯誤あり。卽ち六臣の第六に無所畏を擧げずして、迦羅鳩駄迦旃延を出し、六師の第五に、迦羅鳩駄迦旃延を擧げずして、却つて婆蘇仙を出したるが如き、是なり。加之、文字の形誤また少からず。澁縮高三本、經文に依りて之を訂正せり。今之に從ふ。

㊄闕、諸本、闕に作る。今本經に從ふ。

㊅迦の上、澁高二本、名の字あり。

㊆世の下、諸本、王の字あり。但高本及寂遐二本、之なきこと本經の如し。今の文、爲阿闍世の四字につきて密義を說くに在れば、王の字は定んで過剩なるべし。

四八

㊀普及等、四本、阪本、山本、存本、「普ク及ビ一切五逆ヲ造ル者ナリ」と點じ、澁本及寂本は「普ク一切ノ五逆ヲ造ル者に及ボス」と點す。

㊁乃至、此處三十四字を乃至す。

㊂阿闍の上、南麗及北本、言の字あり。

四九

㊃故、南三本になし。

㊄爲、諸本之なし。今本經によりて之を補ふ。蓋し上に爲と阿闍と世とを分釋せるを結ぶの句なれば、この字なくんはあるべからず。縮本冠註に校異をなす。次上の名爲の二字、南麗には細書す。

五〇

㊀衆の下、永保二本、生の字あるもの、過剩。

㊁導、曆本、道に作るもの、形誤。

㊂乃至、此處百九十六字を乃至す。

㊃王の上、四本、阪本、山本、存本、自の字ありて、「王ニ白シテ言ク」に作る。蓋し乃至中に攝せる次上の句、「無有青黃赤白」の白の字が、誤りて此に來れるもの、澁縮高三本、寂遐二本、延本、之を削ること今の如し。藝本之を讀まず。已下阿闍世王の語なり。

㊄耆婆答言、北本になし。高本、山本、阪本、存本、之なきこと北本の如し。寂遐二本亦之を削る。

㊅大王、北本にありて南本になし。

㊆相似爲及の四字、讀み難し。澁高二本無點。此四字北麗及南本には、將爲大王に作り、北三本には、似相爲及に作る。前者の「將ニ大王ノ爲ニセントス」といふもの、意最も通じ易し。今の文、姑く追加校異所引の古本、及藝本の點に從ふ。四本、阪本、山本、延本、相似爲及以王の六字を一句となし、「及以ビ王ノ爲ニスルニ相似タリ」と點するもの、穩かならず。以王の二字、澁縮高三本、下に屬するもの、正し。存本は「今是ノ端ハ相似シテ相爲ス、及ビ王ノ……」と點す。寂本は似相爲及に改め、「相ヲモテ及ボサント爲ルニ似タリ」と點じ、遐本は「相爲ニ及ボスニ似タリ」と點す。

㊇此、永本之を脫す。北三本、斯に作る。

㊈治、北三本、及に作る。

㊉及、北本、治に作る。

㊊者婆、諸本、上に屬して點す。今の點、澁本、寂遐二本、藝本、存本の如し。

五一

㊀見念耶、四本、阪本、山本、「見タテマツラント念フナヤ」と點す。存本亦之に似たり。今澁高二本、寂遐二本、藝本に從ふ。

㊁一子、諸本になし。遐本、經によりて之を補ふこと、今の如し。縮本冠註に校異をなす。

㊂病子、南本、罪者に作る。

㊃重、南麗及北本、多に作る。

㊄則生等、南麗及北本は、佛則慈念の四字に作る。縮高二本、阪本、山本、存本、卽ち然り。延本は「佛則チ慈悲ヲ生ズ」に作る。南三本は則生慈念の四字に作る。四本、念の字を下に屬して讀むもの、穩かならず。則の字、永保二本、卽に作る。

五二

㊅姓、北三本、性に作る。

㊆令、永前本、念に作るもの、形誤。

㊇乃至、此處百七十八字を乃至す。

㊈乃至、此處一千七百四十二字を乃至す。

五三

五四

㈡近因緣、四本、阪本、山本、「阿梅多羅三藐三菩提ニ近ヅク因緣ノ爲ニハ」と點す。餘本・今の如し。

㈢無先善友、四本・高本、阪本、山本、「善友ヲ先キトスルニハシカズ」と點す。無の字、南麗及北本、莫に作る。

㈣若、永保二本、者に作るもの、形誤。

㈤獄の上、永保二本、地の字あり。

㈥因、四本、縮本、阪本、山本、日に作るもの、形誤。

㈦聞舍等、「舍婆提ニ聞ク」と讀むもの、穩かならず。舍婆提は國名にして、一に舍衛國といふ。

㈧瑠璃、北宋麗及南本、流離に作る。

㈨遇火、四本及存本、邊災に作るもの形誤。從つて「海邊ニ入テ災シテ死ス」と點ずるもの、穩かならず、阪本は、本文右の如く、冠頭に「或本遇火」の四字あり。山本は「入ニ海邊一遇レ火而死」に作り、澁本は「入レ海遇レ災而死」に作る。

㈠消、本經、得に作る。高本及寂本、經の如し。縮本冠註に校異をなす。

㈡語、南麗及北三本、言に作る。

㈢猶未等、四本、阪本、山本、「猶未ダ審カナラズ、定ンデ汝來レリ」と點ず。餘本、今の如し。

㈣象、永前本、衆に作るもの、形誤。

㈤提、四本、阪本、山本、存本、投に作るもの、形誤。

㈥乃至、此處一千二百十五字を乃至す。

㈦云何等の八字、突如として來り、脉絡知り難し。已下の文は、佛阿闍世王に向つて、罪の重きを執せるを諭して、定んで地獄に入るべしとの畏を去らしむるなり。此句は上に乃至せる、佛が王の諸執を論ず文の、最後の一節の結文なり、故に光融錄には、前節の結文を斷取し來りて今の引文の標語となすなりといひ、微決には、上の闍王の語に連接するの意となし、耆婆は得道の人なれば何ぞ地獄に入らんやとの意なりと解す。

㈧大王の上、四本、兩筆本、佛告の二字あり。阪本、山

五五

本、存本、之なきも本經の如く、澁縮高三本及還本、亦之を削る。蓋し佛告の二字ある爲に、上の云何等の一句、下と連續し難く、若し之なくんば、前の一句下に連りて、佛闍王に告ぐるの文たることを知り易し。一說に、本經になき佛告の二字を加へたるは、大王以下の文が佛の說法なることを明にし、且つ上の云何等の句を、上の引文に屬して、闍王の語となすの祖意に出づといふ。佛告の二字を加ふとせば、寧ろ云何等の前に置く方、義意通じ易しとす。

㈨勅、南三本、敎に作る。

㈠但、南三本、唯に作る。保曆文三本、傍に校異をなす。

㈡削、南本には、刖に作る。刖は足を斷つの意なり。北本削に作るは、未生怨經に「削其足底」の語あるに合す。

㈢若勅等、諸本の點、左の如し。

若シ侍臣ニ勅セマシカバ、立ドコロニ王ノ首ヲ斬ラマシ。坐ノ時ニ乃チ斬ルトモ、猶罪ヲ得ズ。

五六

坐時の二字、一說に「ソノ時」と讀むべしといふ。延本「坐ノトキ」と讀む。澁高二本、亦然るに似たり。何れにしても、意通じ難し。略讀に、立殺を勅して坐殺を勅せざれば、坐殺するも罪を得ずの意なりといふ。寂還二本及藝本、この意にて點す。今亦之に從ふ。

㈣斬、南三本、斷に作る。次下の一處亦然り。

㈤諸佛若の三字、南三本、若佛世尊の四字に作る。

㈥養、南三本になし。

㈦生、南三本、興に作る。

㈧若汝、南三本、汝若に作る。

㈨佛、永本之を脫す。佛の上、北三本に、諸の字なし。

㈩得、北麗及南三本、有に作る。

(一)射獵鹿、南麗及北本、射の字なく、南三本は却つて鹿の字なし。今文二者の異を合し句を作る。縮本及寂還二本は前者に從ひ、高本は後者に從ふ。藝本は、この句、「遊ンデ射ヲ行ヒ鹿ヲ獵シテ」と點す。射の字、文本

五七

㊀躯・南麗及北三本、軀。に作る。

㊁我・今・等、四本、阪本、山本、存本、「我今遊盤ス、所以ニ正シク坐ヲ得ズ、此人駈リテ遂ニ去ラシム」と點じ、延本、「正シク坐スルコトヲエズ」と點ずるもの、非に穩かならず。

㊂駈・本經、驅。に作る。逐の字、永徳暦三本、遂。に作るもの、形誤。文本及山本、逐の字を、「ッイニ」と讀ましむるもの、怪むべし。

㊃殺・害・、南三本、屠殺。に作る。

㊄於・汝・命、南麗及北本、命。の字なく、南三本、却て於。の字なし。縮高二本、阪本、山本、存本、延本、寂遇二本、南者に從ふ。

㊅尾・、南三本、戸。に作る。

㊆先・、南麗及北宋麗、是。に作る。

❶大・王・、南三本になし。

五八

㊇夫・、四本、阪本、山本、存本、誤りて、矢。に作り、「父ノ王等ナクバ、大王云何ソ矢ナキニ罪アリト言ハン」と點ずるもの、解し難し。餘本之を訂す。而も前文の讀法一ならず。縮高二本「父ノ王等ナシト言ハン。大王云何ソ無シト言フヤ」と點じ、遇本は「父ノ王等ナクバ、大王云何ソ無シト言フヤ」と點ず、今の點、寂本に從ふ。

㊈等・、南三本、有。に作る。延本、南三本の如し。

㊉故・、四本、誠本、阪本、山本になし。縮高二本、寂本、經に依りて補ふこと、今の如し。

❶惡・、南三本、趣。に作る。

㊋逆・の上、四本、誠本、阪本、山本、此。の字あるは過剰。逆。害。父。王。の四字、南三本、興。此。逆。害。に作る。

㊌心・の下、四本、阪本、山本、存本、興。の字あるは過剰。

㊍耽・、南麗及北宋麗二本、酒。に作る。此句、南三本酔。酒。而。害。其。母。に作る。

五九

㊎悟・、南北の麗本、寤。に作る。

㊏於・、南麗及北本になし。此句南三本、於。四。衢。道。の四字に作る。

㊐象・、文本、衆。に作るもの、形誤。

㊑有・、阪本、山本、存本、延本になし。四本、下に屬し、「有殺モ亦是ノ如シ」といふもの、穩かならず。

❶谷・、北元明二本、澗。に作り、北宋麗二本及南麗、間。に作る。

㊒貴・、阪本、山本、存本、實。親。に作ること、南麗及北本の如し。

㊓質・、文本、眞。に作る。

❶熱・、永前本、鞦。に作るもの、形誤。次下の裟。の字、南三本、袋。に作る。

㊔謂・、諸本、爲。に作る。阪本、山本、存本、延本、謂。に作ること本經の如し。

㊕知・の上、四本、誠本、阪本、山本、存本、了。の字あり。

六一

縮高二本之なきこと本經の如し。遇本亦之を削る。

㊖者・、永保文三本、誠本、存本、延本、因。に作る。

❶有人・等、四本、阪本、山本、「人主アリテ酒ヲ典ッドヰレリト知ルトモ」に作る。誠縮高三本「人アリ」と點じ、主の字を讀むこと明かならず。誠本、典酒の二字熟して讀む。寂本、「典酒ヲ知ルニ主ヲリ」と點じ、遇本及存本、「主トシテ酒ニ典ルコトヲ知レトモ」と點ず。今の點、藤本の如し。

㊗知・、永前本及保本、如。に作るもの、形誤。

㊘亦・、四本、誠本、阪本、山本、存本、之なし。縮高二本及寂本、本經に從ひ之を補ふ。

㊙知・、永前本、如。に作るもの、形誤。

㊚乃・至・、此處百字を乃至す。

㊛非・、南麗になし。此句、諸本、「非有非無ニシテ亦是レ有ナリト雖モ」と點ず。今の點、寂遇二本及藤本の如し。

六二

㊀爲、南三本、是に作る。

㊁有、保曆文三本、阪本、山本、上に屬して、「無有ニ非ズト爲ス」と點ずるもの、穩かならず。

㊂有、文本、之を脫す。

㊃非有、南麗、非無に作る。

㊄非無、南麗、非有に作る。

㊅雖、四本、阪本、山本、亦是有より回讀するもの、穩かならず。雖の下の非有非無、南北の麗本、非有無に作る。

六三

㊀乃至、此處二百七十九字を乃至す。

㊁伊、南北の三本、莽に作る。以下皆同じ。

㊂樹者、南麗及北本、樹の一字に作り、南三本、者の一字に作る。

㊃見佛の二字、南三本、有幸得見如來の六字に作る。

㊄以是等、四本及阪本、「是ノ佛ヲ見ルヲ以テ得ル所ノ功德ヲ見ル」と點ず。兩筆本は山本の如し。

㊅破、南三本、悉に作り、衆生の下、南麗及北本、所有一切の四字あり。

六四

㊀大、溢本、阪本、山本、存本、之なし。縮高二本及寂本、經によりて之を補ふ。

㊁王、永本になし。

㊂采、本經、綵に作る。

六五

㊀乃至、此處「卽是天身長命常身、卽是一切」の十二字を乃至す。

㊁諸佛弟子、もと國王が自ら呼ぶの語なるを、今轉じて、經家國王を呼ぶの稱となす。遐本及藝本、本經に從ひ、「諸佛ノ弟子ナリ」と點ず。

㊂乃至、此處「幡蓋香花瓔珞微妙伎樂」の十字を及至す。

㊃而供養佛の四字、諸本、乃至中に攝するが故に、文意連續し難し。次下の偈頌は口業供養にして、今の文は身業供養を明すものなれば、私に乃至中の四字を出して

意義を通暢せしむ。寂本、幡蓋等の十四字を補ふ。

㊄實語等、阪本三句一行に、山本二句一行に、存本四句一行に書す。初の二句、諸本「實語甚ダ微妙ナリ、善巧句義ニ於テ」と點じ、存本及藝本、「善ク句義ニ巧ナリ」と點ず。今寂遐二本に從ふ。

㊅秘、文本、妙に作るもの、形誤。

㊆爲衆等の句、諸本、次の句と一連に讀ましむ。但溢本及寂本は、此句を上の句と一連に讀みて、「顯示シタマヘ」と點じ、又次の二句を一連に讀みて、「略シテ說キタマヘ」と點ず。今の點、存本、遐本、藝本の如し。

㊇語、北麗、言に作る。

㊈及、四本、「モシハ」と點ず。

㊉說、北三本、語に作る。此句、諸本、「定ンデ是ノ佛說ヲ知ラン」と點ず。寂遐二本の點、今の意なり。

六六

㊀軟語、諸本、「軟語ヲモテ」と點するもの　穩かならず。但溢本の點今の如し。寂遐二本、「軟語ナリ」と點ず。

語の字、南麗、言に作る。

㊁語、南三本、說に作る。軟語の語、永保二本、言に作る。これ南三本、言に作るものに從ふなり。

㊂諦、南三本、義に作る。

㊃故無等の句、四本、阪本、山本、「故ニ無無義ノ語ニシテ」と點ず。語の字、南三本、言に作る。

㊄亦、南麗及北本、及に作る。

㊅結、北宋麗二本、南三本、果に作る。存本及延本、卽ち然り。

㊆修、南麗及北本、故に作る。

六七

㊀爲、南麗及北本、作に作る。

㊁在、南　本、存に作る。

㊂當獲、南麗及北本、當得に作り、南三本、應獲に作る。

㊃此破壞、南三本、破一切に作る。

㊄莫造、南三本、不作に作る。

㊅等、保曆二本及高本、「ヒトシク」と點ず、阪本、山本、

存本、亦然り。

六八

㊀妙德、南三本、文殊に作る。保曆文三本、傍に校異をなす。此句、諸本「猶ホ妙德ノ如ク等シカラン」と點す。但、寂本、今の如し。

㊁已、南三本、以に作る。

㊂復墮於地獄、南麗及北本、墮於地獄に作り、南三本、復墮地獄に作る。今文二者の異を合す。

㊃勁、曆文二本、阪本、山本、存本、勲に作る。

六九

㊀舉國、四本、澁本、山本、存本、國舉に作る。縮高二本、阪本、寂本、今の如し。此句、南麗及北本、摩伽陀舉國人民に作り、南三本、摩伽陀國一切人民に作る。永保二本、人民の上、一切の二字あるもの、兩者の異を合したるものなり。

㊁遶、本經、繞に作る。

㊂市、本經、廛に作る。

㊃祇、南麗及北本、耆に作る。羅閱祇は王舍城と譯す。

七〇

㊄獲得、四本、高本、阪本、山本、存本、下に屬し、爲親厚に流至するもの、穩かならず。

㊅厚、文本、阪本、山本、原に作るもの、形誤。此字、北三本、友に作る。

㊀女、四本、阪本、山本、存本、子に作る。澁高二本、經文に從ふこと今の如し。縮本子に作り、冠註に校異をなす。

㊁事、四本、阪本、山本、存本、本に作るもの、形誤。

㊂設、四本、阪本、山本、存本、說に作るもの、形誤。從つて讀法を錯まる。縮本、說に作り、冠註に校異をなす。

㊃提、北宋麗二本、調に作る。

㊄往、四本、阪本、山本、法に作るもの、形誤。

㊅而、永保二本になし。

㊆我、四本、阪本、山本、存本になし。澁縮高三本、經によりて之を補ふこと、今の如し。

七一

㊀善見太子、四本、高本、阪本、山本、下に屬するもの、穩かならず。

㊁使、四本、阪本、山本、存本、便に作るもの、形誤。縮本は冠註に校異をなす。

㊂疑人、諸本上に屬して、「我疑人ニ言ク」と點す。今の點、存本、寂退二本、藝本の如し。

㊃聰明、四本、阪本、山本、存本、聽聞に作るもの、形誤。縮本は冠註に校異をなす。

㊄多、南北の麗本になし。本經多の字、或はあり、或はなし。已下一々校異を揭げず。

㊅瞿曇の右傍、保曆文三本、釋迦御名也と小書す。元より後人の所爲なり。

七二

㊀見、四本、阪本、山本、「當ニ見ニ磨滅スベシ」と點す。見の字、現に通ずるの意か。澁高二本及寂本「當ニ磨滅セラルベシ」と點す。今存本の點に從ふ。

㊁反、南北の麗本、返に作る。

㊂土、永本之なし。

㊃要、四本、阪本、山本、存本、惡に作るもの、形誤。縮本冠註に校異をなす。

㊄怨、四本、阪本、山本、存本、惡に作るもの、形誤。縮本冠註に校異をなす。

㊅尋、南麗になし。

七三

㊀聖人、四本、高本、阪本、山本、上に屬して點す。

㊁常、南三本、當に作る。

㊂言、文本、曰に作る。

㊃顧、四本、阪本、山本、領に作るもの、形誤。縮本冠註に校異をなす。存本、須に作り「須ク其意ヲ說クベシ」と點す。

㊀提の上、北三本、時の字あり。今存本及寂本に從ふ。

㊁與汝、諸本、「汝ガタメニ」と點す。

㊂㊃未、文本、末に作るもの、形誤。

㊄毘、南麗及北本、韋に作る。下の一處亦同じ。

七四

㊁生・汝・等、諸本の點、不同なり。

四本、「汝ヲ生マントシテ、身ヲ高樓ノ上ニ於テシテ、之ヲ地ニ棄テシニ」

阪本、山本、延本、「汝ヲ生マントシテ、身ヲ高樓ノ上ヨリ……」

遊高二本、「汝ガ身ヲ生マントシテ、高樓ノ上ヨリシテ……」

遇本、「汝ヲ生ムトキ、身ヲ高樓ノ上ヨリ……」

存本、「汝ガ身ヲ高樓ノ上ヨリ生シテ……」

藝本、「汝ガ身ヲ高樓ノ上ニ生ミテ……」

今の點、寂本に從ふ。

㊀留・四本、阪本、山本、存本、笞に作り、延本、恕に作りて、共に「ヲシ」の假名あるもの、疑ふべし。婆羅留枝、此に翻して折指といふ。

㊂憤・諸本、憤に作る。阪本、山本、憤に作る。こゝ、本經の如し。但「フン」の音を附するもの、怪むべし。憤

七五

㊃爲・我・立・字、四本、高本、阪本、山本、「我ガ字ヲ立テントスルニ」と點するもの、穩かならず。

㊀時・北藏、諸に作り、北三本及南本、所に作る。未だ本經、時に作るものを見ず。此句、四本、阪本、山本、「時ニ王ヲ守テ、人ヲシテ遮シテ入ルヲ遮サズ」と讀ましむ。

㊁大・王・夫・人、諸本「大王ノ夫人」と點ず。今の點、藝本の如し。蓋し大王とは守門者が國王を呼ぶの稱なれば、夫人と離して讀むを正とす。此下欲・見の二字、北本、欲。得。往見の四字に作る。

㊂斫・永前本及保本、斫に作るもの、形誤。

㊄有國已來・諸本、「國ヲ有テヨリ已來」と讀ましむ。

は心亂るゝの意なり。憤に作るも意通ず。

㊅父・死・北藏、殺父に作る。

㊆雨・行・の下、北宋元二本、大臣の二字あり。延本、行。雨に作る。下の一處亦然り。

七六

㊅父・諸本、大に作る。但猫本、寂遇二本、父に作るこゝ、本經の如し。

㊀衆・四本、阪本、山本、存本、衆に作るもの、形誤。此下重・の字、北藏、種に作る。

㊁殺・の下、南三本及北本、害の字あり。

㊃故・四本、阪本、山本、存本、下の吾當涅槃の次に在るもの、錯簡。

七七

㊀假・文本、設に作るもの、形誤。

七八

㊀我・の上、本經、善男子の三字あり。諸の下、永本、佛の字あるは過剰。保本、此處空字を存す。

㊁悲・文本、非に作るもの、形誤。

七九

㊀五・の上、論註の文、作の字あり。

八〇

㊀假・使、諸本、「ヌトモ」と點ず。

八一

㊀逝・論註の文、經に作る。曆文二本、逝に作るもの、

今存本に從ふ。蓋し有國以來とは、覆經に所謂劫初已來と同意なれば、「國アリテヨリ已來」と讀むを正とす。

㊁父・諸本、大に作る。但猫本、寂遇二本、父に作るこゝ、本經の如し。

㊀衆・四本、阪本、山本、存本、衆に作るもの、形誤。此下重・の字、北藏、種に作る。

㊁殺・の下、南三本及北本、害の字あり。

㊃故・四本、阪本、山本、存本、下の吾當涅槃の次に在るもの、錯簡。

八二

㊀假・文本、設に作るもの、形誤。

㊁悲・文本、非に作るもの、形誤。

㊀五・の上、論註の文、作の字あり。

㊂若無等、諸本、「若シ諸佛菩薩、世間出世間ノ善道ヲ說テ、衆生ヲ教化スル者マシマサズバ」と點ず。寂遇二本の點、今の如し。終るに此句、論註の鎌西藏山本

㊁假・使、諸本、「ヌトモ」と點ず。

㊁逝・論註の文、經に作る。曆文二本、逝に作るもの、形誤。

㊁佛・永本、之を脫す。

㊁假・使、諸本、「ヌトモ」と點ず。

㊃生、現法の論註、土に作る。猫本冠註に校異をなす。觀谷版小本の論註に頭註を掲げて、一本に誤て生に作るものありて今の所引に寃得すといふ。諸本、「彼ノ安樂ニ生ズル」ヲ食シテ」と讀み、存本は、「彼レ安樂ニ生センコトヲ食シテ」と點ず。今最に點を改む。寂遇二本、「彼ノ土ノ安樂ナルヲ食ッテ」に作る。

㊁其心・諸本上に屬して、「其心ヲ受ケテ」と點ず。今の點、存本、寂遇二本、藝本の如し。

㊀計・文本、許に作るもの、形誤。

㊁論・曆文二本、喻に作るもの、形誤。

には、左の如く點ず。

若シ諸佛菩薩、世間出世間ノ善道ヲ說テ、衆生ヲ敎化シタマフヲ無スル者、豈仁義禮智信アルコトヲ知ランヤ。

此讀法に從へば、上の無佛無佛法無菩薩無菩薩法と言ふを、誘法の相となすの文と照應して、義意いよ〳〵明なり。

㊃如是、諸本、「是ノ如キ」と點ず。今私に點を改む。

㊄從無等、諸本、「正法ナキヨリ生ズ」と點ず。今寂遲本に從ふ。

㊅秤、存本、稱に作る。

八三

㊀知、文本、智に作るもの、形誤。

㊁敎、永本之を脫す。此句、存本、「善知識ノ敎ニ遇フテ、無量壽佛ヲ稱ス」と點ず。

㊂得、寂遲二本、下の永隔あり回讀す。

㊃義、文本、善に作るもの、形誤。

㊄備造等、永保二本及阪本「備サニ諸行ヲ造レハ」と點じ、曆文二本、存本、「諸行ヲ造レル」と點ず。今の點、澁高二本及山本の如し。遲本は、「備サニ造レル諸行有漏ノ法ハ」と點ず。

八四

㊀輕重之義、諸本上の句に屬して點ず。今私に點を改む。

八五

㊀被毒等、存本、「毒箭ニ中タラル、コトヲ被リテ」と點じ、寂遲二本、「毒ノ箭ニ中テラレテ、筋ヲ截リ骨ヲ破ラル、ニ（遲本、破ルコトヲ被フルニ）」と點ず。

㊁鼓、曆文二本及縮本、皷に作る。阪本、山本、存本、亦然り。次下の二所亦同じ。行巻八六頁の㊅參照。

㊂扱出の下、永保二本、矣の字あり。

八六

㊀後、文本、復に作るもの、形誤。

㊁但言等、論註の鎭西義山本は、「但阿彌陀佛ヲ憶念スルヲ言フノミ」と點ず。

㊂觀、文本、見に作るもの、形誤。

㊃令、永前本、今に作るもの、形誤。

八七

㊀如言、諸本の點、下の朱陽節乎に流至す。今の點、寂本及藝本の如し。

㊁暇、諸本、假に作り、「カリニ」と點ず。寂本、論註の文に從ふこと、今の如し。

八八

㊀誘法、諸本、誹謗に作る。今疏文に從ふ。

㊁章、疏文、幃に作る。

八九

㊀比、文本、此に作るもの形誤。此句、諸本「猶比丘ノ三禪ノ樂ニ入ルガ如シ」と點ず。今存本及寂遲二本に從ふ。

九〇

㊀往の下、法事讚の文、生の字あり。

㊁由、寂遲二本、下の迴心皆往より回讀す。

㊂饒、暦本、饒に作るもの、形誤。

㊃廣弘等、遲本「廣弘ノ四十八願ヲ起シテ」と點ず。

㊄若依等、以下永觀律師の往生十因の文を引く。本文と對校するに、形誤脫落多し。澁高二本、敢て之を訂さす。縮本亦冠註に校異を揭ぐるのみ。今原文によりて校訂を加ふ。

九一

㊀犯、諸本、軌に作るもの、形誤。寂遲二本、今の如し。

㊁墮の下、原文、於の字あり。

㊂聖者、諸本、無學に作るもの、訛かし。存本及遲本、原文に從ふこと、今の如し。俱舍論の文、また聖者に作る。

㊃同類の二字、諸本になし。延本、この二字あること原文の如し。

㊄寺、諸本之を脫す。寂遲二本、之を補ふこと、今の如し。

㊅藏、原文また今の如しと雖も、若し薩遮尼乾子經の文に從へば、當に像に作るべし。

九二

㊀覆藏の傍、保暦文三本、「落イ」の註あり。阪本、山本、存本には、覆藏を落藏に作る。元より形誤なり。

㊁於、諸本になし。寂本原文に從ふこと、今の如し。

㊂有、諸本之を脱す。寂遐二本、之を補ふ。
㊃持戒、諸本之を脱す。寂本之を補ふ。
㊄債調、原文また今の如し。然るに債調の二字、隆逵尼乾子經には、「諸ノ發調ヲ責ム」に作る。曾なして庶民と同じく調を出さしむるの意なり。暦本、阪本、山本、「ツゲノフ、ト、ノフ」の左訓あるもの、訝かし。
㊅訪無等、四本、阪本、山本、「訪シテ因果ナク」と點じ、澁高二本、寂遐二本、藝本、存本、「因果ナシト訪シ」と點す。今私に點を改む。
㊆已上の二字、往生十因の文なり。此下、十惡を釋する四十三字を乃至す。其中に十輪經の名を出し、後に彼經云等の語あり。以下の所引是なり。
㊇欲、諸本、云に作るもの、形誤。寂遐二本、今の如し。
㊈行の下、諸本、也の字あるは、「ナリ」の轉聲の濫入したるのみ。
㊉侵、暦文二本、浸に作るもの、形誤。

九三

㊀財、諸本になし。寂遐二本、原文によりて之を補ふこと今の如し。
㊁語の下、諸本、也の字あるもの、亦轉聲の濫入せるなり。
㊂末、永保二本細書。高本、阪本、此巻、本末を分たざるが故に、この字なし。存本及延本、亦なし。山本、紙破れて題號なし。

一

㊀撰號、阪本及山本には、題號の直下に在り。
㊁標擧、高本、阪本、山本には、題號の前、表紙の裏面に在りて、二行に書す。天文延本、亦然り。延文延本、

證卷

標擧を缺くもの、表紙の缺逸せる爲なるべし。縮本は註を二行となす。
㊂涅、永本、之を脱す。

二

㊀設我得佛の右傍、山本に、「十一必至滅度之願」の八字を小書す。
㊁不住等、一多證文に、「定聚ニモ住シテ、カナラズ滅度ニイタラズバ」と讀む。これ集主は特に此土の正定聚を談じ、彼土の正定聚は其體滅度なるが故に、願文の正定を滅度に輕重の別を立て、此願は必至滅度を以て願體となすの意を示せるなり。

三

㊀大、永本になし。
㊁生彼國者、此句の點、諸本一樣ならず。

永保暦三本　彼ノ國ニ生ルヽ者ハ
文本　彼ノ國ニ生セン者ハ
澁本　彼ノ國ニ生レントスル者ハ
高本　生ニ彼國ニ者ハ
阪本　彼ノ國ニ生ル者ハ
山本　彼ノ國ニ生レバ
延本　カノ國ニ生ズルモノハ

澁本の點は一多證文に從ふものにして、現生正定聚の意、最も明白なり。往生文類は、「生レン者」に作る。
㊂邪聚の左傍、略書、「自力有情諸菩人」の七字、不定聚の左傍、「疑心有情念佛行者也」の九字あり。
㊃天人、經の麗本、人天に作る。
㊄人天、本宗依用の經、天人に作る。麗本今の如し。
㊅政、永本、高本、延本、正に作ること經の如し。字彙に「政、之盛切音正、正也」といへり。
㊆彼國衆生等、往生文類の康元本には、「彼ノ國ノ衆生ト、若シ當ニ生レン者ハ」と點す。これ已に彼の國に生れたる衆生と、當に生るべき者との二類を擧ぐるの意と見るものにして、六要鈔所引の宋譯の、「若已生、若當生、是人決定證於阿耨多羅三藐三菩提」といへる

文に一致す。集主引用の主意は、「彼ノ國ノ衆生」が無上退轉を究竟する為頌はすに非ずして、「當ニ生レン者」が生れて後無上退轉を證する ニさは、全く現生に於て正因を決定して正定聚に住するが故なる ニさを顕はすに在り。今文の點、往生文類に從ふ方、襲意明なりさす。姑く現點を存し、唯「若シ」を「若シハ」さ點する ニさ、寂本の如くす。文本、當生者の三字、「當ニ生スベキ者」さ點す。

㊁建・立・彼・因、此句、往生文類の建長本には、「建立セ。ン。ョトチ」さ點す。寂本には、「了知シテ彼因ヲ建立スルコト能ハザルが故ナリ」さ點するもの、建立を衆生に約す。現點は佛に約するに在り。

㊁淨・土・論・日の左、山本、「罷思議往生成就」の七字を小書す。以下引文の初め、多く此七字あり。

㊁言、四本、阪本、山本、故の字に流至するもの、寂が ならず。已下屢々此例あり。餘本之を改むる ニさ今の

五

如し。故の字に至る廿二字は、論の文を脱し、以下は註の文なり。

㊁魁・念・即・生等、論註の顕文は、「魁念シテ生レント願スレバ亦往生ヲ得」の意なり。今之を略用して、「魁念シテ生レント願モノ。ト、マヽ往生ヲ得ルモノ。ト」の二類が、正定聚に入る の意をなす、引用の意は元より現生正定を證する に在る ニさ、先きの如來會の文に同じ。永本の讀法、明かならず。文本の點、論の顕文の如し。退本は文本に從ふ。

❶即、論註の文、則に作る。

㊁鞞、厚本、鄙に作り、文本、鄙に作るもの、形誤。阪本、山本、亦厚本の如し。此字、保厚二本、阪本、山本、共に「ミダレ」の訓を附す。

六

❶水、四本、阪本、山本、之を配す。

㊁卵、永文二本、卯に作るもの、形誤。

㊁夫、永本になし。此句、論註の義山本に、「遠ク夫ノ

四海ノ内ニ通ジテ」さ點す。

七

❶言、常の例に從へば、目に作るべし。微決に、上所引の勝鬘功德の文に、大經の十八成就及び讃與廣譯の十七十八合說の文意を取りて、經。言。さ云ふ、今文亦覆經の九品及大經の咸同一類等の文意を取るが故に、集主上の經言の標に准じて更に文。言。の二字を加へ、此註の文は覆大二經の文意を取る ニさを示すの意なら んかさいふ。此說によれば、此文は上文に連續して別科を爲さゞるの意なり。

㊁潤、永梅本及根本、涸に作るもの、形誤。

㊁敍、永本之を脫す。

❶正・意、寂通二本、「意ヲ正ダシテ」さ點す。論註の義山本亦然り。

㊁政、永本、高本、延本、正に作る ニさ、安樂集及び讃彌陀偈の文の如し。上の三頁の㊁參照。

❶密、文本、蜜に作るもの、形誤。阪本及山本は、文本

九

八

の如し。

❶敎・門・難・曉、法高二本、寂通二本、寂本、「敎門曉ヲ難シ」に作る。

㊁涸、永根厚三本、阪本、山本、恂に作るもの、形誤。

㊁圓、四本、阪本、山本、門に从ひ視に从ふは、形誤。

㊁勤・心、諸本、懃の一字に作る、但縮本、寂通二本、疏文に從ひて勤心の二字となす ニさ、今の如し。六要の本は、勤心の二字に作れる ニさ見ゆ、鈔に釋して勤心は安心、奉法は起行なりさいへり。此文、寂通二本、爲期より可に回讀す。

㊁性、文本、往に作るもの、形誤。

㊁樂、「ミヤコ」さ訓するもの、集主特異の讀法なり。疏文は、穢土の有爲の苦に對して、西方の無爲の樂を說くなり。

❶讀、四本、阪本、山本、贊に作るは、形略。

㊁六・道、四本及高本、流轉に回りて點す。阪本及山本、

一〇

亦然り。

㊁悉・欲、阪本格上に、「或本生死字也」と註す。山本は、本行に生死と書し、餘に嗟愁と朱書せり。

㊂信、延本になし。

一一　❶以・本・願・力・廻・向・故、此句、通途の讀法に異なり。行卷五入頁の㊂參照。

一二　❶又・言、又の字、永前本之を脫す。言の字、常例に依れば曰に作るべし。微決に、下の文二十二願文によりて還相の義を顯はす、至極の要なるが故に編末節本し、經に准じて言の字を用ふるかといふ。

❶即・見・彼・佛、等の三十八字は、論の文を牒するなり。

㊁爭・竟・より・上・地・諸・菩・薩、に至る十九字、永本に脫す。

一三　❶寂・滅・平・等・者・即・此・法・身・菩・薩・所・證の十三字、諸本之なし。恐くは誤脫。但高本、寂廻二本、註によりて之を補ふ。いまと今の如し。縮本冠註に校異をなす。

❶教・化、諸本下に屬して、「一切衆生ヲ教化シ度脫シテ」

と點す。但縮本、寂本の句讀、今の如し。

㊁常、永前本及保本、嘗に作るもの、形誤。

㊂初・諸本、「初メニ」と點す。

㊃想・文本、相に作るもの、形誤。次下の二所亦然り。

㊄作・養・想の三字、永本に脫す。

一四　❶法の下、現流の論註、也の字あり。

㊅未・曆本、末に作るもの、形誤。

㊆作・心の上、現流の註、須の字あり、「要ラズ作心ヲ須キテ三昧ニ入ル」と讀まむ。高本、寂廻二本、須の字を補ふ。

㊇證、現流の註、得に作る。

一五　❶畢の上、現流の註、言の字あり。高本之を補ふ。但し讀點を施さず。

❶待、四本、得に作るもの、形誤。阪本、山本、亦然り。

㊈菩・薩、諸本、皆上の句に屬す。今私に之を改む。

㊉以・漸、諸本、「以テ漸ク」と點す。

乃チ具サニ一日ニ長高ナルコト百丈ナルガ如シ」と點す。但し、縮本、寂廻二本の點、今の如し。此譬もまた論に出づ、六要鈔に具文を引くが如し。其意に依れば、好堅は地中に在ること百歲、枝葉具足す、地上に出生するや、一日に成長すること高十丈なりとなり。今の文を解するに、百歲の下枝葉の二字を加へて見るの說あり。

一八　❶脩、四本、循に作るもの、形誤。阪本及山本亦然り。

❷即・日、現流の論註、即曰に作り、下の句に屬す。寂本、即日に作り、「即チコヽニ」と點す。今の文縮本によりて點ずるか。縮本冠註に校異をなす。

㊁制、諸高二本、阪本、山本、延本、「制ストノタマヘルナリ」と點す。此點に從へば、制は制造の義にして、上の證は證悟の義なり。若し此點の如くせば、制は制可の義にして、上の證は證誠の義とすべし。論註の鎭西說山本、「證セシメ」「制セシメ」と點するもの、證

一九　悟及制可の義とするに似たり。寂本、「證セシメ」「制セシメタマヘルヲ」と點す。

㊐接、永保二本、校。に作るもの、形誤。

㊑可、現流の註になし。謚稿高三本、寂遇二本、之を削る。

㊒略說より應知に至る廿二字、論文を脫す。

❶若爲莊嚴、諸本、「若シ莊嚴ヲ爲シテ」と點するもの穩かならず。但謚本、寂遇二本、藪本の點、今の如し。

❶已、永保厚三本、阪本、山本、「スデニ」と讀むもの、穩かならず。

㊓佛、現流の註になし。文義を案ずるに、此字あるを優れりゝす。

㊔知、現流の註になく、「既ニ三乘具足シテ、應ニ人天ノ大師ト爲ルベキヲ知ンヌ」と點す。寂遇二本、註の文に從ふ。今の文、諸本、「人天ノ師ト爲リテ」と點するもの、解し難し。知の字を存する上は、人天の師の爲に化せらるゝものは誰ぞの意に點ずべし。私に點を改む。

二〇　❶劫、四本、刼。に作るもの、形誤。阪本、山本、亦然り。

❶已、諸本、也。に作る。但寂本及寂遇二本、註の文に從ふて之を改むること、今の如し。

㊖天何より應知に至る三十九字、論文を脫す。

㊗觀察より度說に至る十字、永本に脫す。

㊘檀如、諸本、「檀如ニシテ」と點す。寂遇二本、今の如し。

㊙以一正統之、此句、四本、阪本、山本、「一ヲ以テ正シクヲ統ス」と點す。謚稿二本、寂遇二本、藪本、註の文に從ふこと今の如し。統の字、暦本、殺。に作るもの、形誤。阪本、山本、結。に作る。結の字に關しては、行卷入入頁の㊐卷冊。

㊚何者より治泥華、故に至る六十一字、論文を脫す。

二一　❶化佛普薩日等、此句、四本、阪本、山本、「化佛普薩、八日（暦本、ノ。）須彌ニ住持スルガ如シ」と點す。謚高二本、點なし。此句の意、蓋し世界に徧至すること日の如く、不動なること須彌の如しとの意なれば、今點を改むること、寂本の如くす。

㊐涉、暦本、游。に作るもの、形誤。

㊑導、永本、道。に作るもの、形誤。

㊒暫、現流の註、暫。に作る。

二二　❶華、永前本及保本、等。に作るもの、形誤。

❶二者より諸群生、故に至る七十二字、論文を脫す。

二三　❶無、現流の註になし。

❶三者より分別心、故に至る五十七字、論文を脫す。

㊐照諸佛令等、此句、四本、阪本、山本、「諸佛會ヲ照ス大衆餘ナク」といふもの、穩かならず。

㊑讚、阪本及山本、贊。に作るもの、形略。

㊒雨、文本、雨。に作るもの、形誤。

㊓供養、四本、阪本、山本、下に屬して、「諸佛ノ功德ヲ供養シ說スル」と點す。

二四　❶並應の二字、永保暦三本下に屬して、「並ニ至誠ニ應ズ」といふもの、穩かならず。阪本、山本、亦然り。

❶羅、諸本、「ィヨ〳〵」と訓す。今通本に從ふ。

㊐冥、四本、阪本、山本、欠に从ひ具に从ふは、形誤。

㊑四者より如佛、故に至る五十七字は、論文を脫す。

㊒令解、四本、高本、阪本、山本、下より回りて、「如實ノ修行ヲ解ラシム」と點す。今謚稿二本、寂遇二本に從ふ。

㊓何等世界等、此句、四本、阪本、山本、「何等ノ世界ニカ、佛法功德ノ寶マシマサヾラン」と點するもの、文意に相應せず、今之を改む。謚高二本點なし。

㊔有所不法、諸本、「所トシテ法ナラザルコトアラン」

二五　さ點するもの、意通に雖し。今論註の文に從ふこと、諸本の如し。夫下の有所不善の句、亦同じ。

❶又・白より應知に至る三十九字は、論文を脫す。

❶佛土功德成就莊嚴佛功德成就莊嚴の十五字、永本に脫す。

㊁願心莊嚴、諸本、「願心ノ莊嚴シタマヘリ」に作る。今文本に從ふ。

㊁非無因等、此句の點については、信卷本三四頁の❶參照。

二六　㊁㊁哪說等の八字、論文を脫す。

㊃者、論註の文になし。

❶続、永保層三本、綾に作るもの、形誤。阪本及山本、は綾に作る。行卷八八頁の㊁參照。

㊁一・法句より法身故に至る廿二字は、論文を脫す。

二七　❶知、永保文三本、智に作るもの、形誤。

㊁是の下、保本、之の字あるは、過剩。

二八　㊁知の下、永本、是。故相好莊嚴即法身也無知故能無不知の十七字あるは、過剩。

㊁智、龍谷阪の小本論註、知に作る。今文を優れたりさす。

㊁標、永保層三本、樹に作るもの、形誤。阪本、山本、亦然り。高本、標に作りて、「タツル」の訓を附す。

㊃非・子・非者等の文、古來解し難しさなし、異說多し。姑く現點を存す。進高二本の點、左の如し。

非ヲ非スル者、豈非非ノ能ク是ナランヤ、豈非ヲ無スル、之ヲ是ト曰フ。自ラ是ニシテ待ツコトナキ、復是ニ非ズ。

寂通二本、叢本の點、略右に同じ。

二九　❶此・清・淨等の八字は、論文を脫す。

❶何等より應知に至る九十六字は、論文を脫す。

❶一、文本、三に作るもの、形誤。

❶諸法心成等、四本、阪本、山本、「諸法ハ心ヲシテ無餘ノ境界ヲ成ス」と點するもの、解し難し。

三〇　㊁不得一の三字、諸本之を脫す。進縮高三本、論註に從りて之を補ふこと、今の如し。

❶亦、現流の論註、此字なく、其代りに持。戒。或。戒。皆の五字あり。高本及寂本、亦の上、持。戒。或。戒。の四字を補ふ。通本は論註の如くす。

三一　❶如・是より衆・願・心に至る二十字、論文を脫す。

❶或・或の二字、四本、阪本、山本、上の句に屬して「廣略修行或或シテ、衆願心ナリ」と點す。

㊁願、暦本、願に作り、阪本、山本、願に作る。次の一字亦闕り。

㊁㊁如・實等の七字、論文を脫す。

㊁如・是等の九字、論文を脫す。

❶何・者より通・向・成・就に至る七十七字、論文を脫す。

三二　❶菩薩等の七字、永本に脫す。

㊁說・偈・拜等、此句諸本、「禮拜等ノ五種ノ修行ヲ說テ」と點す。今諸本の點に從ふ。論註の鎭西說山本、下の功德華根より說に回りて點す。

㊁國の下、永保二本、土の字あり。

㊁皆、論註の文、發の字の上に在り。

❶是、論註の文になし。

❶㊁條、永本、遞に作り、保層文三本、阪本、山本、適に作る。進縮高三本、通本、論註の文に從ふこと今の如し。永本及延本、字註なし。

㊁適、諸本、適に作る。但縮本及通本、論註の文に從ふこと今の如し。永本及延本、字註なし。阪本格上に左の註あり。

適チャタ反、他タタ反、暦ヨミ反、排除ノゾクナリ也。

㊁功、四本になし、阪本及山本、亦然り。進縮高三本、通本、註によりて之を補ふこと今の如し。

三五　❶菩薩より自身故に至る四十五字、論文を脫す。

❶二者より衆生心故に至る二十字、論文を脫す。

㊁無安衆生心、諸本直說す。寂通二本、今の如し。